
JD Edwards EnterpriseOne フルフィ ルメント管理 9.0 製品ガイド

2008 年 12月

Copyright © 2003, 2008, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

商標と登録商標について

OracleはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

ライセンス制約の保証と結果的に生じる損害の免責

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

米国特許第5,781,908、5,828,376、5,950,010、5,960,204、5,987,497、5,995,972、5,987,497、6,223,345号により保護されています。その他の特許は申請中です。

保証免責

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

制限付権利

このソフトウェアまたは関連ドキュメントが、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供される場合は、次のNoticeが適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are “commercial computer software” or “commercial technical data” pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

危険な用途への使用について

このソフトウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、このソフトウェアを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことにより起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

第三者のコンテンツ、製品、サービスに対する免責

このソフトウェアおよびドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても、一切の責任を負いかねます。

Contains GNU libgmp library; Copyright © 1991 Free Software Foundation, Inc. This library is free software which can be modified and redistributed under the terms of the GNU Library General Public License.

Includes Adobe® PDF Library, Copyright 1993–2001 Adobe Systems, Inc. and DL Interface, Copyright 1999–2008 Datalogics Inc. All rights reserved. Adobe® is a trademark of Adobe Systems Incorporated.

Portions of this program contain information proprietary to Microsoft Corporation. Copyright 1985–1999 Microsoft Corporation.

Portions of this program contain information proprietary to Tenberry Software, Inc. Copyright 1992–1995 Tenberry Software, Inc.

Portions of this program contain information proprietary to Premia Corporation. Copyright 1993 Premia Corporation.

This product includes code licensed from RSA Data Security. All rights reserved.

This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit (<http://www.openssl.org/>).

This product includes cryptographic software written by Eric Young (ey@cryptsoft.com).

This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com). All rights reserved.

This product includes the Sentry Spelling–Checker Engine, Copyright 1993 Wintertree Software Inc. All rights reserved.

Open Source Disclosure

Oracle takes no responsibility for its use or distribution of any open source or shareware software or documentation and disclaims any and all liability or damages resulting from use of said software or documentation. The following open source software may be used in Oracle's JD Edwards EnterpriseOne products and the following disclaimers are provided:

This product includes software developed by the Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>). Copyright (c) 1999–2000 The Apache Software Foundation. All rights reserved. THIS SOFTWARE IS PROVIDED “AS IS” AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE APACHE SOFTWARE FOUNDATION OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

目次

はじめに

この PeopleBook について	xi
JD Edwards EnterpriseOneアプリケーション導入の事前要件.....	xi
アプリケーションの基礎.....	xi
最新版ドキュメンテーションの入手とドキュメンテーションのダウンロード.....	xii
最新版ドキュメンテーションの入手(英語版のみ).....	xii
ドキュメンテーションのダウンロード.....	xii
追加情報.....	xii
表記規則.....	xiv
表記規則.....	xiv
注意事項の表示.....	xv
国、地域、業種の表記.....	xv
通貨コード.....	xvi
ご意見、ご要望をお寄せください.....	xvi
製品ガイドで使用する共通フィールド.....	xvi

まえがき

オラクル社のJD Edwards EnterpriseOneフルフィルメント管理 – まえがき.....	xix
オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne製品.....	xix
JD Edwards EnterpriseOneアプリケーションの基礎.....	xix

第 1 章

JD Edwards EnterpriseOneフルフィルメント管理 – はじめに.....	1
JD Edwards EnterpriseOneフルフィルメント管理の概要.....	1
JD Edwards EnterpriseOneフルフィルメント管理のビジネス・プロセス.....	3
JD Edwards EnterpriseOneフルフィルメント管理の統合.....	5
JD Edwards EnterpriseOneフルフィルメント管理の導入.....	7
グローバル導入の手順.....	8
受注管理用の導入手順.....	8
アプリケーション別導入手順.....	9

第 2 章

JD Edwards EnterpriseOneフルフィルメント管理システムの設定.....	11
--	----

JD Edwards EnterpriseOneフルフィルメント管理システムの設定について.....	11
JD Edwards EnterpriseOneフルフィルメント管理システムの有効化.....	11
JD Edwards EnterpriseOneフルフィルメント管理の有効化について.....	11
JD Edwards EnterpriseOneシステムへの設定データの挿入.....	12
フルフィルメント管理の有効化に使用するフォーム.....	13
フルフィルメント管理の有効化.....	13
フルフィルメント管理の設定プログラム (R4277706) の実行.....	14
フルフィルメント管理の設定の実行.....	14
JD Edwards EnterpriseOneフルフィルメント管理の詳細優先情報の設定.....	14
詳細優先情報について.....	15
フルフィルメント管理の詳細優先情報の設定に使用するフォーム.....	17
優先定義の設定.....	17
優先スケジュールの設定.....	19
優先詳細の設定.....	20
フルフィルメント・エントリ (41) の優先詳細値の設定.....	20

第 3 章

フルフィルメント処理へのオーダーの入力.....	23
JD Edwards EnterpriseOneフルフィルメント管理システムによる受注オーダー処理について.....	23
受注オーダー入力時のフルフィルメント処理.....	23
フルフィルメント処理とJD Edwards EnterpriseOne在庫管理.....	26
フルフィルメント処理とJD Edwards EnterpriseOne内示調整管理.....	29
フルフィルメント処理とJD Edwards EnterpriseOne輸送管理.....	30
フルフィルメント処理とJD Edwards EnterpriseOne倉庫管理.....	31
フルフィルメント処理とOracle Transportation Management.....	32
フルフィルメント・オーダーを処理するための受注オーダー入力 (P4210) の設定.....	32
受注オーダーの見出しと明細情報の入力に使用するフォーム.....	33
受注オーダー入力 (P4210) の処理オプション.....	33
フルフィルメント・エントリ・バッチ処理プログラム (R4277704) の実行.....	37
フルフィルメント・エントリ・バッチ処理プログラムの実行.....	37
フルフィルメント・エントリ・バッチ処理 (R4277704) の処理オプションの設定.....	37

第 4 章

オーダー明細行のスコア.....	39
オーダー明細行のスコアについて.....	39
顧客優先順位の設定.....	40
顧客優先順位について.....	40
顧客優先順位の設定に使用するフォーム.....	41

顧客優先順位の設定.....	41
詳細優先情報スコア詳細の設定.....	42
詳細優先情報スコアについて.....	42
詳細優先情報スコア詳細の設定に使用するフォーム.....	44
オーダー・タイプ優先度(42)の優先詳細値の設定.....	44
行タイプ優先度(43)の優先詳細値の設定.....	45
要求経過日数優先度(44)の優先詳細値の設定.....	46
基本スコア情報の設定.....	48
基本スコア割当てについて.....	48
基本スコア情報の設定に使用するフォーム.....	49
基本スコア情報の設定.....	49
受注オーダー・スコア・バッチ処理プログラム(R4277702)の実行.....	50
受注オーダー・スコア・バッチ・スコア算出の実行.....	50
フルフィルメント一括スコア算出(R4277702)の処理オプションの設定.....	50

第 5 章

サービス・レベル・ルールの設定と処理.....	53
サービス・レベル・ルールの設定.....	53
サービス・レベル・ルールについて.....	53
サービス・レベル・ルールの設定に使用するフォーム.....	58
サービス・レベル・ルールの設定.....	58
受注オーダー入力時のサービス・レベル・ルールの処理.....	60
受注オーダー入力時のサービス・レベル・ルールの処理について.....	61
サービス・レベル・ルールの解決.....	62
サービス・レベル・ルールの一時変更処理.....	62
サービス・レベル見出し情報の動的な一時変更.....	63
要求されたオーダー数量の更新.....	63
サービス・レベル・ルールの処理.....	63
サービス・レベル・ルール評価必須フラグ.....	64
サービス・レベル・ルール見出しおよび明細テーブルの更新.....	65
サービス・レベル・ルールの更新(R4277705)の実行.....	66
バッチ・サービス・レベル・ルールの処理プログラムの実行.....	67
サービス・レベル・ルールの更新(R4277705)の処理オプションの設定.....	67
サービス・レベル・ルールの一時変更.....	68
サービス・レベル・ルールの一時変更について.....	69
サービス・レベル・ルールの一時変更に使用するフォーム.....	70
サービス・レベル・ルールの一時変更.....	70

第 6 章

自動フルフィルメント処理	73
自動フルフィルメント処理について.....	73
充当ルールの設定.....	76
充当ルールについて.....	76
充当ルールの設定に使用するフォーム.....	79
充当ルールの設定.....	79
充当丸めの設定.....	80
充当丸めについて.....	80
充当丸めの設定に使用するフォーム.....	81
充当丸め(45)の優先詳細値の設定.....	81
自動フルフィルメント処理プログラム(R4277701)の実行.....	82
自動フルフィルメント処理の実行.....	82
「自動フルフィルメント処理」(R4277701)の処理オプションの設定.....	82
自動フルフィルメント・ロード・バランス・プログラム(R4277711)の実行.....	83
自動フルフィルメント・ロード・バランスの実行.....	84
自動フルフィルメント・ロード・バランス(R4277711)の処理オプションの設定.....	84
フルフィルメント計画IDの除去プログラム(R4277710)の実行.....	84
フルフィルメント計画IDの除去の実行.....	85

第 7 章

フルフィルメント・ワークベンチの使用	87
フルフィルメント・ワークベンチについて.....	87
フルフィルメント・ワークベンチ・プログラム(P4277701)の処理オプションの設定.....	88
フルフィルメント・ワークベンチの使用方法.....	90
フルフィルメント管理ワークベンチの操作に使用するフォーム.....	91
充当情報の確認.....	91
充当情報の編集.....	93

第 8 章

フルフィルメントからのオーダー行のリリース	97
フルフィルメントからのリリースについて.....	97
フルフィルメント・メッセージ通知について.....	98
フルフィルメント・メッセージ通知の設定.....	98
メッセージ通知の設定に使用するフォーム.....	98
メッセージ通知(35)の優先詳細値の設定.....	98
フルフィルメントからのリリース・プログラム(R4277703)の実行.....	100
フルフィルメントからのリリース・プログラムの実行.....	100

フルフィルメントからのリリース (R4277703) の処理オプションの設定.....100

付録 A

スコア算出の例.....103

基本スコアの例.....103

詳細優先スコア.....105

JD Edwards EnterpriseOne用語集..... 109

索引125

この PeopleBook について

JD Edwards EnterpriseOne製品ガイドでは、オラクル社のJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションの導入と使用に必要な情報が提供されています。

この章では、次の内容について説明します。

- JD Edwards EnterpriseOneアプリケーション導入の事前要件
- アプリケーションの基礎
- 最新版ドキュメンテーションの入手とドキュメンテーションのダウンロード
- 追加情報
- 表記規則
- ご意見、ご要望について
- 製品ガイドで使用する共通フィールド

注意: 製品ガイドでは、追加の説明が必要な場合のみ、フィールドやチェックボックスなどの説明を記載しています。処理や業務の説明箇所に、そこで使用されるフィールドの説明がない場合は、追加の説明が必要ないか、または、項、章、製品ガイド全体、製品ライン全体で使用される共通フィールドとして説明されています。すべてのJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションで共通して使用されるフィールドは、この章で説明します。

JD Edwards EnterpriseOneアプリケーション導入の事前要件

このガイドの内容を十分に理解して活用するには、JD Edwards EnterpriseOneアプリケーションの基本的な使い方を熟知している必要があります。

また、少なくとも1つの入門トレーニング・コースを修了することをお勧めします。

この製品ガイドでは、ユーザーがJD Edwards EnterpriseOneのメニューやフォーム、ウィンドウを使用して、アプリケーションを操作したり、情報を追加、更新、削除したりできることを前提としています。また、Webブラウザと、Microsoft WindowsまたはWindows NTの操作に習熟していることも必要です。

これらの製品ガイドでは、JD Edwards EnterpriseOneアプリケーションを効果的に導入および使用するために必要な情報を提供します。そのため、アプリケーションの操作手順など基本的な説明は省略されています。

アプリケーションの基礎

各アプリケーションの製品ガイドでは、それぞれのJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションを導入して使用するための情報を提供しています。

一部のアプリケーションでは、システムの設定や設計に必要な基本情報は、このガイドの姉妹編ともいえるアプリケーションの基礎製品ガイドに記載されています。ほとんどの製品ラインには、アプリケーションの基礎製品ガイドが用意されています。それぞれの製品ガイドのまえがきの章に、関連するアプリケーションの基礎製品ガイドの情報が記載されています。

アプリケーションの基礎製品ガイドで取り上げている項目は、どのJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションにも当てはまる、あるいはその多くに共通する重要なものです。JD Edwards EnterpriseOneシステムを導入する際は、製品ラインの中から1つのアプリケーションだけを導入する場合でも、いくつかのアプリケーションを組み合わせで導入する場合でも、あるいは製品ライン全体を導入する場合でも、アプリケーションの基礎製品ガイドに書かれている内容を十分に理解しておく必要があります。このガイドの内容が、アプリケーションの導入に着手する出発点となります。

最新版ドキュメンテーションの入手とドキュメンテーションのダウンロード

この項では、次の方法について説明します。

- 最新版ドキュメンテーションの入手（英語版のみ）
- ドキュメンテーションのダウンロード

最新版ドキュメンテーションの入手（英語版のみ）

本リリースおよび旧リリースの最新版および追加ドキュメンテーションは、オラクル社のPeopleSoft Customer Connection Webサイトから入手できます。オラクル社のPeopleSoft Customer ConnectionのDocumentationセクションから、ファイルをダウンロードして製品ガイド・ライブラリに追加することができます。このセクションでは、CD-ROMで提供されているすべてのJD Edwards EnterpriseOneドキュメンテーションに対する更新事項など、最新かつ有益な資料が提供されます。

重要: アップグレードを行う際は、その前にオラクル社のPeopleSoft Customer Connectionサイトで、アップグレードに関する最新情報があるかどうかを確認してください。オラクル社では、アップグレード手法の向上に伴い、常に最新の情報を掲載するようにしています。

関連項目:

オラクル社のPeopleSoft Customer Connection: http://www.oracle.com/support/support_peoplesoft.html

ドキュメンテーションのダウンロード

すべてのJD Edwards EnterpriseOneドキュメンテーションは、CD-ROMで提供されているだけでなく、オラクル社のWebサイトでも提供されています。Oracle Technology Networkから、PDF版のJD Edwards EnterpriseOneドキュメンテーションをダウンロードできます。PDFファイルは、ソフトウェアの出荷後すぐにメジャー・リリース別にオンラインで提供されます。

参照: Oracle Technology Network: <http://www.oracle.com/technology/documentation/psftent.html>

追加情報

オラクル社のPeopleSoft Customer Connection Webサイトから、次の情報を入手できます。

情報	ナビゲーション
アプリケーションのメンテナンス情報	「Updates + Fixes」
ビジネス・プロセス図	「Support」、「Documentation」、「Business Process Maps」
インタラクティブ・サービス・リポジトリ	「Support」、「Documentation」、「Interactive Services Repository」
ハードウェア要件とソフトウェア要件	「Implement, Optimize + Upgrade」、「Implementation Guide」、「Implementation Documentation and Software」、「Hardware and Software Requirements」
インストール・ガイド	「Implement, Optimize + Upgrade」、「Implementation Guide」、「Implementation Documentation and Software」、「Installation Guides and Notes」
統合情報	「Implement, Optimize + Upgrade」、「Implementation Guide」、「Implementation Documentation and Software」、「Pre-Built Integrations for PeopleSoft Enterprise and JD Edwards EnterpriseOne Applications」
最低要件	「Implement, Optimize + Upgrade」、「Implementation Guide」、「Supported Platforms」
最新版ドキュメンテーション	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」
製品ガイド・サポート・ポリシー	「Support」、「Support Policy」
プレリリース・ノート	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」、「Category」、「Release Notes」
製品出荷予定	「Support」、「Roadmaps + Schedules」
リリース・ノート	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」、「Category」、「Release Notes」
リリース・バリュープロポジション	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」、「Category」、「Release Value Proposition」
製品概要	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」、「Category」、「Statement of Direction」
トラブルシューティング情報	「Support」、「Troubleshooting」
アップグレード関連のドキュメンテーション	「Support」、「Documentation」、「Upgrade Documentation and Scripts」

表記規則

ここでは、次の事項について説明します。

- 表記規則
- 注意事項の表示
- 国、地域、業種の表記
- 通貨コード

表記規則

製品ガイドは、次の表記規則に従って記述されています。

表記規則	説明
太字	PeopleCodeの関数名、メソッド名、言語要素や、関数呼び出しでそのまま記述すべきPeopleCodeの予約語は太字で記述しています。
斜体	PeopleCodeの構文で、プレースホルダとなる引数部分は斜体になっています。
キー+キー	キーを組み合わせて使う操作を示しています。キー名とキー名の間にプラス記号がある場合は、最初のキーを押しながら2番目のキーを押すという意味です。たとえば、[Alt]+[W]は、[Alt]キーを押しながら[W]キーを押すことを表します。
固定幅のフォント	PeopleCodeのプログラムや、その他のコードの例の表記には、この固定幅のフォントを使用しています。
... (省略記号)	PeopleCodeの構文で、先行要素の任意の繰り返しを示します。
{ } (中かっこ)	PeopleCodeの構文で、2つの選択肢のうちいずれか一方を選択することを示します。選択肢は縦棒()で区切られています。
[] (角かっこ)	PeopleCodeの構文で、省略できる要素を示します。
& (アンパサンド)	PeopleCodeの構文で、アンパサンドが頭に付いたパラメータはインスタンス化されたオブジェクトであることを示します。 また、PeopleCodeの変数は必ずアンパサンドが頭に付きます。

注意事項の表示

表記規則

注意

JD Edwards EnterpriseOneシステムを使って作業するときの注意事項が書かれています。

注意: 注意事項は、このような形式で示しています。

システムが正しく機能するために必ず守っていただきたい大切な事柄は、“重要:”と示されています。

重要: 重要な注意事項は、このような形式で示しています。

警告

システムの導入にあたって、特に注意しなければならない重要な事柄は、“警告:”と示されています。“警告:”と書かれた部分には十分な注意を払ってください。

警告: 警告は、このような形式で示しています。

相互参照

相互参照は、“参照”または“関連項目”という形で示しています。通常は、それぞれの説明の後に、その内容に関連する他のドキュメンテーションが示されています。

国、地域、業種の表記

特定の国、地域、業種にのみ関連する情報については、国や地域名などをかっこ書きで付記して示しています。このような国や地域の表示は、通常は項の見出しに付記されますが、注意事項などに付記されることもあります。

特定の国を対象とした見出しの例: 「(FRA)従業員の採用」

特定の地域を対象とした見出しの例: 「(中南米)減価償却の設定」

国の表記

国際標準化機構(ISO)が定める国コードを使って表記しています。

地域の表記

地域を表す名称で表記しています。以下に例を示します。

- アジア太平洋
- ヨーロッパ
- 中南米
- 北米

業種の表記

業種を表す名称か略称を使用して表記しています。以下に例を示します。

- USF(米国連邦政府)

- E&G(教育/公的機関)

通貨コード

金額はISOが定める通貨コードを使って表記しています。

ご意見、ご要望をお寄せください

お客様のご意見は非常に貴重です。製品ガイドおよびその他のオラクル社の参考資料やトレーニング・ガイドについて、変更のご希望がございましたら、ぜひご一報ください。日本オラクル株式会社WPTG-Japanのランゲージ・マネージャまで、ご意見、ご要望をお寄せください(宛先: 〒107-0061 東京都港区北青山2-5-8 オラクル青山センター)。電子メール(etsjpn_us@oracle.com)でも受け付けております。

いただいた電子メールすべてにご返答のできない場合もありますが、弊社では皆様のご意見やご要望に留意し、貴重な情報として今後の参考にさせていただきます。

製品ガイドで使用する共通フィールド

住所録番号

エンティティのマスター・レコードを識別する固有の番号を入力します。住所録番号は、顧客、仕入先、会社、従業員、応募者、加入者、テナントなどのIDとして使用できます。アプリケーションによっては、フォーム上の住所録番号フィールドが、顧客番号、仕入先番号、会社番号、従業員ID、応募者ID、加入者番号などに相当する場合もあります。

仮定通貨コード

取引金額の表示に使用される通貨を指定する3文字のコードを入力します。このコードを指定することにより、取引の入力時に実際に使用された通貨ではなく、指定した通貨に基づいて取引金額を参照することができます。

バッチ番号

システムによって処理される取引のグループを識別する番号が表示されます。入力フォームでは、ユーザーがバッチ番号を割り当てるか、または自動採番プログラム(P0002)を使用して自動的に割り当てることができます。

バッチ日付

バッチが作成される日付を入力します。このフィールドを空白のままにすると、システム日付がバッチ日付として使用されます。

バッチ状況

バッチの転記状況を示すユーザー定義コード(UDC)テーブル(98/1C)のコードが表示されます。値は次のとおりです。

空白: バッチは転記されず、承認が保留状態になります。

A: バッチにエラーがなく転記が承認されますが、保留状態でまだ転記されていません。

D: バッチが正常に転記されています。

E: バッチにエラーが発生しました。転記の前にエラーを修正する必要があります。

P: バッチの転記処理中です。転記処理が完了するまで、バッチにアクセスすることはできません。転記中にエラーが発生した場合は、バッチ状況コードがEに変更されます。

	U: 別のユーザーがバッチを操作中のため一時的に使用できないか、またはバッチの処理中に停電があったため、バッチが使用中と認識されています。
事業所	倉庫、作業、プロジェクト、作業場、支店、工場など、配送業務や製造業務が行われる場所や単位を表すコードを入力します。システムによっては、ビジネスユニットと呼ばれる場合もあります。
ビジネスユニット	原価のトラッキング対象となる個々の事業単位を表す英数字のコードを入力します。システムによっては、事業所と呼ばれる場合もあります。
カテゴリ・コード	特定のカテゴリ・コードを表すコードを入力します。カテゴリ・コードはユーザー定義コードの1つで、各組織の情報追跡(トラッキング)やレポートの要件に合わせてカスタマイズできます。
会社	特定の企業、組織、団体などを識別するコードを入力します。会社コードはF0010テーブルにすでに存在しており、完全な貸借対照表を持つ法人に対応する必要があります。
通貨コード	取引の通貨を表す3文字のコードを入力します。JD Edwards EnterpriseOneでは、国際標準化機構(ISO)が定める通貨コードを使用しています。通貨コードは、F0013テーブルに定義されています。
伝票会社	<p>伝票に関連付けられている会社番号を入力します。この番号は、伝票番号、伝票タイプ、元帳日付とあわせて使用され、当初伝票を一意に識別します。</p> <p>会社と会計年度別に次の番号を割り当てる場合は、伝票会社に基づいて、該当する会社に正確な“次の番号”が割り当てられます。</p> <p>2つ以上の当初伝票が同じ伝票番号と伝票タイプを持つ場合は、伝票会社を使用して必要な伝票を表示できます。</p>
伝票番号	伝票、請求書、仕訳、タイム・シートなどの当初伝票を識別する番号が表示されます。入力フォームでは、ユーザーが当初伝票番号を割り当てるか、または自動採番プログラムを使用して自動的に割り当てることができます。
伝票タイプ	<p>ユーザー定義コード・テーブル(00/DT)に定義された、取引の発生元と目的を表す2文字のユーザー定義コード(伝票、請求書、仕訳、タイム・シートなど)を入力します。JD Edwards EnterpriseOneでは、伝票タイプ用に次のプレフィックスが予約されています。</p> <p>P: 買掛金伝票 R: 売掛金伝票 T: 時間および給与伝票 I: 在庫伝票 O: 購買オーダー伝票 S: 受注オーダー伝票</p>
有効日付	<p>住所、品目、取引、またはレコードがアクティブになる日付を入力します。このフィールドの意味は、プログラムによって異なります。たとえば、有効日付で次の日付を表すことができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 住所の変更が有効になる日付 • 賃貸契約が有効になる日付

- 価格が有効になる日付
- 為替レートが有効になる日付
- 税率が有効になる日付

会計期間、会計年度

元帳で使用される会計期間および会計年度を示す数値を入力します。多くのプログラムでは、このフィールドを空白のままにできます。その場合、会社名および番号プログラム(P0010)で定義された現在の会計期間と会計年度が使用されます。

元帳日付

取引を転記する会計期間を特定する日付を入力します。取引で入力した日付と会社に割り当てられた会計期間パターンが比較されて、適切な会計期間番号と会計年度が取得されると同時に、日付検証が実行されます。

オラクル社のJD Edwards EnterpriseOneフル フィルメント管理 – まえがき

この章では、次の内容について説明します。

- JD Edwards EnterpriseOne製品
- JD Edwards EnterpriseOneアプリケーションの基礎

オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne製品

この製品ガイドには、次のJD Edwards EnterpriseOne製品が関連しています。

- JD Edwards EnterpriseOne住所録
- JD Edwards EnterpriseOne価格管理
- JD Edwards EnterpriseOne EDIデータ・インターフェイス
- JD Edwards EnterpriseOne内示調整管理
- JD Edwards EnterpriseOne在庫管理
- JD Edwards EnterpriseOne受注管理
- JD Edwards EnterpriseOne輸送管理
- JD Edwards EnterpriseOne倉庫管理

JD Edwards EnterpriseOneアプリケーションの基礎

システムの設定や設計に必要な基本情報は、このガイドの姉妹編に記載されています。

- JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理 9.0 製品ガイド
- JD Edwards EnterpriseOne 受注管理 9.0 製品ガイド

JD Edwards EnterpriseOneの最低要件に記載されているとおりに、リリースでサポートされているプラットフォームに準拠する必要があります。また、JD Edwards EnterpriseOneは、オラクル社の他の製品と統合、連結または連携する場合があります。オラクル社の様々な製品の互換性を確保するため、プログラムの事前設定やバージョンの相互参照マニュアルについて<http://oracle.com/contracts/index.html>のプログラム・ドキュメンテーションにある相互参照資料を参照してください。

第 1 章

JD Edwards EnterpriseOneフルフィルメント管理 – はじめに

この章では、JD Edwards EnterpriseOneフルフィルメント管理の概要と次の内容について説明します。

- JD Edwards EnterpriseOneフルフィルメント管理のビジネス・プロセス
- JD Edwards EnterpriseOneフルフィルメント管理の統合
- JD Edwards EnterpriseOneフルフィルメント管理の導入

JD Edwards EnterpriseOneフルフィルメント管理の概要

JD Edwards EnterpriseOneフルフィルメント管理は、企業が製品のオーダーの一部を充当できないという状況に対処します。企業では、製品の供給が需要を下回っていたり、需要がわかるまで生産計画を立てられないことがあります。フルフィルメント管理は、生産工程にばらつきがある場合にも役に立ちます。フルフィルメントの遂行に関して、企業は、顧客との間に契約条件やサービスレベルを設定します。これらの規則には、行やオーダーの充当率、出荷数、受注残の取消規約などが含まれます。

JD Edwards EnterpriseOneフルフィルメント管理システムの目的は、顧客と合意した基準に基づいてオーダーを充当することです。JD Edwards EnterpriseOneフルフィルメント管理システムは、ユーザーが設定した基準に基づいてオーダーを充当します。これによって、次のことが可能です。

- 優先オーダーのスコアを生成し、受注残と引当可能な在庫を突き合わせる。
- サービス・レベル・ルールを使用して顧客オーダーの充当率を定義し、オーダーをリリースする前に、決められた充当率に確実に遵守する。
- 規則に基づいて在庫をオーダーに充当するプロセスを自動化して導入する。
- 充当数量を確認して必要があれば変更する。

JD Edwards EnterpriseOneフルフィルメント管理システムは、引当可能在庫の問題のために発生するバックオーダーを大幅に低減するか、または完全になくします。フルフィルメント管理システムでは、オーダーがフルフィルメントからリリースされてから、ハード・コミット、ピッキング、出荷までの間に、在庫引当可能数量の変動が非常に少なくなることが期待できます。

機能

次の表は、JD Edwards EnterpriseOneフルフィルメント管理の機能を示します。

機能	説明
オーダー行の選択	フルフィルメント処理に入力するオーダー行のタイプを設定できます。
スコア	基本スコアまたは詳細優先情報のスコアを使用して、フルフィルメント処理で使用するオーダー行のスコアを決定できます。
サービス・レベル・ルール	サービス・レベル・ルールを設定することにより、顧客に対してどのように在庫を充当するかを指定できます。サービス・レベル・ルールを一時変更することもできます。
規則の評価	規則評価フラグを使用して、オーダー行のサービス・レベル・ルールの要件の適合状況に影響する部品変更が発生したかどうかを自動判定されます。このフラグによって、受注オーダーの更新時に発生する変更を確認できます。
自動フルフィルメント	スコアまたは他の事前に定義された基準に基づいて在庫を受注残に割り当てるバッチ処理を実行できます。ビジネス・ニーズにあわせて、自動フルフィルメント処理プログラム(R4277701)を定期的に行うようにスケジュールすることができます。
充当ルール	スコアと在庫レベルに基づいて規則を設定することにより、在庫の割当方法を指定できます。
自動フルフィルメント・ロード・バランサ	ユーザーが指定する自動フルフィルメント処理の同時実行数に基づいて、処理対象として選択された受注オーダー行が均等に分割されます。
フルフィルメント・ワークベンチ	フルフィルメント・ワークベンチは、受注オーダー行に割り当てられた在庫の対話形式による調整を可能にします。
フルフィルメントからのリリース	オーダー行を受注オーダー処理の次のステップに移す前に、すべての規則が満たされているか検証されます。
未充当通知	数量が未充当の場合に、通知メッセージを送信するようにシステムを設定できます。

利点

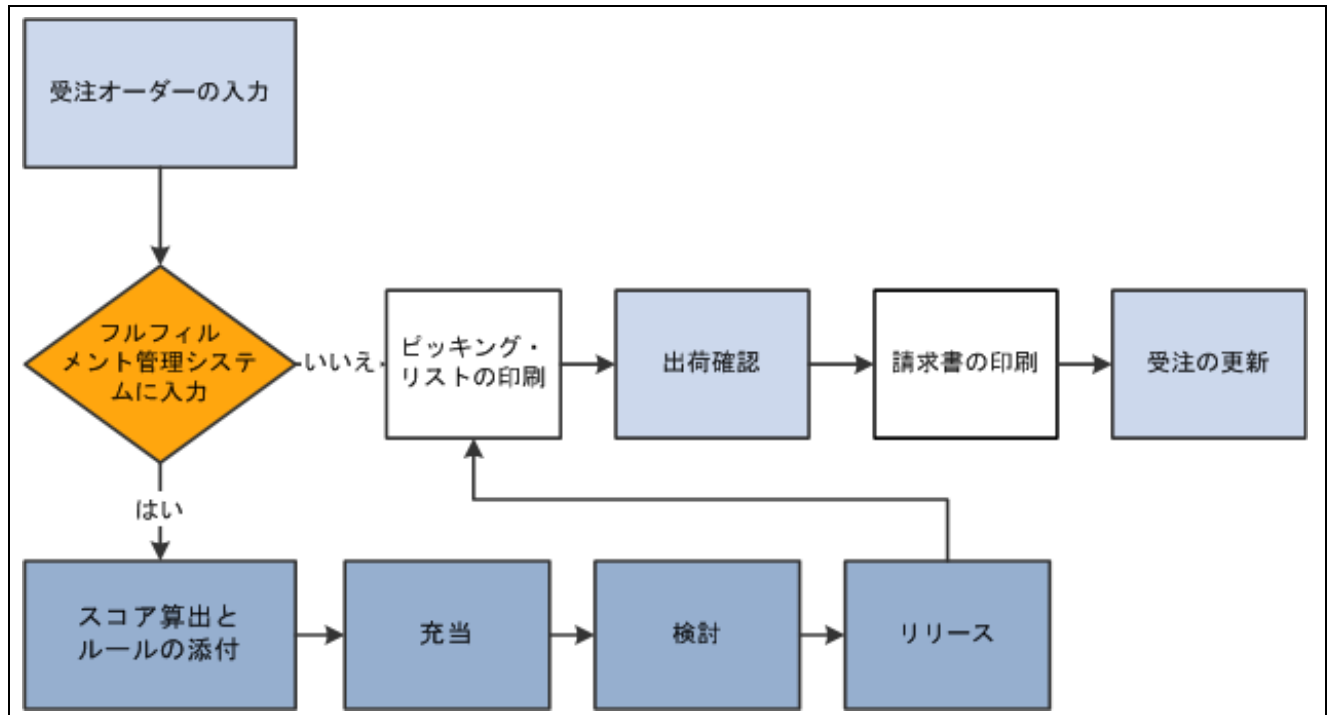
JD Edwards EnterpriseOneフルフィルメント管理システムは業務の改善を促進し、供給の管理やカスタマ・サービスの向上、管理費の削減に役立ちます。

次の表は、JD Edwards EnterpriseOneフルフィルメント管理システムを使用する利点を業務分野ごとに分類したものです。

業務分野	利点
供給管理	<ul style="list-style-type: none"> 受注オーダー行の優先順位を設定する。受注オーダー行の優先順位の設定基準により、在庫の割当方法が決まり、品目の供給を管理する能力が向上します。 優先順位とサービス・レベル・ルールに基づいて在庫を割り当てる。 在庫レベルに基づいて一部数量を割り当てる。 未処理残数を取り消す。 各受注オーダー行を、受注オーダー・フルフィルメントのサイクルを通じて別々のパスに従わせることができる。 充当ルールを使用して、受注オーダー行のスコアと品目の安全在庫レベルに基づいて在庫を割り当てることができる。 在庫の割当がより柔軟になり、限られた供給品目の効率的な管理が可能になる。
カスタマ・サービス	<ul style="list-style-type: none"> 優先顧客に対してオーダーおよび行の充当率が向上する。スコアによって、5つの要素に基づいて顧客の受注オーダー行を優先順位の高い順に整理することができます。 目標とするサービス・レベルを確実に達成する。 優先顧客に対するオーダー遅延を低減する。 バックオーダーおよび売上の損失を削減する。 標準サービス・レベル・ルールの一時的変更理由をトラッキングする。 引当在庫によるバックオーダーと売上の損失を削減して、顧客満足度を高める。 在庫品目およびキット親品目の受注オーダー行への在庫の割当を対話形式で改訂できるという柔軟性によって、顧客満足度を高める。 受注オーダーのフルフィルメント・サイクル中にサービス・レベル契約情報を確実に適用する。 オーダーのフルフィルメント状況について早めに打ち合わせることで、顧客満足度を高める。
管理費	<ul style="list-style-type: none"> 充当率を自動的に確実に適用する。 費用のかかる違反金および罰金を削減する。 規則に基づいて未処理残数を自動的に取り消す。 リリース回数(出荷)を確実に適用することで、配送費を削減する。 管理タスクを合理化し、サービス・レベル情報を集中管理して規則を受注オーダーのフルフィルメント・サイクルに統合することで、遵守できなかった場合の違反金を削減する。

JD Edwards EnterpriseOneフルフィルメント管理のビジネス・プロセス

次の図は、JD Edwards EnterpriseOneフルフィルメント管理のビジネス・プロセスを表しています。



フルフィルメント管理のビジネス・プロセスを示す図

標準の受注オーダー管理プロセスには、次の5つの手順が含まれます。

1. 受注オーダーの入力
2. ピッキング・リストの印刷
3. 出荷の確認
4. 請求書の印刷
5. 受注の更新

通常は受注オーダーを入力する際に、品目の引当可能数量チェックが実行されてから、在庫が品目に引き当てられます。引当可能数量チェックは受注オーダーの入力時に発生するため、先入先出モデルを使用して在庫が引き当てられます。JD Edwards EnterpriseOneフルフィルメント管理システムを使用すると、受注オーダー入力時の引当可能数量チェックを回避して、在庫に対するソフト・コミットを遅らせることができます。フルフィルメント処理は、受注オーダーの下流工程に影響を与えることなく、受注管理プロセス内でシームレスに統合されています。

フルフィルメント処理にも5つの手順があります。

1. 選択。詳細優先情報41(フルフィルメント・エントリ)の設定に基づいて、受注オーダー行がフルフィルメント・プロセスに投入されるかどうかが決まります。受注オーダー行がフルフィルメント・プロセスに投入されるかどうかを決定する要素には、伝票タイプ、品目、品目グループ、顧客、顧客グループがあります。

注意: 詳細優先情報41で設定しないかぎり、一部のオーダー行はフルフィルメント・プロセスには投入されません。

2. スコア算出とルールの添付。ユーザー定義の設定に基づいて、スコアをオーダー行に割り当てます。スコアによって、フルフィルメントの優先順位が決定しやすくなります。スコア算出はプロセスの任意の手順です。

オーダーのスコアを算出するには、2つの方法があります。詳細優先情報を設定してスコアの加重値を計算するか、基本スコアを使用して優先順位を割り当てます。

3. 充当。自動化されたプロセスによって、設定した優先順位の基準に基づいて引当可能な在庫をオーダーに割り当てます。

充当プロセスは対話形式で行えます。実行する計画が決まるまで、同じオーダーにプロセスを複数回実行できます。

4. 検討。システムで生成されたフルフィルメント計画を対話形式で確認し、必要に応じて変更できます。
5. リリース。このバッチ処理は、行を受注オーダー処理の次のステップ(ピッキング・リストの印刷など)に移動します。オーダー行が完全に充当されない場合、ユーザー定義の連絡先に通知されます。

JD Edwards EnterpriseOneフルフィルメント管理システムによって、品目の引当可能数量が限られているために発生するバックオーダーが大幅に削減されるか、または完全になくなります。このシステムは、受注オーダーを倉庫に送ってピッキングと出荷処理に進める前に在庫の引当を処理することを目的としています。理想的には、オーダー行がフルフィルメントからリリースされて倉庫で処理された時点から品目引当可能数量のばらつきが抑えられることになります。

JD Edwards EnterpriseOneフルフィルメント管理の統合

JD Edwards EnterpriseOneフルフィルメント管理は、次のJD Edwards EnterpriseOne製品と統合されています。



JD Edwards EnterpriseOneフルフィルメント管理システムの統合を示す図

顧客の需要を確実に満たすために、JD Edwards EnterpriseOneフルフィルメント管理システムは他の流通管理システムやロジスティクス・システムと連携しています。顧客の需要を満たすためには、需要と供給をより正確に把握する必要があります。これは、各システムを効果的に連携させ、流通およびロジスティクス情報を積極的に活用することにより実現できます。

JD Edwards EnterpriseOne住所録

オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne住所録システムには、顧客の最新情報(たとえば、住所、連絡先情報、電話番号、ファックス番号、請求指示、デフォルトの出荷および請求情報など)が保存されます。

JD Edwards EnterpriseOne価格管理

JD Edwards EnterpriseOne価格管理では、顧客と品目をグループ化することによって、様々な市場部門と製品ラインを包括できます。したがって、品目別や顧客別に調整を定義する必要はありません。価格グループは、顧客別、品目別、顧客グループ別、または品目グループ別に定義できます。また、販売先、出荷先、親住所によって顧客を識別できます。

JD Edwards EnterpriseOne EDIデータ・インターフェイス

JD Edwards EnterpriseOne EDIデータ・インターフェイス(コード47)は、JD Edwards EnterpriseOneシステムからデータを出し入れするための経路保管場所として機能します。EDIデータをやり取りするほか、ファイルに基づくインターフェイスがビジネス要件に見合う場合は、このデータ・インタフェースを一般的なインタオペラビリティおよび電子商取引用に使用できます。

JD Edwards EnterpriseOne内示調整管理

JD Edwards EnterpriseOne内示調整管理システムは、顧客と仕入先間の出荷スケジュールおよび生産スケジュールに対する要求の管理に使用します。確定需要要求または計画需要要求によって、出荷の正味オーダー情報を受信、解釈、検証、予測したり、仕入先または顧客に出荷明細を自動的に伝達することができます。システムでは、顧客から仕入先に伝送されるEDI伝票を使用して情報の解釈と受信が行われた後、適切な内示調整管理テーブルに情報が移入され、受注オーダーのレコードと予測が作成されます。このような情報をすべて管理するために、内示調整管理システムを設定します。

JD Edwards EnterpriseOne在庫管理

オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne在庫管理システムは、JD Edwardsフルフィルメント管理、受注管理、調達管理、製造管理、Supply Chain Managementの各システムの品目情報を保存します。JD Edwards EnterpriseOne在庫管理では、売上原価、購買原価、保管場所別の引当可能数量も保存され、販売に使用できない保管場所にある保留品もトラッキングされます。在庫評価や棚卸差異、移動による変更があると、総勘定元帳が更新されます。

JD Edwards EnterpriseOne受注管理

JD Edwards EnterpriseOne受注管理システムを使用してオーダー・テンプレート、定期オーダーまたは一括オーダーを作成することで、顧客サービスを強化できます。また、受注管理システムは次の情報のオンライン表示を通じて顧客サービスをさらに支援します。

- 関連オーダー、在庫、輸送、財務情報
- 販売促進や値引、割当などを適用する場合の製品ラインごとの正味収益性

JD Edwards EnterpriseOne輸送管理

運送業者と出荷の機能を持たせるために、JD Edwards EnterpriseOne受注管理システムとJD Edwardsフルフィルメント管理システムを、オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne輸送管理システムと統合できます。

JD Edwards EnterpriseOne倉庫管理

JD Edwards EnterpriseOne倉庫管理は、製造および流通プロセスの重要な部分です。他のJD Edwards EnterpriseOneシステムと連携して、企業が生産および出荷する在庫や製品を管理します。

JD Edwards EnterpriseOneフルフィルメント管理の導入

この項では、JD Edwards EnterpriseOneフルフィルメント管理システムをグローバルで導入するために必要な手順を列記します。また、受注管理システム用の手順およびアプリケーション固有の手順も示します。

他の情報源

導入の計画段階では、インストール・ガイドやトラブルシューティング情報など、オラクル社が提供するすべての情報を活用してください。『このPeopleBookについて』や『この製品ガイドについて』のまえがきの章では、参考となるリソースの一覧が提供されています。また、各リソースの最新バージョンの掲載場所についても記載があります。

JD Edwards EnterpriseOneフルフィルメント管理について、どのESU(電子ソフトウェア更新)をインストールするかを決める際は、EnterpriseOne and World Change Assistantを使用します。JavaベースのツールであるEnterpriseOne and World Change Assistantを使用すると、必要となるESUを検索してダウンロードするためにかかる時間を75%以上削減できます。さらに、複数のESUを一度にインストールすることも可能です。

関連項目:

グローバル導入の手順

次の表に、JD Edwards EnterpriseOneフルフィルメント管理のグローバル導入の推奨手順を示します。

手順	参照
1. グローバル・ユーザー定義コード(UDC)を設定します。	EnterpriseOne Tools 8.98 System Administration Guide
2. 会社、会計期間パターンおよびビジネスユニットを設定します。	
3. 自動採番を設定します。	
4. 勘定科目と勘定科目表を設定します。	
5. 一般会計固定情報を設定します。	
6. 通貨コードや為替レートなどの多通貨処理を設定します。	<ul style="list-style-type: none"> JD Edwards EnterpriseOne 多通貨処理 9.0 製品ガイド、「多通貨処理の一般会計の設定」 JD Edwards EnterpriseOne 多通貨処理 9.0 製品ガイド、「為替レートの設定」
7. 元帳タイプ規則を設定します。	
8. 住所録レコードを入力します。	
9. 事業所固定情報、デフォルト事業所およびプリンタ、製造および流通AAI、伝票タイプなどの在庫情報を設定します。	
10. 製造現場カレンダーを設定します。	
11. オーダー処理規則を設定します。	

受注管理用の導入手順

次の表に、JD Edwards EnterpriseOneフルフィルメント管理と受注管理システムの導入に必要な手順を示します。

手順	参照
1. JD Edwards EnterpriseOne受注管理のユーザー定義コードを設定します。	
2. 固定情報を設定します。	
3. JD Edwards EnterpriseOne受注管理に対するAAIを設定します。	
4. コミッション情報を設定します。	
5. (省略可)オーダー・テンプレートを作成します。	
6. オーダー保留情報を設定します。	
7. (省略可)セルフサービス情報を設定します。	
8. 顧客請求指示を設定します。	
9. UCC 128に準拠した情報を設定します。	
10. 基本価格、基本価格設定構造、複合価格グループ、標準価格調整を設定します。	
11. 返品承認デフォルトおよび返品承認を設定します。	
12. 基本優先情報および詳細優先情報を設定します。	

アプリケーション別導入手順

次の表に、JD Edwards EnterpriseOneフルフィルメント管理システムに必要な導入手順を示します。

手順	参照
1. JD Edwards EnterpriseOneフルフィルメント管理システムを有効にします。	第 2 章、「JD Edwards EnterpriseOneフルフィルメント管理システムの設定」 、「JD Edwards EnterpriseOneフルフィルメント管理システムの有効化」、11ページ
2. フルフィルメント管理(詳細優先情報41)を設定します。	第 2 章、「JD Edwards EnterpriseOneフルフィルメント管理システムの設定」 、「フルフィルメント・エントリ(41)の優先詳細値の設定」、20ページ
3. (省略可)充当ルールを設定します。	第 6 章、「自動フルフィルメント処理」 、「充当ルールの設定」、76ページ
4. (省略可)サービス・レベル・ルールを設定します。	第 5 章、「サービス・レベル・ルールの設定と処理」 、「サービス・レベル・ルールの設定」、53ページ
5. (省略可)詳細優先情報のスコアを設定します。	第 4 章、「オーダー明細行のスコア」 、「詳細優先情報スコア詳細の設定」、42ページ
6. (省略可)基本スコアを設定します。	第 4 章、「オーダー明細行のスコア」 、「基本スコア情報の設定」、48ページ
7. (省略可)丸め規則を設定します。	第 6 章、「自動フルフィルメント処理」 、「充当丸めの設定」、80ページ
8. (省略可)メッセージ通知を設定します。	第 8 章、「フルフィルメントからのオーダー行のリリース」 、「フルフィルメント・メッセージ通知の設定」、98ページ

第 2 章

JD Edwards EnterpriseOneフルフィルメント管理システムの設定

この章では、JD Edwards EnterpriseOneフルフィルメント管理システムの設定の概要と次の方法について説明します。

- JD Edwards EnterpriseOneフルフィルメント管理システムの有効化
- フルフィルメント管理の設定 (R4277706) の実行
- フルフィルメント管理の詳細優先情報の設定

JD Edwards EnterpriseOneフルフィルメント管理システムの設定について

JD Edwards EnterpriseOneフルフィルメント管理を使用する前に、フルフィルメント処理に使用する情報を定義する必要があります。JD Edwards EnterpriseOneフルフィルメント管理の設定によって、業務要件を満たすようにシステムをカスタマイズしたり、デフォルト値を指定して処理にかかる時間を節約できます。最初の設定手順には次の3つがあります。

1. フルフィルメント管理の設定プログラム (R4277706) の実行
2. OneWorldシステム制御プログラム (P99410) を使用したフルフィルメント管理システムの有効化
3. フルフィルメント管理の詳細優先情報の設定

JD Edwards EnterpriseOneフルフィルメント管理システムの有効化

この項では、概要と次の方法について説明します。

- JD Edwards EnterpriseOneシステムへの設定データの挿入
- フルフィルメント管理の有効化

JD Edwards EnterpriseOneフルフィルメント管理の有効化について

JD Edwards EnterpriseOneフルフィルメント管理システムを使用する前に、JD Edwards EnterpriseOneでフルフィルメント管理システムを有効にする必要があります。有効にすると、JD Edwards EnterpriseOne受注管理、在庫管理、輸送管理、倉庫管理、フルフィルメント管理の各システム間にリンクが作成されます。具体的には、受注オーダーを作成すると、これらのシステムの設定に基づいて、オーダー処理が開始されます。

JD Edwards EnterpriseOneシステムへの設定データの挿入

フルフィルメント管理の設定プログラム (R4277706) を実行して、設定レコードを優先値定義テーブル (F40711) と OneWorld システム制御ファイル・テーブル (F99410) に挿入する必要があります。優先値がすでにあるためにそれぞれのテーブルにデータを挿入できない場合、エラー・メッセージが PDF 文書で表示されます。

詳細優先情報のデータ・レコードの設定

フルフィルメント管理の設定プログラムを実行する際は、5つの詳細優先タイプの設定データ・レコードが優先値定義テーブル (F40711) に挿入されます。

データ・レコードには、フルフィルメント処理に必要なドライバ・フィールドと戻り値フィールドが含まれます。たとえば、フルフィルメント管理の優先情報 (41) は「伝票タイプ」フィールド (DCTO) をドライバとして使用し、受注オーダーをフルフィルメント処理の対象とすることを決定します。優先情報で伝票タイプが設定されていれば、受注オーダー明細テーブル (F4211) の「充当実行」フィールド (ALLOC) に値が戻されます。JD Edwards EnterpriseOne フルフィルメント管理システムで受注オーダー行を処理するには、ALLOC フィールドに「1」(はい) が入力されている必要があります。

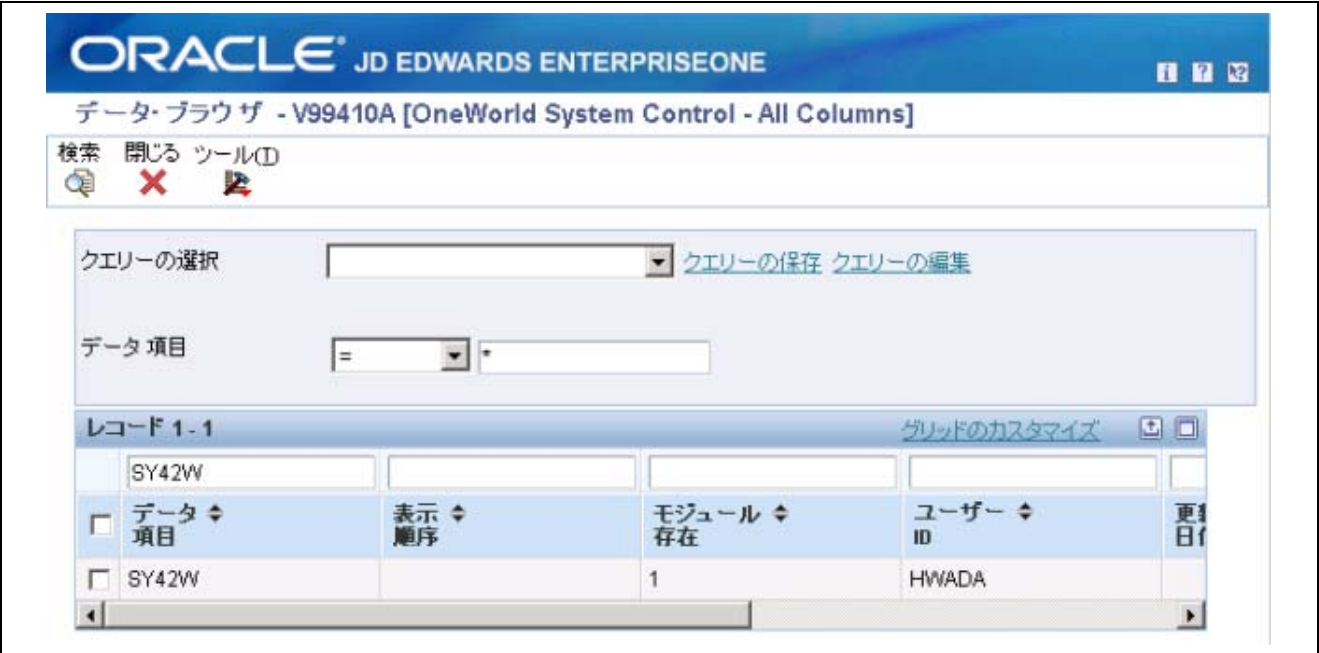
次の表に、各詳細優先情報のドライバ・フィールドと戻り値フィールドを示します。

詳細優先タイプ	記述	ドライバ・フィールド	戻り値フィールド
41	フルフィルメント管理	オーダー・タイプ (DCTO)	割当処理フラグ (ALLOC)
42	オーダー・タイプ優先度	オーダー・タイプ (DCTO)	オーダー・タイプ優先度 (OTPRIO)
43	行タイプ優先度	行タイプ (LNTY)	行タイプ優先度 (LTPRIO)
44	要求経過日数優先度		要求経過日数 (OADAYS) 要求経過日数優先度 (OAPRIO)
45	フルフィルメントの端数処理 (丸め)	トランザクションは優先順位と等しい (FMTRPR) ビジネスユニット (MCU)	充当丸め規則 (FMRUND)

OneWorldシステム制御ファイル・テーブルのデータ・レコードの設定

フルフィルメント管理の設定プログラムを実行する際、OneWorld システム制御ファイル・テーブル (F99410) に1件の設定データ・レコードも挿入されます。データ項目 SY42W を使用して、JD Edwards EnterpriseOne フルフィルメント管理システムが有効化されます。

次の例は、OneWorld システム制御ファイル・テーブルに追加された設定データ・レコードを示します。



OneWorldシステム制御ファイル・テーブルのデータ・レコードの例

注意: 最初は、フルフィルメント管理システムを有効にするまで、「モジュール存在」フィールドは空白です。

フルフィルメント管理の有効化に使用するフォーム

注意: フルフィルメント管理の設定プログラムを実行したら、EnterpriseOneのシステム制御プログラム (P99410) にアクセスして、JD Edwards EnterpriseOneフルフィルメント管理システムを有効にする必要があります。

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
EnterpriseOneシステム制御 - 改訂	W99410B	「略式コマンド」フィールドに「P99410」と入力して、移動ボタンをクリックします。 「EnterpriseOneシステム・コントロールの処理」フォームで、データ項目SY42Wを検索して選択します。 「はい」を選択して、フルフィルメント管理を有効にします。	フルフィルメント管理を有効にします。

フルフィルメント管理の有効化

「EnterpriseOneシステム制御 - 改訂」フォームにアクセスします。

ORACLE JD EDWARDS ENTERPRISEONE Financial/Distribution Company [JPY900] サインアウト

EnterpriseOneシステム制御 - 改訂

OK(O) 取消(L) ツール(T)

データ項目 SY42W

オーダー・フルフィルメント管理モジュールの使用

はい
いいえ

順序No.

「EnterpriseOneシステム制御 - 改訂」フォーム

フルフィルメント管理の設定プログラム(R4277706)の実行

この項では、フルフィルメント管理の設定プログラムの実行方法について説明します。

フルフィルメント管理の設定の実行

フルフィルメント管理の設定プログラムを実行するには、次の手順に従います。

1. 「略式コマンド」フィールドに「BV」と入力して、「バッチ・バージョンの処理 - 使用可能なバージョン」フォームにアクセスします。
2. 「バッチ・アプリケーション」フィールドに「R4277706」を入力して、「検索」をクリックします。
3. バージョンXJDE0001を選択して実行します。

注意: このプログラムに処理オプションはありません。

JD Edwards EnterpriseOneフルフィルメント管理の詳細優先情報の設定

この項では、詳細優先情報の概要と、次の方法について説明します。

- 優先定義の設定
- 優先スケジュールの設定
- 優先詳細の設定
- フルフィルメント・エントリ(41)の優先詳細値の設定

詳細優先情報について

詳細優先情報を使用して、受注オーダーの処理方法を設定することにより、複雑なビジネス要件を満たすことができます。詳細優先情報を使用することで、複合品目グループと複合顧客グループを使用できます。JD Edwards EnterpriseOne価格管理と同様に、複合グループはカテゴリ・コードの定義に基づいて処理されます。

詳細優先情報は、アプリケーションと定義テーブルのセットを1つ使用するため、設定と保守が簡略化されます。詳細優先情報の使用には、1つ以上の優先情報名(タイプ)、優先スケジュールおよび優先詳細の設定が含まれます。詳細優先情報を設定するときに、特定のオーダー処理時に優先情報により一時変更する特定のドライバ・フィールドを指定します。ドライバ・フィールドとともに戻り値フィールドも指定します。

優先情報の解決に使用されるデフォルトの優先情報スケジュールを、「システム固定情報」フォームで作成できます。オプションとして、受注オーダー入力プログラム(P4210)の処理オプションに代替優先情報スケジュールを入力することで、デフォルトの優先情報スケジュールを一時変更できます。

デフォルトまたは代替詳細優先情報スケジュールで未定義の優先情報は、基本優先情報設定を使用して解決されます。したがって、ユーザーが優先情報を定義すると同様に、基本優先情報と詳細優先情報が設定され解決されます。

詳細優先タイプ

優先タイプまたは名前は、デフォルトのオーダー処理のために一時変更する目的で作成するプロファイルです。優先タイプは通常、優先情報の目的と一致します。

優先タイプを設定するときには、優先階層も割り当てます。優先階層によって特定の品目、品目グループ、顧客、顧客グループ、またはそれらの組合せに優先情報を設定できます。

詳細優先情報には、複数の基本優先情報がまとめられています。まとめられた詳細優先情報の例としては、オーダー明細デフォルト優先情報があります。オーダー明細デフォルト優先情報には、支払条件、価格設定単位、収益ビジネスユニット、最終用途などの多くの基本優先情報が含まれます。基本優先情報を組み合わせて詳細優先情報にまとめると、設定時間や処理時間が短縮されます。

詳細優先スケジュール

優先スケジュールは1つ以上の優先タイプを含み、優先情報の処理方法を管理します。スケジュールに優先情報の処理順序を指定します。スケジュールの有効日も指定できます。

優先タイプを定義して、各スケジュールの優先詳細を入力する必要があります。

詳細優先詳細

優先スケジュールに優先タイプを追加するときに、詳細優先明細を定義します。具体的には、詳細とはドライバ・フィールドと戻り値フィールドです。優先タイプに定義されているため、ドライバ・フィールドは優先階層によって異なります。戻り値フィールドは、ユーザー定義の処理の仕様です。

詳細優先明細にはグループ、品目番号と顧客番号、数量レベル区切り、単位などを含めることができます。定義した詳細優先明細を使用して、ビジネス要件に必要な特定の処理方法が決定されます。

詳細優先情報の処理

詳細優先情報の処理は、優先スケジュールに基づきます。優先スケジュールには、1つ以上の優先情報名(タイプ)があります。各スケジュールには、オーダーの処理方法に固有の詳細や値を追加することもできます。

システム固定情報で特定されたスケジュールがシステムにより検証されます。このスケジュールによって、オーダー処理時に解決する優先情報が決まります。システム固定情報に指定したスケジュールを一時変更するために、受注オーダー入力プログラム (P4210) の「優先」タブの「上級優先スケジュールの一時変更」処理オプションを設定した場合、受注オーダー入力プログラムのバージョンに指定されているスケジュールが使用されます。このスケジュールを使用して適切な優先情報名 (タイプ) が検索され、処理されます。

価格調整タイプ・プログラム (P4071) を使用して、優先情報がどのように特定されたかが検証されます。優先タイプだけでなく、設定した優先階層も考慮されます。優先情報履歴レコードを更新するか、数量レベル区切りを処理するかどうかも決定されます。

次に、優先情報に設定した詳細が使用されます。これらの詳細にはグループ、品目と顧客番号、数量レベル区切り、および単位などが含まれます。この時点で使用される詳細には、優先タイプを定義するときに定義する固有のドライバ・フィールドと戻り値フィールドも含まれます。

次の表に、詳細優先情報の処理順序を示します。

作業順序	優先情報	プログラムまたはフィールド
1	詳細優先スケジュールに指定した優先タイプ	P4070 - 詳細優先スケジュールの改訂
2	次のような優先タイプ仕様 <ul style="list-style-type: none"> ・ 階層 ・ 数量レベル区切り ・ 複合グループ 	P4071 - 詳細優先情報名の改訂
3	次に基づく優先情報詳細 <ul style="list-style-type: none"> ・ 優先階層 ・ 優先タイプで定義された顧客グループと品目グループの両方、または一方 	P4072 - 詳細優先情報の詳細の改訂
4	ドライバ・フィールド	P4072 で指定したドライバ・フィールドと戻り値

参照:

フルフィルメント管理の詳細優先情報の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
優先定義の改訂	W4071A	「詳細優先情報」(G40311)、「詳細優先情報名の改訂」 「優先タイプの処理」フォームで、「追加」をクリックします。	優先定義を設定します。
優先スケジュールの改訂	W4070C	「詳細優先情報」(G40311)、「詳細優先情報スケジュールの改訂」 「優先スケジュールの処理」フォームで、「追加」をクリックします。	優先スケジュールを設定します。
優先情報詳細の改訂	W4072A	「詳細優先情報」(G40311)、「詳細優先情報詳細の改訂」 「優先詳細の処理」フォームで優先情報名を検索し、「追加」をクリックします。 「優先階層の選択」フォームで適切な組合せを選択し、「選択」をクリックします。	優先詳細を設定します。
優先値の改訂	W4072D	ローを選択し、「ロー」メニューで「優先明細」を選択します。	優先詳細値を設定します。

優先定義の設定

「優先定義の改訂」フォームにアクセスします。

参照:

「優先定義の改訂」フォーム

品目グループ

品目の在庫価格グループを識別するユーザー定義コード(40/PI)を入力します。

在庫価格グループには、独自の価格設定構造があり、この構造により、受注オーダーや購買オーダーの品目に組み込まれた値引や割増が適用されます。この割引や割増は、発注された品目の数量、金額または重量に基づいています。品目に価格グループを割り当てると、その品目は在庫価格グループに対して定義されたものと同じ価格設定構造を持ちます。

受注オーダーや購買オーダーの値引と割増は、対話形式で計算されるため、品目だけでなく、仕入先や顧客にも在庫価格グループを割り当てる必要があります。

顧客グループ

ユーザー定義コード(40/PC)から顧客グループを識別する値を入力します。同等の価格設定などの類似した特性を持つ顧客をグループ化できます。

優先階層

40/PRからユーザー定義コード(UDC)を入力して、優先タイプまたは価格調整階層を指定します。階層を定義する際は、このコードで各テーブルを識別します。その後、調整を作成する際、このコードを使用して、調整に適用する階層を指定します。

数量レベル区切り

価格調整詳細テーブル(F4072)にレベル区切りを入れるには、このオプションを選択します。次の3種類のレベル区切りが定義できます。

- 数量。受注オーダーで指定された数量に基づいて調整値が決まります。単位別に調整区切りを設定できます。
- 重量。受注オーダー明細行の品目に割り当てられている重量を使用して、調整レベル区切りが決まります。
- 金額。受注オーダー明細行の合計金額を使用して、調整レベル区切りが決まります。通貨換算を有効にすると、通貨コードの小数点表示形式に基づいてすべての金額のレベル区切りが保存、表示されます。

「なし」オプションを選択した場合、詳細優先情報の機能を使用して調整レベル区切りが決まります。このオプションは、詳細優先情報を使用する場合にのみ使用します。

詳細優先タイプ(画面上では「詳細価格調整タイプ」)

40/APからUDCを入力して、定義済の詳細優先情報をどのように処理するかを指定します。

優先スケジュールの設定

「優先スケジュールの改訂」フォームにアクセスします。

参照:

順序No.	優先名	記述	有効開始日付	有効期限	品目価格グループ
10	ALLOC2	Fulfillment	2005/04/29	2015/12/31	
40	OTPRIO2	Prioridades de Tipos de Pedido	2010/10/13	2040/12/31	
50	LNTYPE	Tipo de Linha	2010/10/04	2040/10/04	
60	RDAPRIO1	請求日期帳龄優先級	2010/10/04	2040/10/04	

「優先スケジュールの改訂」フォーム

優先スケジュール

40/ASからUDCを入力して、価格および調整スケジュールを指定します。価格調整スケジュールには、顧客または品目に適用される調整タイプが1つ以上含まれます。調整は、スケジュールで指定した順序に従って適用されます。顧客請求指示を使用して、価格調整スケジュールに顧客を関連付けます。受注オーダーを入力すると、販売先住所に添付されたスケジュールがオーダー見出しにコピーされます。このスケジュールは、明細行レベルで一時的に変更できます。

優先名

調整定義を識別するUDCを40/TYから入力します。優先定義プログラム(P4071)で、調整を定義します。

優先詳細の設定

「優先情報詳細の改訂」フォームにアクセスします。

参照:

レコード 1 - 6 グリッドのカスタマイズ

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	開始 レベル	しきい値 単位	有効開始 日付	有効 期限
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		%	2010/10/04	2014/10/04
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	20.0000	%	2010/10/18	2010/10/19
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	20.0000	%	2010/10/19	2010/10/22
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	10.0000	12	2010/10/04	2040/10/04
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	12.0000	12	2006/07/10	2015/12/31
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				

「優先情報詳細の改訂」フォーム

優先名

調整定義を識別するUDCを40/TYから入力します。価格調整名で調整を定義します。

フルフィルメント・エントリ(41)の優先詳細値の設定

「優先値の改訂」フォームにアクセスします。

参照:

ORACLE® JD EDWARDS ENTERPRISEONE Financial/Distribution Company [JPY900] サインアウト

詳細優先情報詳細の改訂 - 優先値の改訂

OK(O) 削除(D) 取消(L) ツール(T)

Preference Name MSGNOTFY メッセージ通知

詳細優先タイプ 35 メッセージ通知

レコード 1 - 6 グリッドのカスタマイズ

順序No.	オーダー・タイプ	充当実行
1.00 00		5734530
10.00 SO		
20.00 S4		
30.00 S8		
40.00 ST		

フルフィルメント・エントリ(41)の「優先値の改訂」フォーム

順序No.

情報の順序を指定する番号を入力します。

オーダー・タイプ

00/DTからUDCを入力して、この優先情報で処理する伝票タイプを指定します。受注オーダー明細テーブル(F4211)の「伝票タイプ」フィールド(DCTO)は、行がフルフィルメント管理のプロセスに投入されるかどうかを決定するドライバです。

充当実行

フルフィルメント管理プロセスの受注オーダー明細行のフラグをオンにするかどうかを指示します。この値は戻されて、受注オーダー明細テーブル(F4211)に保存されます。フルフィルメント・エントリ・バッチ処理プログラム(R4277704)を実行することにより、受注オーダーの入力時に優先情報が解決されます。オーダー入力時に引当可能数量チェックは実行されず、オーダー数量は明細行の「将来引当数量」フィールド(SONE)に保存されます。フルフィルメント処理を使用して数量がソフト・コミットされます。値は次のとおりです。

- 1: フルフィルメント処理を行うオーダー行がシステムにより選択されます。
- 0: フルフィルメント処理を行うオーダー行はシステムにより選択されません。

第 3 章

フルフィルメント処理へのオーダーの入力

この章では、JD Edwards EnterpriseOneフルフィルメント管理システムによる受注オーダー処理の概要と次の方法について説明します。

- フルフィルメント・オーダーを処理するための受注オーダー入力(P4210)の設定
- フルフィルメント・エントリ・バッチ処理プログラム(R4277704)の実行

JD Edwards EnterpriseOneフルフィルメント管理システムによる受注オーダー処理について

ここでは、次の事項について説明します。

- 受注オーダー入力時のフルフィルメント処理
- フルフィルメント処理とJD Edwards EnterpriseOne在庫管理
- フルフィルメント処理とJD Edwards EnterpriseOne内示調整管理
- フルフィルメント処理とJD Edwards EnterpriseOne輸送管理
- フルフィルメント処理とJD Edwards EnterpriseOne倉庫管理
- フルフィルメント処理とOracle Transportation Management

受注オーダー入力時のフルフィルメント処理

この項では、受注オーダー入力時のフルフィルメントの処理について説明します。

オーダー処理規則

受注オーダー状況とオーダー処理規則によって、受注オーダー行に対して実行可能な処理が制御されます。オーダー処理規則に新しい状況コードを設定して、フルフィルメント処理のステップを表すことができます。このステップは受注オーダーの入力(520)の後ろ、ピッキング・リストの印刷(540)の前に設定する必要があります。この2つのステップの間に、承認処理や倉庫内の処理など他の処理を使用する場合、フルフィルメントのステップが適切な順序になっているか確認してください。

JD Edwards EnterpriseOne受注管理のプログラムと同様に、JD Edwards EnterpriseOneフルフィルメント管理のプログラムは処理オプションを使用して状況コードを増分します。

引当処理

フルフィルメント処理に入った受注オーダー行については、引当可能数量チェックや在庫のソフト・コミットは実行されません。

JD Edwards EnterpriseOneフルフィルメント管理システムは、ハード・コミットされた行を処理しません。受注オーダー入力時に明細行で保管場所やロット番号を入力すると、重度のエラーが表示されます。

(事業所固定情報の設定の)引当日付枠外にあるために将来引当となるオーダーを、実将来機能または実将来オーダー引当と呼びます。引当日付枠のために将来引当となるオーダー数量と、詳細優先情報41から将来引当になるオーダー数量を分けるために、このように区別する必要があります。フルフィルメント管理システムは、実将来オーダー・システムにかわるものとして設計されています。オーダー入力時に引当日付枠と詳細優先情報41がどちらも有効な場合、詳細優先情報41が先に評価され、引当日付枠のあらゆる条件に優先します。要求日付の経過日数スコア優先情報を使用して、指定の引当日付枠内に入るまでフルフィルメント処理の条件範囲外となるスコアを作成することにより、フルフィルメント管理システムの引当日付枠機能をシミュレーションできます。既存の実将来引当オーダー行をフルフィルメント管理システムに入力するには、フルフィルメント・エントリ・プログラム(R4277704)を実行します。

将来引当オーダー行は、フルフィルメント・エントリ・バッチ処理プログラム(R4277704)を介してフルフィルメント処理に投入できます。フルフィルメント処理を使用して行がソフト・コミットされる場合、事業所固定情報プログラム(P41001)の「指定引当(日数)」フィールドの値に関係なく、数量がソフト・コミットされて将来引当ではなくなります。

フルフィルメント処理に入る受注オーダー行のオーダー数量は、「将来引当数量」フィールド(SONE)に保存されます。このフィールドの数量は、実将来引当とはみなされません。受注オーダー明細テーブル(F4211)の「充当実行」フィールド(ALLOC)に「1」が入力されて、オーダー行がフルフィルメント処理中であることが示されます。オーダー行がフルフィルメント処理に入ると、「出荷数量」フィールド(SOQS)から「将来引当数量」フィールドに数量が移動します。「バックオーダー数量」フィールド(SOBK)や「取消数量」フィールド(SOCN)には、数量は入りません。これらのフィールドの数量は変更できません。受注オーダーの数量は、自動フルフィルメント処理プログラムおよびフルフィルメント・ワークベンチ・プログラムによって、「将来引当数量」フィールドから「出荷数量」フィールドに移動されます。処理中受注オーダーの再転記プログラム(R42995)ではフルフィルメント・オーダーをソフト・コミットに移動できません。

フルフィルメント管理の除外

JD Edwards EnterpriseOneフルフィルメント管理システムでは、次のタイプの受注オーダーや行品目は処理されません。

- コンフィギュレーション品目とその構成品
- 非在庫品目
- 一括オーダー
- 見積オーダー
- 直送オーダー
- クレジット・オーダー
- 会社間オーダー
- 倉庫管理の処理で入力されたオーダー
- 受注設計生産のオーダー
- 作業オーダーを生成するオーダー
- 購買オーダーを生成するオーダー。フルフィルメント・エントリの詳細優先情報の設定方法に応じて、転送オーダーはフルフィルメント処理に入ります。
- 手持数量からすでにリリースされた数量を持つオーダー
- ハード・コミットされた在庫数量を持つオーダー
- バックオーダー行または取消行(全数または一部)

- 個別に処理された構成品を持つキット
- 条件を満たすオーダー行を約束するオーダー

オーダー行がJD Edwards EnterpriseOneフルフィルメント管理システムに入る条件を満たしているとシステムが判断した場合、処理オプションで設定した一時変更用次状況が検証されます。一時変更用次状況が無効な場合はエラーが設定され、そのオーダー行はJD Edwards EnterpriseOneフルフィルメント管理システムで受け付けられません。次状況が無効な場合、システムで次の処理が実行されます。

- 次状況が一時変更用状況に更新される。
- F4211で「充当実行」フィールドが「1」に設定され、行がフルフィルメント処理中であることが示される。
- フルフィルメント状況が「10」(入力済)に設定される。
- 「出荷数量」フィールド(SOQS)から「将来引当数量」フィールド(SONE)に出荷可能数量が移動する。
- 処理オプションに応じてサービス・レベル・ルールが添付される。
- 在庫引当優先情報が評価される。
- 以前のフルフィルメント計画IDがすべて削除される。
- 2重単位数量の残数が調整される。
- オーダーのスコアが算出される(処理オプションで設定されている場合)。
- 「顧客マスターの会社」フィールド(CMCO)に顧客マスターの会社を読み込まれる。

フルフィルメント処理にオーダーを入力した後、JD Edwardsフルフィルメント管理システムで受注オーダー行を改訂できます。次の処理が可能です。

- 日付の改訂(フルフィルメントに影響するのは要求日付のみ)
- 明細行の事業所の変更
- 行の取消
- オーダー数量の増減

受注オーダー行のオーダー数量を変更した場合、システムで行とオーダーのサービス・レベル・ルールの最小充填パーセントが再評価され、適切な要件が満たされたことを示すフラグが設定される必要があります。

- 品目の交換または代替
- オーダーの保留

オーダーを保留にすると、オーダーをリリースするまで、そのオーダーのすべてのフルフィルメント処理が停止します。

- サービス・レベル・ルール情報の一時変更
 - 行およびオーダーの充填パーセントの一時変更
 - 一時変更理由コードの入力
 - 取消フラグの更新
- 行の分割

フルフィルメントからのリリース・プログラム(R4277703)を使用した結果として行が分割された場合、新しい行についてサービス・レベル・ルール情報が解決されます。

フルフィルメント処理以外（ピッキング・リスト、出荷確認など）で行が分割される場合、サービス・レベル・ルールもコピーされます。分割された行に対してフルフィルメント・エントリ・バッチ処理プログラム（R4277704）を実行して、行をフルフィルメント処理に投入し、必要に応じて新しいサービス・レベル・ルールを解決します。

変更すると、行のフルフィルメント状況と引当数量が必要に応じて改訂されます。受注オーダー行に加えた変更に応じて、要評価フラグが設定され、行とオーダーの充填パーセントを再評価する必要があることが示されます。

フルフィルメントのバッチ入力処理

フルフィルメント・エントリ・バッチ処理プログラム（R4277704）を実行して、受注残の行をフルフィルメント処理に投入できます。現在フルフィルメント処理中でないオーダー行のみが評価されます。バッチ処理の際に、データ選択に基づいて各オーダー行のフルフィルメント・エントリ詳細優先情報が評価されます。処理されないオーダー行については、エラー・メッセージが送信されます。このエラー・メッセージは、オーダー行がJD Edwards EnterpriseOneフルフィルメント管理システムで受け付けられない理由を示します。

フルフィルメント処理とJD Edwards EnterpriseOne在庫管理

この項では、フルフィルメント処理と次の項目の関係について説明します。

- 引当可能数量の計算
- 2重単位品目
- 将来引当のオーダー
- 在庫引当優先情報
- キット品目
- 納期回答
- 部分出荷

引当可能数量の計算

各事業所の引当可能数量は、事業所固定情報プログラム（P41001）で定義します。引当可能数量を計算するために、手持数量から差し引く数量および手持数量に追加する数量を決定します。JD Edwards EnterpriseOneフルフィルメント管理システムでは、次のことをお勧めします。

- ソフト・コミットされた数量の減算。受注オーダー行に在庫を充当する数量は、引当可能数量を使用して決定されます。フルフィルメント管理システムでは受注オーダー行をソフト・コミットするため、引当可能数量を正確に維持するにはソフト・コミット分を手持残高数量から差し引く必要があります。
- ハード・コミットされた数量の減算。受注オーダー行に割り当てる在庫数量は、引当可能数量を使用して決定されます。システムでハード・コミットを使用しない場合、手持残高数量からハード・コミット分を差し引く必要はありません。
- 将来引当数量を差し引かない。受注オーダー行に在庫を充当する数量は、引当可能数量を使用して決定されます。フルフィルメント管理システムは、オーダーを処理する前にオーダー数量を将来引当バケットに入れます。将来引当分を手持残高数量から差し引くと、フルフィルメント処理中に正確な引当可能数量が得られなくなります。
- 安全在庫を差し引かない。充当ルールを使用して自動フルフィルメント処理プログラム（R4277701）により在庫レベルを管理する場合、保持する在庫数量の決定にこのルールが使用されます。
 - 手持残高数量から安全在庫を差し引く場合、充当ルール設定プログラム（P4277720）で行の「安全在庫率」フィールドの値をゼロに設定する必要があります。

- フルフィルメント・ワークベンチ・プログラム (P4277701) の表には、手持残高数量から安全在庫数量を差し引いた場合、安全在庫レベルは表示されません。

品目マスター・レコード (F4102) の「引当可能数量チェック」フィールドは、フルフィルメント処理を実行する品目には一切影響しません。自動フルフィルメント処理プログラムおよびフルフィルメント・ワークベンチ・プログラムは、このフィールドの設定に関係なく、引当可能数量チェックを実行します。

2重単位の使用

JD Edwards EnterpriseOneフルフィルメント管理システムは、2重単位 (UOM) の品目をトランザクション単位または2次単位のどちらかを使用して処理します。処理される数量は、それらの換算に基づきます。

在庫引当優先情報

JD Edwards EnterpriseOneフルフィルメント管理システムは、在庫引当優先情報を使用するオーダー行を処理できます。フルフィルメントからオーダーをリリースする前に、優先情報で指定された充填パーセントがオーダー行で満たされるかどうかを検証されます。

オーダー入力時にフルフィルメント処理を実行するよう設定されていると、引当可能数量がチェックされないため、在庫引当優先情報の変更されたバージョンが使用されます。このため、引当可能数量は、優先情報から選択する事業所を決定できません。引当可能数量がチェックされないため、各事業所について充填パーセントに基づいて行を分割することはできません。また、受注明細にハード・コミットを実行するかわりに、行はソフト・コミットとして扱われ、行がフルフィルメント処理中であるというインディケータが設定されます。

在庫引当優先情報の変更されたバージョンを使用するには、優先情報の設定で1行のみ定義する必要があります。優先情報は次のように使用されます。

- 行の「充填パーセント」フィールドがゼロの場合、受注オーダー明細行の事業所には優先情報から出荷元事業所が読み込まれます。これによって、初回のフルフィルメントが実行されて、優先情報に基づいて詳細事業所が割り当てられます。たとえば、顧客の出荷先所在地に最も近い事業所などです。
- 行の「ビジネスユニット」フィールドがブランクの場合、充填パーセントの値は受注オーダー明細テーブル (F4211) に保存されて自動フルフィルメント処理中に検証され、さらにフルフィルメント・ワークベンチで、およびフルフィルメントからのリリース時にも検証されます。
 - 「ビジネスユニット」フィールドと「充填パーセント」フィールドに値が入力されている場合、明細行の事業所に値が読み込まれ、充填パーセントの値は受注オーダー明細テーブルに保存されます。この値は、自動フルフィルメント処理中に検証され、さらにフルフィルメント・ワークベンチで、およびフルフィルメントからのリリース時にも検証されます。

複数の行に優先情報が設定されている場合、充填パーセントは受注オーダー明細テーブルには保存されません。この状況が発生した場合、次の条件が適用されます。

- 最初の行の「充填パーセント」フィールドがゼロの場合、受注オーダー明細行の事業所には優先情報から出荷元事業所が読み込まれます。
- 最初の行の「充填パーセント」フィールドの値がゼロより大きければ、優先情報は一切使用されません。引当可能数量はチェックされないため、優先情報のどの行が適用されるのかは決められません。

自動フルフィルメント処理プログラム (R4277701) を実行すると、充填パーセントに値が読み込まれ、充填パーセントの要件を満たすために在庫が割り当てられます。充填パーセントの要件が満たされない場合、行が充当されて警告メッセージが設定されます。フルフィルメント・ワークベンチ・プログラム (P4277701) を使用して、フルフィルメント数量を変更し各行が充填パーセントを満たすかどうか検証します。

注意: サービス・レベル・ルール情報は、在庫引当優先情報の充填パーセントに優先します。

キット親品目や構成品目の在庫引当優先情報は解決されません。

キット品目

JD Edwards EnterpriseOneフルフィルメント管理システムは、キットへの在庫の割当てで自動フルフィルメント処理プログラムを使用しません。しかし、フルフィルメント・ワークベンチ・プログラムを使用して、対話形式でキット親品目を充当することができます。親品目のスコアを算出して、このスコアをキット構成品のすべてに割り当てます。フルフィルメント・ワークベンチの検索フォームでキット親品目を検索および選択すると、編集フォームにすべての構成品が表示され、構成品のグリッドにマイナス符号が付いて、構成品の行が無効になります。また、別の事業所で構成品に在庫が引当可能な場合、緑のチェック・マークが行に付くことによって、その旨が通知されます。

フルフィルメント・ワークベンチ・プログラムを使用して、次の操作を実行できます。

- キット親品目のフルフィルメント数量を変更する。キット構成品の充当済数量が、子品目に対する親品目の割合に基づいて残数調整され、それに応じて構成品が更新されます。
- 親品目の約束納入日付を変更する。
- グリッド行をクリックしたときに構成品の品目引当可能数量を表示する。
- キット構成品について在庫集計照会 (P41202) プログラムと需要/供給照会 (P4021) プログラムを実行する。

親品目や構成品の事業所は変更できません。

注意: サービス・レベル・ルール情報は、キット親品目に対してのみ処理されます。

参照: [第 5 章、「サービス・レベル・ルールの設定と処理」、53ページ](#)

納期回答

受注オーダー明細を作成または変更する際、納期回答システムは以前に約束したオーダーの在庫レベルと次に示すようなその他の要素を考慮することにより、オーダーの約束日付を計算します。

- JD Edwards EnterpriseOneシステムの既存の約束済の受注オーダー
- ソフト・コミットまたはハード・コミットの状況にあるオーダーの見込み
- 後に続く出荷の約束日付の遵守

フルフィルメント管理システムは、引当状況およびそれに続く出荷の約束日付を管理するため、納期回答システムと競合します。このため、フルフィルメント管理システムに入るオーダー行は、納期回答システムで処理できません。

受注オーダーは、フルフィルメント管理の品目と納期回答システムの品目を両方含むことができます。

部分出荷

受注オーダー行の部分出荷は、次のプログラムでオーダーを処理すると発生します。

- 受注オーダー入力 (P4210)
- フルフィルメント・ワークベンチ (P4277701)
- 自動フルフィルメント処理 (R4277701)

オーダー行を部分的に充当すると、オーダーまたは行のパーセント値が満たされるか、オーダー行が完全に充当されるまで、フルフィルメント管理システムがオーダー行をリリースしないことを告げる警告が表示されます。

新規および既存のソフト・コミットを維持できるように、重度のエラーのかわりに軽度の警告が使用されます。この動作は、システムで次のことを可能にする上で非常に重要です。

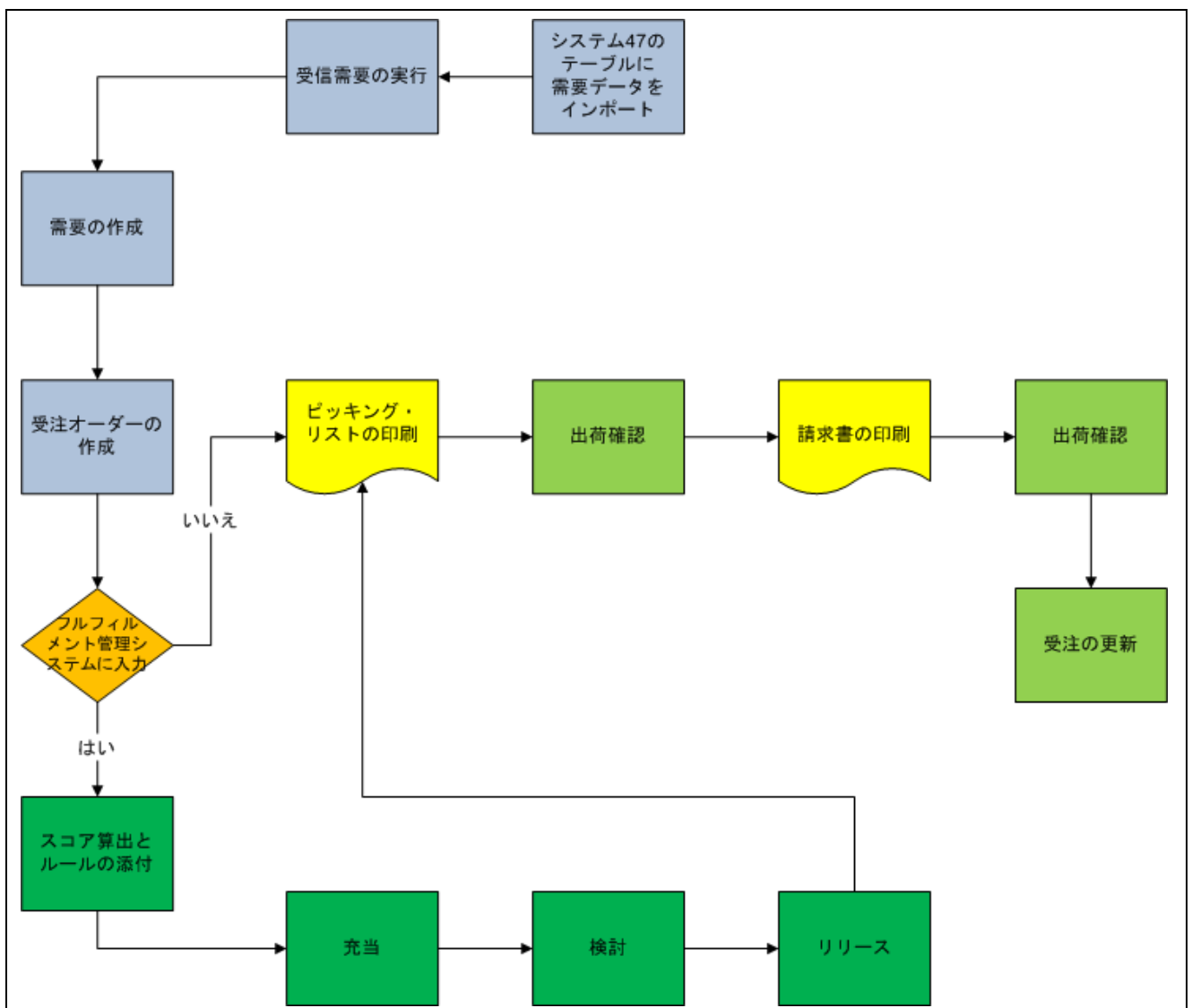
- ・ 在庫を追加できるようになるまで、オーダーに対して在庫を一時的に保留にする
- ・ 優先度の低いオーダーが優先度の高いオーダーより先に充当されないようにする。

フルフィルメントからのリリース・プログラム(R4277703)は、次の場合に、部分的に充当された行を分割しません。

- ・ 顧客が部分出荷を許可していない。
- ・ 実際に充当された割合が、(在庫引当優先情報により解決された)充填パーセントまたはサービス・レベルの充填パーセントに満たないか超えている。

フルフィルメント処理とJD Edwards EnterpriseOne内示調整管理

JD Edwards EnterpriseOneフルフィルメント管理システムは、JD Edwards EnterpriseOne内示調整管理システムで処理された受注オーダーを処理します。次の図にこの処理を示します。



フルフィルメント処理とJD Edwards EnterpriseOne内示調整管理

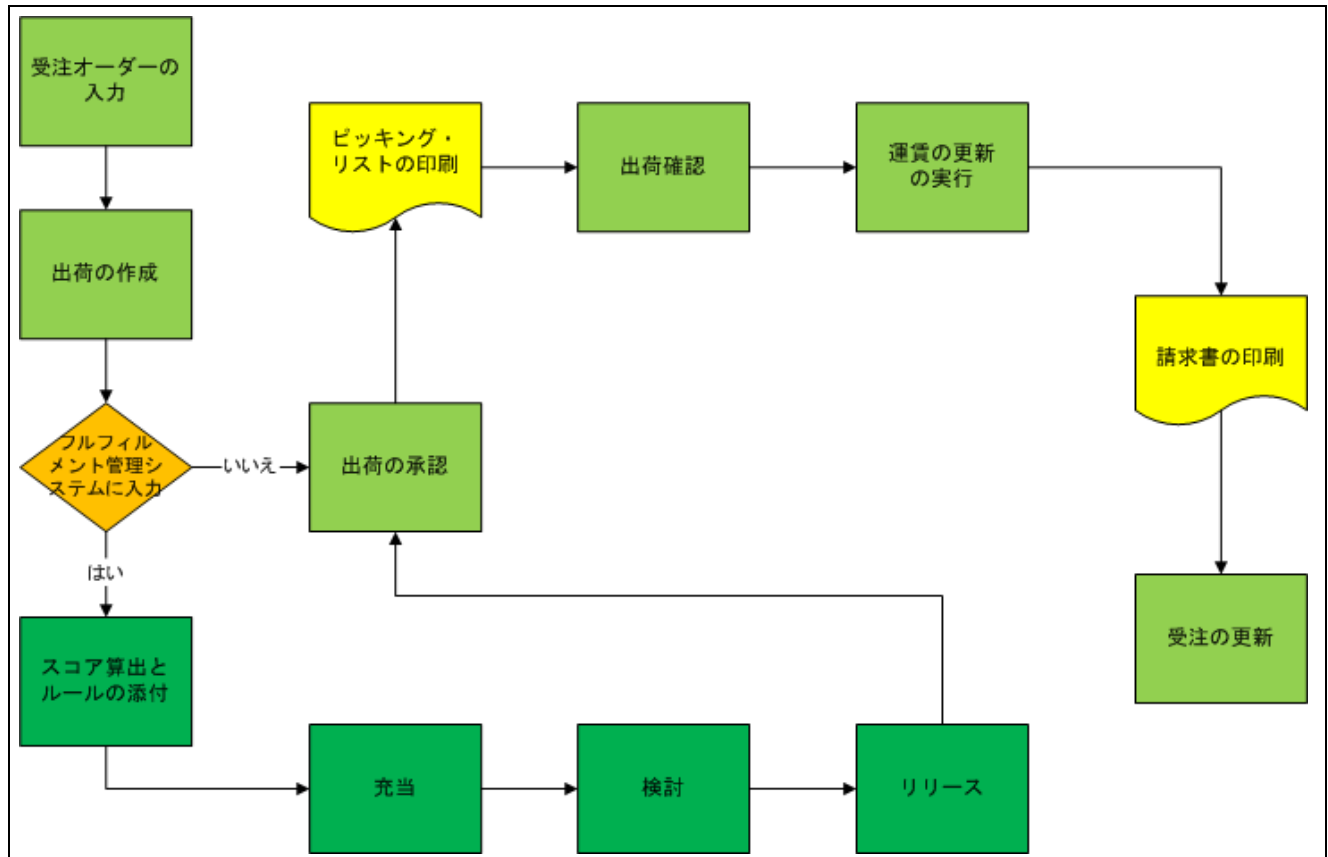
通常は、イベントの順序は次のようになります。

1. システム47のテーブルに需要を受信する。

2. EDI需要(受信)の編集/更新プログラム(R47171)を実行して、受信需要を更新する。
3. 需要スケジュールの作成プログラム(R40R010)を実行して、受注オーダーを生成する。
フルフィルメント管理システムにオーダーが入力されます。フルフィルメント内のタスクを実行して、受注オーダー行を処理します。
4. 需要を満たす出荷を作成する。
5. オーダーの船荷証券を作成する。
6. オーダーの出荷確認を行う。
7. 需要を調整して、新しい累計出荷数量の値を累計履歴テーブルに読み込む。

フルフィルメント処理とJD Edwards EnterpriseOne輸送管理

JD Edwards EnterpriseOneフルフィルメント管理システムは、JD Edwards EnterpriseOne輸送管理システムで処理された受注オーダーを処理します。次の図にこの処理を示します。



フルフィルメント処理とJD Edwards EnterpriseOne輸送管理

イベントの順序は通常、次のようになります。

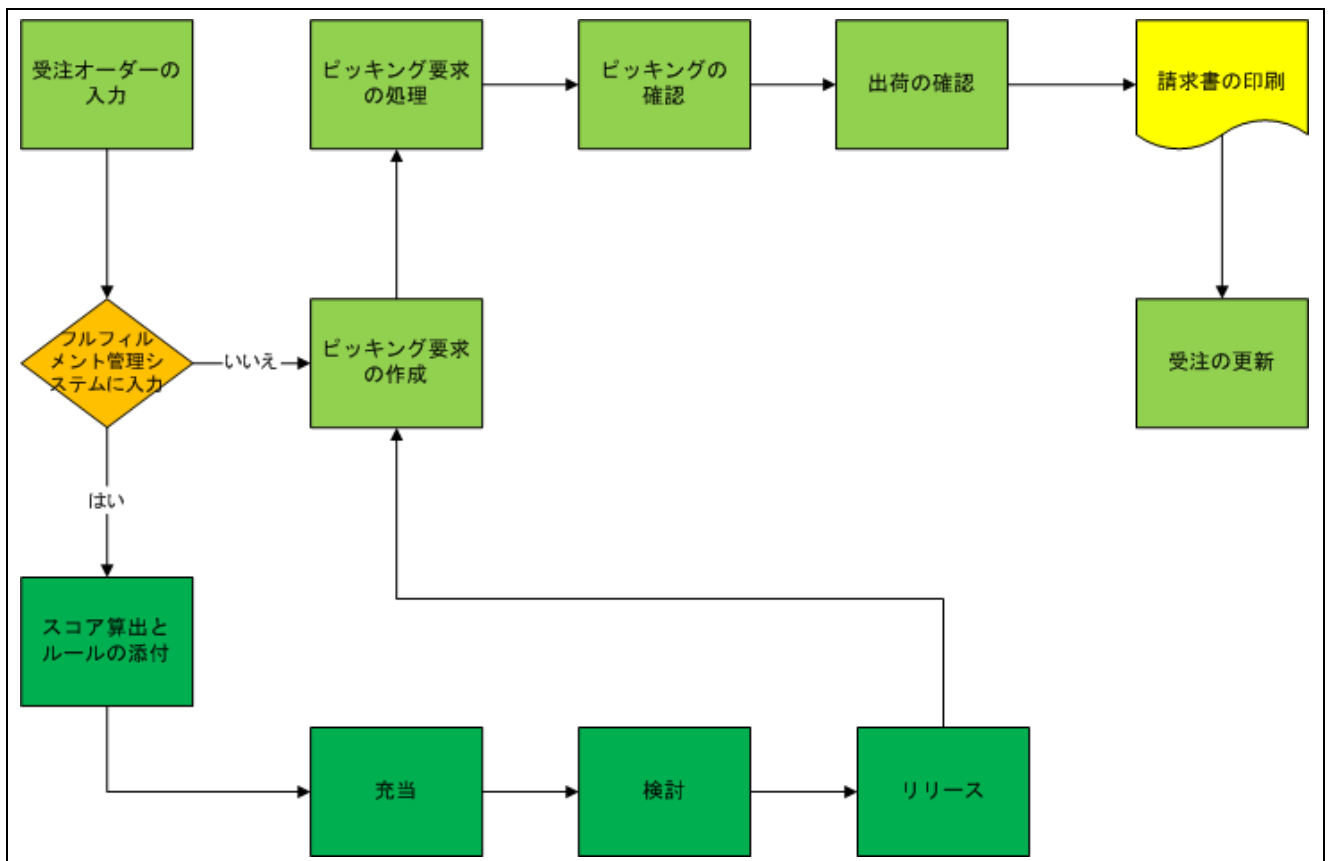
1. 受注オーダーを入力する。
2. 輸送管理システムで出荷が作成される。
3. 受注オーダー行をフルフィルメント処理に投入するかどうか決定される。

オーダー行がフルフィルメントからリリースされると、部分出荷に対応して出荷数量が適切に調整されます。

4. 出荷を承認する。
5. ピッキング・リストを印刷する。
6. 出荷を確認する。
7. 運賃更新を実行する。
8. 請求書を印刷する。
9. 受注情報を更新する。

フルフィルメント処理とJD Edwards EnterpriseOne倉庫管理

JD Edwards EnterpriseOneフルフィルメント管理システムは、JD Edwards EnterpriseOne倉庫管理システムにオーダーが入力される前に受注オーダーを処理します。次の図にこの処理を示します。



フルフィルメント処理とJD Edwards EnterpriseOne倉庫管理

イベントの順序は通常、次のようになります。

1. 受注オーダーを入力する。
2. 受注オーダー行をフルフィルメント処理に投入するかどうか決定される。
3. フルフィルメント処理からオーダー行をリリースした後、倉庫管理システムがピッキング要求を作成する。

注意: フルフィルメントの前に行が倉庫管理の処理に入らないように、受注オーダー入力プログラムで倉庫管理の要求処理モードの処理オプションをブランクに設定する必要があります。

4. ピッキング要求を処理する。
5. ピッキングを確認する。
6. 出荷を確認する。
7. 請求書を印刷する。
8. 受注情報を更新する。

フルフィルメント処理とOracle Transportation Management

JD Edwards EnterpriseOneフルフィルメント管理システムは、Oracle Transportation Managementの統合プロセスで処理された受注オーダーを次のように処理します。

1. JD Edwards EnterpriseOneシステムがオーダーをフルフィルメント処理に投入。
2. JD Edwards EnterpriseOneシステムが受注オーダー行を処理してフルフィルメント処理からリリース。
3. JD Edwards EnterpriseOneシステムがOracle Transportation Managementシステムに運賃の要求を送信。
4. Oracle Transportation ManagementシステムがJD Edwards EnterpriseOneシステムに輸送計画メッセージを送信。
5. JD Edwards EnterpriseOneシステムがOracle Transportation Managementシステムに出荷確認メッセージを送信。
6. Oracle Transportation ManagementシステムがJD Edwards EnterpriseOneシステムに輸送確認メッセージを送信。
7. JD Edwards EnterpriseOneシステムが受注オーダーを処理。

フルフィルメント・オーダーを処理するための受注オーダー入力 (P4210) の設定

この項では、受注オーダー入力フォームと処理オプションについて説明します。

参照:

受注オーダーの見出しと明細情報の入力に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
受注見出しの処理	W4210H	「受注オーダー処理」 (G4211)、「受注見出し」	受注オーダーの見出しレコードを確認して選択します。またはフォームにアクセスして新しい受注オーダーを追加します。
受注オーダー見出し	W4210G	新しい受注オーダーを追加するには、「受注見出しの処理」フォームで「追加」をクリックします。 既存の受注オーダーを改訂するには、「受注見出しの処理」フォームでレコードを選択し、「選択」をクリックします。	受注オーダー見出し情報を入力します。
受注オーダー明細の改訂	W4210A	「受注オーダー見出し」フォームで「OK」をクリックします。	受注オーダー品目情報を入力します。 デフォルト行情報を入力します。 2次単位と該当品目の数量情報を確認します。 デフォルトの価格および原価を一時変更するか、これらの値をゼロに変更します。
受注残/完了オーダー照会	W4210E	「受注オーダー処理」 (G4211)、「受注明細」	受注オーダー明細レコードの確認と選択を行います。
サービス・レベル・ルールの照会/一時変更	W4277711A	「受注残/完了オーダー照会」フォームでレコードを選択し、「選択」をクリックします。 「受注オーダー明細の改訂」フォームでレコードを選択します。 「ロー」メニューから「サービス・レベル・ルール」を選択します。	サービス・レベル・ルールを確認し、一時変更します。 <u>参照: 第 5 章、「サービス・レベル・ルールの設定と処理」、53 ページ</u>

受注オーダー入力 (P4210) の処理オプション

この処理オプションを使用して、フルフィルメント処理によって受注オーダーを処理します。

引当て

1. 引当可能数量チェックの使用

要求された品目に対して、引当可能数量を検証するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 引当可能数量チェックを使用しない。

1: 引当可能数量チェックを有効にし、通知し、バックオーダーまたは取消しを実行する。

2: 引当可能数量チェックを有効にし、通知するが、バックオーダーも取消しも実行しない。

受注オーダー入力時にフルフィルメント処理を有効にしている場合、この処理オプションは使用されません。すべての品目がフルフィルメント処理に入る場合は、この処理オプションをブランクにしてください。

自動フルフィルメント処理プログラムおよびフルフィルメント・ワークベンチ・プログラムは、この処理オプションの設定に関係なく、引当可能数量チェックを実行します。

2. 数量1または数量2への引当

数量を引き当てる先の汎用バケットを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: バケット、その他数量1またはその他数量2に数量を引き当てない。

1: 数量1に数量を引き当てる。

2: 数量2に数量を引き当てる。

フルフィルメント管理の場合は、この処理オプションをブランクにします。フルフィルメント管理システムは、未充当の数量を将来数量バケットに、充当された数量をソフト・コミット・バケットにそれぞれ保存します。

4. 検証する許容ロット状況グループの入力

ロット・グループ名を入力すると、指定したロット・グループ内でロット状況コードが定義されているロットが処理されます。ロット・グループ名とは、ブランク以外の許容ロット状況コードのユーザー定義リストです。

受注オーダー行が自動フルフィルメント処理プログラムで処理されるときに、この処理オプションの値が使用されます。

注意: このオプションによって、自動フルフィルメント処理中に許可されたロット状況の引当可能数量が増分します。

バージョン

26. フルフィルメント管理のスコア算出 (R4277702)

「フルフィルメント管理」タブの「オーダー・スコアの計算」処理オプションを有効にしたときに、オーダーのスコアを算出するために実行される受注オーダー・スコア・バッチ処理プログラム (R4277702) のバージョンを指定します。ブランクの場合、バージョンXJDE0001が使用されます。

28. サービス・レベル・ルール (R4277705)

受注オーダーを入力したか、または受注オーダー行の事業所を変更したときに、サービス・レベル・ルールを解決するために実行されるサービス・レベル・ルールの更新プログラム (R4277705) のバージョンを指定します。「フルフィルメント管理」タブの「サービス・レベル・ルールの解決」処理オプションを有効にする必要があります。ブランクの場合、バージョンXJDE0001が使用されます。

優先

2. 在庫引当ての優先プロファイル処理

他の優先情報処理とは別に、在庫引当優先情報を使用するかどうかを指定します。

顧客、顧客グループ、品目、品目グループに基づき、各オーダー行に対する充当が1つ以上の事業所から行われるよう指定するために在庫引当を使用します。製品が出荷される事業所の指定、事業所で数量が充当され

る前に事業所に存在する必要があるオーダーのパーセントの決定、または受注オーダー明細行の運送モードと運送業者情報の指定が可能です。値は次のとおりです。

ブランク: 在庫引当優先情報を使用しません。

1: 現行のオーダーに対してのみ在庫引当優先情報処理を使用します。在庫引当優先情報の処理は、見出し事業所の引当ウィンドウ内にあるオーダーに対してのみ実行されます。見出し事業所のウィンドウ外にあるオーダーは、見出し事業所に将来引き当てられます。

2: すべてのオーダーで在庫引当優先情報を使用します。在庫引当優先情報の処理は、見出し事業所の引当ウィンドウに関係なく、すべてのオーダーに対して実行されます。

注意: 受注オーダー入力時にフルフィルメント処理に入ったオーダー行に対して、在庫引当優先情報の変更バージョンが使用されます。

3. 上級優先スケジュールの一時変更

この処理オプションは、詳細優先情報機能を使用しており、システム固定情報で定義されたデフォルトの優先情報スケジュールのかわりに、システムで使用される優先情報スケジュールの一時変更を指定する場合に使用します。詳細優先情報を使用している場合は、このスケジュールによって優先情報処理が制御されます。

注意: 優先情報スケジュールを変更するには、「詳細優先情報」メニュー (G40311) の詳細優先情報スケジュールの改訂プログラム (P4070) を使用してください。オーダー入力時にオーダー行がフルフィルメント処理に入るようにするには、フルフィルメント・エントリの優先情報がスケジュールに設定されている必要があります。優先情報が評価されるのは、受注オーダーが追加されたときのみです。既存の受注オーダー行に変更を加えた場合、優先情報は再評価されません。

倉庫

1. 要求処理モード

倉庫管理システムでピッキング要求を作成するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: ピッキング要求を生成しません。

1: 要求のみ生成します。

2: システムで要求を生成し、サブシステムでピッキング要求を作成します。

注意: フルフィルメント管理の場合は、この処理オプションをブランクにします。受注オーダーが倉庫管理に入る場合、行はフルフィルメント処理の対象にはなりません。

監査ログ

1. 受注オーダー変更の監査ログの使用

受注オーダーの変更に対する監査ログ処理を有効にするかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 監査ログ処理を有効にしません。

1: 監査ログ処理を有効にします。

注意: 「顧客請求指示」の「監査ログのバイパス」フィールドを使用して、この処理オプションを一時変更できます。たとえば、この処理オプションを「1」に設定して、受注オーダーで指定された顧客に「監査ログのバイパス」オプションを設定した場合、その顧客のオーダーに対しては、監査ログ処理は一切実行されません。

警告: フルフィルメント管理では、ブランクかオプション1のみをサポートしています。

このオプションを有効にして、JD Edwards EnterpriseOneフルフィルメント管理を使用する場合、監査ログ処理の機能は自動フルフィルメント処理(R4277701)プログラムおよびフルフィルメント・エントリ(R4277704)プログラムとは機能しません。フルフィルメント・ワークベンチ・プログラム(P4277701)を使用して変更を加えた場合は、監査ログ・トランザクション(F42420)テーブルに監査ログが作成されます。

2. 受注オーダー変更の理由コード

受注オーダーの変更に対して、改訂理由コードが必要であるかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 改訂理由コードは必要ありません。

1: 改訂理由コードが必要です。

3. 受注オーダー変更の承認処理

受注オーダーの変更に対して、承認処理が必要であるかどうかを指定します。承認処理を有効にするには、「監査ログ」タブの「受注オーダー変更の監査ログの使用」処理オプションを1に設定する必要があります。しかし、「受注オーダー変更の承認処理」処理オプションを設定しなくても、監査ログを有効にできます。承認処理が必要な場合、オーダーへの変更は記録されません。そのかわり、当初の値が保持され、オーダーは保留状態になります。新しい値は、承認または却下の判断が行われるまで、監査ログ・テーブルで保留となります。新しい値がオーダーに記録されるのは、オーダーが承認された場合に限られます。値は次のとおりです。

ブランク: 承認処理は必要ありません。

1: 承認処理が必要です。

納期回答

1. 納期回答

オーダーの配送日付を約束するために使用される納期回答のモードを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 納期回答を使用しません。

1: 納期回答に自動回答モードを使用します。

注意: この処理オプションは、フルフィルメント処理に入る品目については使用されません。すべての品目がフルフィルメント処理に入る場合は、この処理オプションをブランクにしてください。

フルフィルメント管理

1. オーダー・スコアの計算

フルフィルメント管理システムが有効なときに、受注オーダー入力時にオーダーのスコアを計算するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

	ブランク: しない 1: する
2. サービス・レベル・ルールの解決	フルフィルメント管理システムが有効なときに、受注オーダー入力時にオーダーのスコアを解決するかどうかを指定します。値は次のとおりです。 ブランク: しない 1: する

フルフィルメント・エントリ・バッチ処理プログラム (R4277704) の実行

この項では、次の方法について説明します。

- フルフィルメント・エントリ・バッチ処理プログラムの実行
- フルフィルメント・エントリ・バッチ処理 (R4277704) の処理オプションの設定

フルフィルメント・エントリ・バッチ処理プログラムの実行

「フルフィルメント管理の上級/技術的操作」(G4277730)、「フルフィルメント・エントリ・バッチ処理」を選択します。

フルフィルメント・エントリ・バッチ処理 (R4277704) の処理オプションの設定

この処理オプションでは、フルフィルメント・エントリ・バッチ処理プログラムの一時的変更処理とバージョンを制御します。

処理

1. 次状況の一時的変更

オーダー処理の次のステップを指定します。使用するオーダー・タイプと行タイプに基づいてオーダー処理規則で指定したユーザー定義コード (40/AT) を設定する必要があります。

この一時的変更用状況は、フルフィルメント処理におけるもう1つの任意のステップです。開始状況と一時的変更用次状況の組合せは、オーダー処理規則テーブルの前状況と次状況の有効な組合せである必要があります。

バージョン

1. 受注オーダー入力 (P4210)

受注オーダー行の処理を制御するために使用する、受注オーダー入力プログラム (P4210) のバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

第 4 章

オーダー明細行のスコア

この章では、オーダー明細行のスコアの概要と、次の方法について説明します。

- 顧客優先順位の設定
- 詳細優先情報のスコア詳細の設定
- 基本スコア情報の設定
- 受注オーダー・スコア・バッチ処理プログラム (R4277702) の実行

オーダー明細行のスコアについて

JD Edwards EnterpriseOneフルフィルメント管理システムでは、オーダー行のスコアを算出して在庫を充当する優先順位を決定するようにシステムを設定できます。オーダー行のスコアは次の要素(因数)を使用して決定されます。

- オーダー・タイプ
- オーダー行タイプ
- 販売先顧客の優先順位
- 要求日付までの日数
- カスタム・ビジネス関数

オーダー行には2通りの方法でスコアを割り当てることができます。

- オーダー入力時にスコアが決定され、それがオーダー行に添付されます。
- バッチ処理中に、データ選択に基づいて複数のオーダー行のスコア値が更新されます。

オーダー行のスコアを決定する方法は2つ用意されています。

- 詳細優先情報オーダー・スコア
- 基本オーダー・スコア割当て

注意: スコアの算出は、フルフィルメント・プロセスでは任意のステップです。たとえば、ピッキング日付や顧客優先順位に基づいてオーダー行に在庫を充填できます。システムでスコアを算出するには、オーダー行がフルフィルメント・プロセスに存在する必要があります。

カスタム・ビジネス関数には、ベース・コードを変更せずにスコア算出ロジックを設定する柔軟性があります。受注オーダー・スコア・バッチ処理プログラム (R4277702) には、詳細優先情報を使用してオーダー行のスコアを計算するときにカスタム・ビジネス関数に加重係数を割り当てるオプションがあります。

受注オーダー入力時のスコアの算出

オーダー入力時にオーダー行のスコアを算出するには、フルフィルメント管理システムが有効になっており、オーダー入力時にフルフィルメント・エントリの優先順位が処理されることを確認する必要があります。「オーダー・スコアの計算」処理オプションを「1」に設定し、受注オーダー入力・プログラム (P4210) の「フルフィルメント管理のスコア算出 (R4277702)」処理オプションにバージョンを入力する必要があります。

詳細優先情報を使用して受注オーダー明細行のスコアを算出する場合は、受注オーダー・スコア・バッチ処理プログラム (R4277702) のバージョンで指定されている優先スケジュールに優先情報が含まれていることを確認する必要があります。

受注オーダー行のスコアを決定する因数のいずれかを変更する場合は、受注オーダー・スコア・バッチ処理プログラム (R4277702) を実行する必要があります。

カスタム・ビジネス関数

カスタム・ビジネス関数には、システムのベース・コードを変更せずに追加のスコア算出ロジックを設定する柔軟性があります。システムのテンプレート関数 (CustomScoringPriority) を使用して、カスタム・ビジネス関数を作成できます。

詳細優先情報を使用して受注オーダー明細行のスコアを算出する場合は、受注オーダー・スコア・バッチ処理プログラムの処理オプションを使用して、スコア計算のカスタム関数名と加重係数を入力します。

基本スコアを使用する場合は、基本スコア設定プログラム (P4277750) にカスタム関数名を入力します。

顧客優先順位の設定

この項では、顧客優先順位の概要および設定方法について説明します。

顧客優先順位について

顧客ごとにニーズが異なるため、それぞれのニーズや詳細情報に応じてトランザクションが処理されるように情報を定義しておくことができます。顧客マスター・プログラム (P03013) では、各顧客の受注オーダーが処理される優先順位を制御できます。

詳細優先情報のスコアでは、受注オーダー行のスコアを計算する因数として顧客優先順位が使用されます。顧客優先順位値に、フルフィルメント一括スコア算出プログラムの処理オプションにある加重値が乗算されます。

基本的なスコア算出方法では、基本フルフィルメント・スコア設定テーブル (F4277750) からスコアを取得する条件の1つとして顧客優先順位が使用されます。

顧客優先順位の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
請求情報	W03013E	<p>「受注管理システム・セットアップ」(G4241)、「顧客請求指示」</p> <p>「顧客マスターの処理」フォームで顧客を検索して選択します。</p> <p>「顧客マスターの改訂」フォームで、「フォーム」メニューから「請求情報」を選択します。</p> <p>「請求情報」フォームで、「請求2」タブを選択します。</p>	顧客優先順位処理コードを設定します。

顧客優先順位の設定

「請求情報」フォームにアクセスします。

「請求情報」フォーム: 「請求2」タブ

優先コード

このフィールドの機能は2つあります。

1. この顧客のオーダーを優先的に処理することを示すコードを入力します。この値を使用してピッキング・リストの印刷が設定されるため、優先的に印刷することを選択できます。また、バックオーダーの印刷レポートおよび自動バッチ・リリース・プログラムをこのコードで

順序付けし、優先順位の高いオーダーから順にリリースするように指定することもできます。

2. フルフィルメント処理に使用する受注オーダー行のスコアを計算するための因数として使用される値を入力します。UDC H40/PRの「特殊取扱コード」フィールドの数値を使用して、顧客の優先順位スコアが決定されます。このフィールドの値が数値ではない場合は、因数値としてゼロが使用されます。

詳細優先情報スコア詳細の設定

この項では、詳細優先情報スコアの概要と、次の方法について説明します。

- オーダー・タイプ優先度 (42) の優先詳細値の設定
- 行タイプ優先度 (43) の優先詳細値の設定
- 要求経過日数優先度 (44) の優先詳細値の設定

詳細優先情報スコアについて

詳細優先情報スコア方法では、詳細優先情報機能を使用して優先順位スコアを設定できます。加重係数を使用してオーダー行のスコアが計算され、加重平均が決定されます。次の計算式を使用してスコアが計算されます。

スコア = [(オーダー・タイプ優先度 × オーダー・タイプ加重率) + (行タイプ優先度 × 行タイプ加重率) + (要求日数優先度 × 要求経過日数加重率) + (顧客優先順位 × 顧客加重率) + (カスタム・ビジネス関数優先順位 × カスタム・ビジネス加重率)]

シナリオ: 詳細優先情報を使用したオーダー行のスコア算出

このシナリオでは、詳細優先情報を使用して、フルフィルメント・プロセス中にオーダー行のスコアを算出します。次の表は、オーダー行のスコアの計算に使用される因数に対して設定した優先順位スコアと加重率を表しています。

オーダー・タイプ・スコア		行タイプ・スコア		要求経過日数スコア		顧客スコア		
オーダー・タイプ	優先順位スコア	行タイプ	優先順位スコア	日数範囲	優先順位スコア	顧客	優先順位処理コード (H40/PR)	優先順位スコア
SO	3	S	6	0~3日	9	4242	3	4
S4	5	I	4	4~10日	7	4243	1	10
SZ	7	U	2	11~20日	5	4244	2	7

加重率

オーダー・タイプ = 25%

行タイプ = 15%

要求経過日数 = 30%

顧客 = 30%

シナリオ: 割り当てられたスコアと加重率

このシナリオでは、優先順位スコアが高いほど、オーダー行の優先順位が重要になります。

注意: 加重率の合計は100になる必要があります。

次の表に、顧客のオーダーの明細をリストします。

顧客	明細
4242	この顧客のオーダーの明細は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> ・ オーダー・タイプ = S4 ・ 行タイプ = S ・ オーダーの期日は2日後です。
4243	この顧客のオーダー明細は顧客4242と同じです。
4244	この顧客のオーダーの明細は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> ・ オーダー・タイプ = SO ・ 行タイプ = I ・ オーダーの期日は6日後です。

各オーダー行のスコアが計算されて比較されます。このシナリオの情報に基づくと、次の結果が生成されます。

	4242		4243		4244	
	計算	加重スコア	計算	加重スコア	計算	加重スコア
オーダー・タイプ・スコア	$5 \times 0.25 =$	1.25	$5 \times 0.25 =$	1.25	$3 \times 0.25 =$	0.75
行タイプ・スコア	$6 \times 0.15 =$	0.90	$6 \times 0.15 =$	0.90	$4 \times 0.15 =$	0.60
要求経過日数スコア	$9 \times 0.30 =$	2.70	$9 \times 0.30 =$	2.70	$7 \times 0.30 =$	2.10
顧客スコア	$4 \times 0.30 =$	1.20	$10 \times 0.30 =$	3.00	$7 \times 0.30 =$	2.10
合計		6.05		7.85		5.55

シナリオ: 計算されたスコア

計算結果として示されているように、最初に顧客4243、次に顧客4242、最後に顧客4244の順にオーダー行に在庫が充当されます。

詳細優先情報スコア詳細の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
優先値の改訂	W4072D	<p>「詳細優先情報」(G40311)、「詳細優先情報詳細の改訂」</p> <p>「優先詳細の処理」フォームで、優先名を検索して選択します。</p> <p>「優先情報詳細の改訂」フォームで、レコードを選択します。</p> <p>「ロー」メニューの「優先詳細」を選択します。</p>	優先詳細値を設定します。

オーダー・タイプ優先度(42)の優先詳細値の設定

「優先値の改訂」フォームにアクセスします。

参照:

ORACLE® JD EDWARDS ENTERPRISEONE Financial/Distribution Company [JPY900] サインアウト

詳細優先情報詳細の改訂 - 優先値の改訂

OK(O) 削除(D) 取消(L) ツール(T)

Preference Name: OTRIO オーダー・タイプ優先度

詳細優先タイプ: 42 オーダー・タイプ優先度

レコード 1 - 6 グリッドのカスタマイズ

順序No.	オーダータイプ	オーダータイプ優先度
1.00 00		5734530
10.00 S0		
20.00 S4		
30.00 S8		
40.00 ST		

オーダー・タイプ優先度 (42) の「優先値の改訂」フォーム

順序No. 情報の順序を指定する番号を入力します。

オーダータイプ この優先度を処理する伝票のタイプを識別するユーザー定義コード (00/DT) を入力します。

オーダー・タイプ優先度 受注オーダー行のスコア計算用の因数として使用される、オーダー・タイプに関連付けられている優先度値を入力します。このスコアは、受注オーダー入力時に、またはバッチ処理で計算できます。

行タイプ優先度 (43) の優先詳細値の設定

「優先値の改訂」フォームにアクセスします。

参照:

ORACLE® JD EDWARDS ENTERPRISEONE Financial/Distribution Company [JPY900] サインアウト

詳細優先情報詳細の改訂 - 優先値の改訂

OK(O) 削除(D) 取消(L) ツール(T)

Preference Name LTPRIO 行タイプ優先度

詳細優先タイプ 43 行タイプ優先度

レコード 1-5 グリッドのカスタマイズ

順序No.	行タイプ	行タイプ優先度
1.00	00	5734530
10.00	S	
20.00	UY	
30.00	I	

行タイプ優先度(43)の「優先値の改訂」フォーム

- 順序No.** 情報の順序を指定する番号を入力します。
- 行タイプ** 取引行の処理方法を制御するコードを入力します。
- 行タイプ優先度** 受注オーダー行のスコア計算用の因数として使用される、行タイプに関連付けられている優先度値を入力します。このスコアは、受注オーダー入力時に、またはバッチ処理で計算できます。

要求経過日数優先度(44)の優先詳細値の設定

「優先値の改訂」フォームにアクセスします。

参照:

ORACLE® JD EDWARDS ENTERPRISEONE

Financial/Distribution Company [JPY900]

サインアウト

詳細優先情報詳細の改訂 - 優先値の改訂

OK(O) 削除(D) 取消(L) ツール(T)

Preference Name

RDAPRIO

要求経過日数優先度

詳細優先タイプ

44

要求経過日数優先度

レコード 1 - 7

グリッドのカスタマイズ

	順序No.	確定 出荷日数	計画需要 予測日数
<input type="radio"/>	10.00	-99999	100
<input type="radio"/>	20.00	-2	80
<input type="radio"/>	30.00	0	75
<input type="radio"/>	40.00	5	50
<input type="radio"/>	50.00	10	40
<input type="radio"/>	60.00	30	10

要求経過日数優先度(44)の「優先値の改訂」フォーム

順序No.

情報の順序を指定する番号を入力します。

注意:

優先度が正しく割り当てられるように、情報は昇順で指定する必要があります。

要求経過日数

要求日付までの日数を表す値を入力します。要求経過日数は、要求日付から今日の日付を引いた値として計算されます。このルールは、この数値がそこに指定された日数以上であり、次の日数の開始値より小さい場合に適用されます。要求経過日数計算には、すべてのカレンダー日が含まれます。要求日付が過去であることを指定するには、負の値を入力します。次に例を示します。

要求経過日数 = -99999: 要求日付から3日以上、99999日未満経過したオーダー。

要求経過日数 = -2: 要求日付から1または2日経過したオーダー。

要求経過日数 = 0: 要求日付から0から4日経過したオーダー。

要求経過日数 = 5: 要求日付まで5から9日のオーダー。

要求経過日数 = 10: 要求日付まで10から29日のオーダー。

要求経過日数 = 30: 要求日付まで30日以上 of のオーダー。

要求日数優先度

受注オーダー行のスコア計算用の因数として使用される、要求経過日数に関連付けられている優先度値を入力します。このスコアは、受注オーダー入力時に、またはバッチ処理で計算できます。

基本スコア情報の設定

この項では、基本スコア割当方法の概要と基本スコア情報の設定方法について説明します。

基本スコア割当てについて

基本スコア割当方法によって、基本スコア設定プログラム (P4277750) を使用して、オーダー・タイプ、要求経過日数、行タイプ、顧客優先順位およびカスタム・ビジネス関数に基づいてスコアを事前定義できます。データを対話形式で入力することに加え、データのインポートとエクスポートを行うことができます。すべてのフィールドのデータを昇順に並べて、レコードの取得方法を指定します。

次の表は、基本スコア割当てを表しています。

オーダー・タイプ	行タイプ	顧客優先順位値	要求経過日数	カスタム関数優先順位	優先順位スコア
SO	S	10	5	0	6
SO	S	10	3	0	80
SO	S	10	1	0	95
SO	S	10	-99999	0	150
SO	S	5	5	0	50
SO	S	5	3	0	75
SO	S	5	1	0	90
SO	S	5	-99999	0	125
SO	S	0	5	0	45
SO	S	0	3	0	70
SO	S	0	1	0	85
SO	S	0	-99999	0	110
SR	S	10	-99999	0	120
SR	S	5	-99999	0	110
SR	S	0	-99999	0	90

オーダー・タイプ = SO

行タイプ = S

顧客優先順位値 = 3

要求経過日数 = 4

カスタム関数優先順位 = 0 (この例では、カスタム関数は使用されていません)

基本スコア割当て

フルフィルメント・プロセス中に、基本フルフィルメント・スコア設定テーブル (F4277750) からオーダー・スコアが取得され、そのスコアがオーダー行に割り当てられます。この例の条件に基づくと、オーダー行のスコアとして70が割り当てられます。

基本スコア情報の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
基本スコア設定	W4277750A	「フルフィルメント設定」(G4277710)、「基本スコア設定」	基本スコア情報を設定します。

基本スコア情報の設定

「基本スコア設定」フォームにアクセスします。フォームの上部のセクションを使用して、オーダー・タイプ、行タイプ、顧客優先順位範囲、要求経過日数範囲およびカスタム関数優先順位範囲でレコードをフィルタします。クエリーを使用してフィルタ条件を保存することもできます。

Oracle JD Edwards EnterpriseOne
Financial Distribution Company [BPY000]
サインアウト

基本スコア設定 - 基本スコア設定

保存して実行(F) 保存して閉じる(C) 閉じる(L)

オーダー・タイプ 行タイプ

顧客優先順位 要求経過日数 カスタム関数優先順位

下限: 開始: 下限: 上限: 終了: 上限:

クエリーの選択 クエリーの保存 クエリーの編集

検索(F) 取消

レコード 1 - 10 11

	顧客優先順位 (下限)	オーダー・タイプ	要求経過日数 (開始)	行タイプ	カスタム関数優先順位 (下限)	オーダー・スコア
<input type="checkbox"/>	10.000	S4	999-	S	.000	101.000
<input type="checkbox"/>	10.000	S4	5	S	.000	51.000
<input type="checkbox"/>	10.000	S4	10	S	.000	11.000
<input type="checkbox"/>	10.000	S4	40	S	.000	6.000
<input type="checkbox"/>	10.000	S8	999-	S	.000	102.000
<input type="checkbox"/>	10.000	S8	5	S	.000	52.000
<input type="checkbox"/>	10.000	S8	10	S	.000	12.000
<input type="checkbox"/>	10.000	S8	40	S	.000	7.000
<input type="checkbox"/>	10.000	SO	999-	S	.000	100.000
<input type="checkbox"/>	10.000	SO	5	I	.000	54.000

削除(D) 保存して実行(F) 保存して閉じる(C) 閉じる(L)

「基本スコア設定」フォーム

顧客優先順位 (下限)

フルフィルメント処理中にスコアを選択するための顧客優先順位を入力します。この値は、受注オーダー行の優先順位処理UDC値(H40/PR)の特殊取扱コード値以下の場合に、基本スコアを選択するために使用されます。

要求経過日数 (開始)

要求日付までの日数(要求日付が過去の場合は負)を入力します。この値は、オーダー行の要求日付と今日の日付の差より小さい場合に、フルフィルメント処理で基本スコアを選択するために使用されます。

オーダー・タイプ

フルフィルメント処理中にスコアを選択するためのオーダー・タイプを入力します。この値は、受注オーダー行のオーダー・タイプと等しい場合に、基本スコアを選択するために使用されます。

行タイプ	フルフィルメント処理中にスコアを選択するための行タイプを入力します。この値は、受注オーダー行の行タイプと等しい場合に、基本スコアを選択するために使用されます。
カスタム関数優先順位 (下限)	フルフィルメント処理中にスコアを選択するためのカスタム関数優先順位を入力します。この値は、受注オーダー・スコア・バッチ処理プログラム (R4277702) の処理オプションで指定されたカスタム・スコア関数から返された値以下の場合に、基本スコアを選択するために使用されます。
オーダー・スコア	指定した因数に基づいてオーダー行に割り当てるスコアを入力します。基本フルフィルメント・スコア設定テーブル (F4277750) からスコアが取得され、そのスコアがオーダー行に割り当てられます。

受注オーダー・スコア・バッチ処理プログラム (R4277702) の実行

この項では、次の方法について説明します。

- ・ 受注オーダー・スコア・バッチ処理プログラムの実行
- ・ フルフィルメント一括スコア算出 (R4277702) の処理オプションの設定

受注オーダー・スコア・バッチ・スコア算出の実行

「フルフィルメント管理の上級/技術的操作」(G4277730)、「受注オーダー・スコア・バッチ処理」を選択します。

フルフィルメント一括スコア算出 (R4277702) の処理オプションの設定

処理オプション

1. スコア方法

フルフィルメント処理のオーダー・スコアを決定するために使用されるスコア方法を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 基本スコア方法を使用します。

1: 詳細スコア方法を使用します。

注意: 詳細スコアは、次の計算式に基づいて計算されます。

$$\text{スコア} = [(\text{オーダー・タイプ優先度} \times \text{オーダー・タイプ加重率}) + (\text{行タイプ優先度} \times \text{行タイプ加重率}) + (\text{要求経過日数優先度} \times \text{要求日付加重率}) + (\text{顧客優先順位} \times \text{顧客加重率}) + (\text{カスタム・ビジネス関数優先順位} \times \text{カスタム・ビジネス加重率})]$$

2. オーダー・タイプ優先度の優先情報の加重係数

オーダー・タイプ優先度詳細優先情報の加重の計算に使用されるパーセント値を指定します。

詳細スコア方法を使用する場合は、このパーセント値にオーダー・タイプ優先度 (42) 詳細優先情報から取得された値が乗算され、加重スコアの計算時に結果が含まれます。

パーセントとして入力した値が処理されます。0から100の値を入力する必要があります。加重処理オプションの合計は100になる必要があります。

3. 行タイプ優先度の優先情報の加重係数

行タイプ優先度詳細優先情報の加重の計算に使用されるパーセント値を指定します。

詳細スコア方法を使用する場合は、このパーセント値に行タイプ優先度(43)詳細優先情報から取得された値が乗算され、加重スコアの計算時に結果が含まれます。

パーセントとして入力した値が処理されます。0から100の値を入力する必要があります。加重処理オプションの合計は100になる必要があります。

4. 販売先顧客優先度の加重係数

販売先顧客優先度の加重の計算に使用されるパーセント値を指定します。

詳細スコア方法を使用する場合は、このパーセント値に販売先顧客優先度(UDC H40|PR)から取得された数値の特殊取扱コードが乗算され、加重スコアの計算時に結果が含まれます。

パーセントとして入力した値が処理されます。0から100の値を入力する必要があります。加重処理オプションの合計は100になる必要があります。

5. 要求日付優先度の優先情報の加重係数

要求日数優先度詳細優先情報の加重の計算に使用されるパーセント値を指定します。

詳細スコア方法を使用する場合は、このパーセント値に要求日数優先度(44)詳細優先情報から取得された値が乗算され、加重スコアの計算時に結果が含まれます。

パーセントとして入力した値が処理されます。0から100の値を入力する必要があります。加重処理オプションの合計は100になる必要もあります。

6. カスタム優先度の加重係数

カスタム・ビジネス関数の加重の計算に使用されるパーセント値を指定します。

詳細スコア方法を使用する場合は、このパーセント値に次の処理オプションで定義されるカスタム優先度計算関数から取得された数値が乗算され、加重スコアの計算に結果が含まれます。

パーセントとして入力した値が処理されます。0から100の値を入力する必要があります。加重処理オプションの合計は100になる必要があります。

7. カスタム優先度計算関数

行のスコアを決定するために使用するカスタム優先度の計算に使用されるビジネス関数名を指定します。カスタム優先度計算関数では、定義済のデータ構造D4277701Aが使用され、オーダー・スコア・パラメータで数値の優先度が返されます。

基本スコア方法では、基本フルフィルメント・スコア設定テーブルからスコアを取得する条件の1つとしてカスタム優先度が使用されます。この処理オプションをブランクにすると、カスタム関数のスコア値としてゼロが取得されます。

詳細スコア方法では、カスタム関数から取得された優先度値にカスタム優先度の加重係数が乗算され、結果がスコアの合計に含まれます。この処理オプションをブランクにすると、スコアの合計に含める値としてゼロが取得されます。

8. 詳細優先情報の一時変更スケジュール

システム固定情報で定義されているデフォルトの優先スケジュールのかわりに使用される優先情報スケジュールを指定します。スケジュールでは、詳細スコア方法の計算で使用されるオーダー・タイプ優先度(42)、行タイプ優先度(43)および要求日数優先度(44)詳細優先情報の優先度処理が制御されます。

注意:「詳細優先情報」メニュー(G40311)の詳細優先情報スケジュールの改訂プログラム(P4070)を使用して、優先情報スケジュールを修正します。

9. 基本スコアが見つからない場合の警告の設定

基本スコア方法を使用する場合、基本スコアが見つからないときに警告を設定するかどうかを指定します。オーダー行のスコアのデフォルト値としてゼロが使用されます。

スコアが高いほうが優先度が高い場合、優先度が最も低いオーダー行の基本スコア・データを設定する必要はありません。

スコアが低いほうが優先度が高い場合、ゼロはオーダー明細行に対して有効なスコアになる可能性があります。この処理オプションを使用して、オーダー行のスコアが見つからない場合に警告が発行されるようにします。この設定によって、最も重要な優先度のスコアを不注意で行に関連付けるのを防ぐことができます。

値は次のとおりです。

ブランク: 警告を設定しない

1: 警告を設定する

第 5 章

サービス・レベル・ルールの設定と処理

この章では、次の方法について説明します。

- サービス・レベル・ルールの設定
- 受注オーダー入力時のサービス・レベル・ルールの処理
- サービス・レベル・ルールの更新 (R4277705) の実行
- サービス・レベル・ルールの一時変更

サービス・レベル・ルールの設定

この項では、サービス・レベル・ルールの概要と設定方法について説明します。

サービス・レベル・ルールについて

サービス・レベル契約 (SLA) は、顧客とサービス・プロバイダの2者間で合意された契約です。この契約には、法的拘束力を持つ公式契約または非公式の契約があります。SLAには、サービス、優先順位および責任に関する共通の理解が記録されます。SLAでは、サービス・プロバイダが提供する必要のある供給量、保守サービスまたはパフォーマンスのレベルを指定できます。このサービス・レベルを目標または最低要件として指定することにより、顧客は、どのようなサービスが提供されるか知ることができます。契約によっては、一方の当事者が契約に違反した場合のペナルティについて規定する場合もあります。

サービス・レベル・ルールには、顧客の受注オーダーを満たすための要件を定義します。JD Edwards EnterpriseOneフルフィルメント管理システムのサービス・レベル・ルールを定義するには、サービス・レベル・ルールの管理プログラム (P4277760) を使用します。サービス・レベル・ルールは、顧客、顧客グループ、品目、品目グループ、事業所、リリース番号、有効日付および満了日付に基づいて検索されます。次に示すプロセスの間にサービス・レベル・ルールが解決され、サービス・レベル・ルール・テーブル (F4277701) とサービス・レベル・ルール明細テーブル (F4277711) が更新されます。

- サービス・レベル・ルールの解決用として設定された受注オーダー入力 (P4210) のバージョンを使用して行う受注オーダーの入力。
- サービス・レベル・ルール・プロセッサ・プログラムのバッチ実行。
- フルフィルメント・ワークベンチ・プログラム (P4277701) からの事業所の変更。
- フルフィルメントからのリリース・プログラム (R4277703) の実行。これは分割行専用です。

JD Edwards EnterpriseOneフルフィルメントでは、サービス・レベル・ルールに次のものを含めることができます。

- 行充填パーセント・ルール
- オーダー充填パーセント・ルール

- リリース・ルール
- 取消ルール
- 一部引当ルール
- 行カスタム関数ルール
- オーダー・カスタム関数ルール

注意: サービス・レベル・ルールは、フルフィルメント管理プロセスではオプションです。

行充填パーセント・ルール

行充填パーセント・ルールを使用して、受注オーダー行の最小充填パーセントを指定できます。受注オーダー行ごとに、個別の行充填パーセント・ルールを使用できます。充填パーセントは、複数の分割された行を含む1行のすべてのリリースによって累積的に増大します。

行充填パーセントは、行の充填数量を行のオーダー数量で除算することで決定されます。結果が最小充填パーセントに満たない場合、受注オーダー行はフルフィルメントからリリースされません。この評価は、次の場合に実行されます。

- フルフィルメント・ワークベンチプログラム (P4277701) を使用する場合
- 自動フルフィルメント処理プログラム (R4277701) を実行する場合
- 充当数量のある受注オーダーを改訂する場合

注意: ルールに複数のリリース番号が含まれる場合、最小限必要とされる充填パーセントは、分割されたオーダー数量ではなく要求されたオーダー数量に基づいて、対象の行について累積的に増大します。

次の表は、行充填パーセント要件のある受注オーダー行の例です。

行	品目	行充填パーセント・ルール要件	充当数量	オーダー数量	充填数量パーセント	行充填パーセント・ルール適合
1	A	85%	9	10	90%	Y
2	B	90%	4	5	80%	N
3	C	80%	7	10	70%	N
4	D	90%	7	7	100%	Y
5	E	85%	5	5	100%	Y

行充填パーセント要件のある受注オーダー行の例

この例では、行1、4および5がそれぞれの行充填パーセント・ルール要件を満たすか、要件の値を上回っています。これらの行はフルフィルメントからリリースされます。一方、行2と3はそれぞれの行充填パーセント・ルール要件を満たしていません。行2と3は、それぞれの行充填パーセント・ルール要件を満たしていない受注オーダー行として評価されます。このため、これらの行はフルフィルメントからリリースされません。

フルフィルメントからのリリース・プログラム(R4277703)の実行時に、最小充填パーセントが満たされているか超えていることが確認されます。行が要件を満たしていなかった場合、その行はフルフィルメントからリリースされません。

オーダー充填パーセント・ルール

オーダー・レベルでは、オーダーの充填された行数がオーダーの初期リリースの最小充填パーセントを満たしているかどうかの評価されます。

それぞれの行充填要件を満たす行数を、フルフィルメントにあるオーダーの合計行数で除算することで、オーダー充填パーセントが決定されます。オーダー充填パーセントを計算する場合は、オーダー・サービス・レベル・ルールが関連付けられている、フルフィルメント・プロセスに入力された行のみ使用されます。したがって、このプロセスは次の2つのステップからなります。

1. オーダーのすべてのフルフィルメント行に充填された数量が、それぞれの行充填パーセント・ルールを満たしているかどうか判断されます。
2. 前述の計算を実行して、オーダー充填パーセントが決定されます。

次の表は、オーダー充填パーセント・ルール要件を満たす受注オーダーの例です。

オーダー充填パーセント・ルール = 80%						
行	品目	行充填パーセント・ルール要件	充当数量	オーダー数量	充填数量パーセント	行充填パーセント・ルール適合
1	A	85%	9	10	90%	Y
2	B	90%	9	10	90%	Y
3	C	80%	7	10	70%	N
4	D	90%	7	7	100%	Y
5	E	85%	5	5	100%	Y

オーダー充填パーセント要件を満たす受注オーダーの例

この例では、行3は行充填パーセント要件を満たしていません。一方、行1、2、4および5はそれぞれの行充填パーセント要件を満たすか、要件の値を上回っているため、受注オーダーはオーダー充填パーセント・ルール要件を満たすものとして評価されます(4/5 = 80 パーセント)。フルフィルメントからのリリース・プログラムの実行時に、フルフィルメントから4行がリリースされます。

次の表に、オーダー充填パーセント・ルール要件を満たしていない受注オーダーの例を示します。

オーダー充填パーセント・ルール = 80%

行	品目	行充填パーセント・ルール要件	充当数量	オーダー数量	充填数量パーセント	行充填パーセント・ルール適合
1	A	85%	9	10	90%	Y
2	B	90%	4	5	80%	N
3	C	80%	7	10	70%	N
4	D	90%	7	7	100%	Y
5	E	85%	5	5	100%	Y

オーダー充填パーセント要件を満たしていない受注オーダーの例

この例では、行2と3はそれぞれの行充填パーセント要件を満たしていません。受注オーダーは、オーダー充填パーセント・ルール要件を満たしていないものとして評価されます (3/5 = 60%)。どの行もフルフィルメントからリリースされません。

自動フルフィルメント処理プログラム (R4277701) を実行すると、設定したデータ選択に従ってすべての受注オーダー行が処理されます。このプロセスでは、受注オーダーの各行の充当が評価された後、設定された要件をオーダー充填パーセントが満しているかどうか判断されます。

フルフィルメント・ワークベンチ・プログラム (P4277701) または受注オーダー入力プログラム (P4210) を使用して受注オーダーを改訂する場合、行を選択して最初に修正した時点で、オーダー充填パーセントが評価されます。設定された要件をオーダー充填パーセントが満たすかどうかを判断するために、すべての受注オーダー行が評価されます。オーダー充填パーセントに対する変更は、オーダー・レベル・ルールが添付されているオーダーのすべての行に適用されるオーダー見出しパーセント・フィールドに記録されます。

注意: オーダー充填パーセントに対する最後の変更は、前の変更を置き換えます。

システムでは、受注オーダー入力時および自動フルフィルメント処理時に、オーダー・レベル・ルールが編集されます。この動作により、オーダー・レベル・ルールが設定されているすべてのオーダー行で、オーダー・レベル充填パーセントが等しくなります。オーダー行によってオーダー充填パーセントが異なる場合は、次のように処理されます。

1. 最も高い充填パーセントが使用されます。
2. オーダー見出しパーセント・フィールドに充填パーセントが記録されます。
3. 該当する理由コードが記録されます。

フルフィルメントから最初にリリースされるオーダーについてのみ、オーダー充填パーセントが評価されます。後続のリリースでは、行レベル・ルールを使用して未処理の行が評価されます。

オーダー充填パーセント・ルールを使用してキットを処理する場合は、キット親品目行のみ計算に含まれます。キット構成行は計算に使用されません。

リリース・ルール

リリース・ルールでは、行のリリース回数を管理できます。サービス・レベル・ルールの管理プログラム (P4277760) を使用して、行のフルフィルメント・リリース回数を指定できます。行のすべてのリリースに適用するルールを定義するか、特定のリリース番号ごとにルールを定義できます。たとえば、ある顧客のリリース回数を3に制限できます。リリース回数を3に設定する場合、たとえば次のような条件を使用できます。

- リリース1には80%の充当が必要
- リリース2には95%の充当が必要
- リリース3には100%の充当が必要

最後のリリース番号では、全数量が処理されるようにするために最小充填パーセントが100%である必要があります。充填パーセントが満たされないと、行がフルフィルメントからリリースされません。最後のリリース番号に取消ルールを使用して、行の残りの未処理残数を取り消すこともできます。100%の充填が不要な場合または未処理残数を取り消す場合は、分割行に最小充填パーセント要件は割り当てられません。行に対して追加の行が作成され、サービス・レベル・ルール情報が適用されないように分割行が追加されます。

特定のリリース番号に関連付けられたサービス・レベルが見つからない場合は、デフォルトのリリース番号ルールが検索されます。デフォルトのリリース番号ルールが見つからない場合、オーダー行にルールは適用されません。

取消ルール

取消ルールでは、特定の充填パーセントのときに行の未処理残数を取り消すように指定できます。サービス・レベル・ルールの管理プログラムを使用して、行の残数を取り消すかどうかを指定できます。次に例を示します。

1. 顧客Aでは、95%の行充填パーセントが要求されます。この行充填パーセントが満たされると、残りの5%を未処理のままにして行が新しい行に分割されます。
2. 顧客Bでは、98%の行充填パーセントが要求されます。この充填パーセント・ルールが満たされると、残りの2%を取り消すことができます。取消しは、フルフィルメントからのリリース・プログラム (R4277703) の実行時に行われます。

リリース番号に取消ルールに関連付けて、後続のリリースを停止することができます。次に例を示します。

- リリース1には80%の充当が必要
- リリース2には95%の充当が必要
- リリース3には98%の充当が必要、2%の未処理残数は取り消す

一部引当ルール

一部引当ルールでは、部分オーダー数量の在庫を受注オーダー行にソフト・コミットするかどうかを指定できます。サービス・レベル・ルールの管理プログラムを使用して、行およびオーダー充填パーセント要件を満たすよう在庫が引当可能になるまで、行の数量を保持しておくかどうかを指定します。

一部引当を実行するようにフラグを設定しない場合、他の受注オーダーに在庫を引き当てることができません。オーダー充填パーセント・ルールを使用している場合は、オーダー充填パーセント・ルールが関連付けられている受注オーダーのすべての行を処理し、充当数量がオーダー充填パーセント要件を満たすかどうかを判断する必要があります。オーダーが最小オーダー充填パーセント要件を満たさない場合は、オーダーのどの行に対しても在庫がソフト・コミットされません。次に例を示します。

- オーダー数量 = 100
- 行充填パーセント = 90

- 引当可能数量 = 50
- 一部引当 = なし

この例では、行に引当可能な50ユニットが引当可能なまま残り、受注オーダー行の数量はソフト・コミットされません。90%の充填レベルを満たすために少なくとも品目が90個が引当可能になるまで、在庫は行に割り当てられません。

注意: 一部引当ルールは、自動フルフィルメント・プロセス中にのみ評価されます。

行カスタム関数ルール

行カスタム関数ルールを使用して、受注オーダー行の要件が満たされているかどうかの判断に使用されるカスタム関数を指定できます。受注オーダー行ごとに、個別の行カスタム関数ルールを使用できます。オーダー行が要件を満たしていないとカスタム関数で判断された場合、その受注オーダー行はフルフィルメントからリリースされません。この評価は、次の場合に実行されます。

- フルフィルメント・ワークベンチプログラム (P4277701) を使用する場合
- 自動フルフィルメント処理プログラム (R4277701) を実行する場合
- 充当数量のある受注オーダーを改訂する場合

フルフィルメントからのリリース・プログラム (R4277703) の実行時に、要件が満たされていることが確認されます。行が要件を満たしていない場合、その行はフルフィルメントからリリースされません。

オーダー・カスタム関数ルール

オーダー・レベルでは、オーダー見出しレベルで指定されたカスタム関数が開始され、オーダー・レベル・カスタム関数ルールのあるオーダー行が要件を満たしているかどうか判断されます。異なるオーダー・カスタム関数を持つ複数のオーダー・サービス・レベル・ルールが同じオーダーに対して解決される場合は、最初のオーダー・カスタム関数を使用して、オーダー・サービス・レベル・ルール要件が満たされているかどうか判断されます。同じオーダー・レベル・ルール・タイプが設定されたすべてのオーダー行に、カスタム関数要件の判断が返されます。

フルフィルメントからのリリース・プログラム (R4277703) の実行時に、要件が満たされていることが確認されます。オーダーが要件を満たしていない場合、そのオーダーはフルフィルメントからリリースされません。

サービス・レベル・ルールの設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
サービス・レベル・ルールの管理	W4277760A	「フルフィルメント設定」(G4277710)、「サービス・レベル・ルール設定」	サービス・レベル・ルールを設定します。

サービス・レベル・ルールの設定

「サービス・レベル・ルールの管理」フォームにアクセスします。

フォームの見出しセクションを使用して、グリッドに表示されているレコードをフィルタできます。

ORACLE® JD EDWARDS ENTERPRISEONE Financial/Distribution Company [JPY900] サインアウト

サービス・レベル・ルール設定 - サービス・レベル・ルールの管理

保存して続行(E) 保存して閉じる(O) 閉じる(L)

有効日付

開始

終了

満了日付

開始

終了

クエリーの選択 クエリーの保存 クエリーの編集

検索(I) 取消

レコード 1-4 グリッドのカスタマイズ

<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	順序 番号	住所 番号	顧客 グループ	品目 番号	品目 グループ	ビジネス ユニット	リリース 番号	有日
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	10	85001		A0001		75001		
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	20	85001		B0001				
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	30	85001		C0001				
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>								

削除(D)

保存して続行(E) 保存して閉じる(O) 閉じる(L)

「サービス・レベル・ルールの管理」フォーム

順序番号

ユーザー定義オーダーのレコードを処理するために使用される順序番号を入力します。ルールの検索は、順序に基づいて行われます。ルールは具体的なルールから一般的なルールの順に並べる必要があります。

住所番号

JD Edwards EnterpriseOne住所録システムの顧客などのエントリを識別する番号を入力します。

顧客グループ

顧客グループを識別するユーザー定義コード(UDC) (40/PC)を入力します。類似する特性を持つ顧客をグループ化してレコードを処理できます。

品目番号

品目に割り当てられる番号を入力します。略式、詳細形式、第3品目番号形式があります。

品目グループ

品目の在庫価格グループを識別するUDC (40/PI)を入力します。類似する特性を持つ品目をグループ化してレコードを処理できます。

リリース番号

受注オーダー行のリリース番号を表す数字を入力します。この番号は、フルフィルメント管理システムから受注オーダー行がリリースされた回数を表します。分割前のオーダーの初期(オリジナル)行は、最初のリリース、つまりリリース番号1です。

	<p>フルフィルメントからのリリース・プログラム(R4277703)で行を分割し、残りの数量を取り消さない場合は、新しい行のリリース番号が1つ増やされます。たとえば、最初の分割はリリース2、2番目の分割はリリース3などになります。</p> <p>リリース番号ごとに異なるルール要件を指定できます。</p>
規則タイプ	<p>フルフィルメント管理システムで設定したサービス・レベル・ルール・タイプを指定します。値は次のとおりです。</p> <p>01: オーダー・サービス・レベル・ルール</p> <p>02: 行サービス・レベル・ルール</p> <p>最初のリリース番号にはオーダー・サービス・レベル・ルール・タイプのみ設定できます。後続またはデフォルトのすべてのリリースは、行サービス・レベル・ルール・タイプとして設定されます。</p>
オーダーの最小充填パーセント	<p>フルフィルメントからオーダーをリリースするためにそれぞれの行要件を満たす必要のある受注オーダー行の最小パーセントを入力します。</p> <p>同じオーダーを解決するためにカスタム関数とオーダー最小充填パーセントが取得される場合は、オーダー・サービス・レベル・ルールが満たされるかどうかを判断するためにカスタム関数を使用されます。</p>
行の最小充填パーセント	<p>行をフルフィルメントからリリースするために必要なオーダー行数量の最小パーセントを入力します。</p>
取消(Y/N)	<p>フルフィルメントからのリリース・プログラム(R4277703)の実行時に受注オーダー行の未充当数量を取り消す場合は、このチェックボックスを選択します。</p>
一部引当	<p>自動フルフィルメント処理プログラム(R4277701)を使用している場合にサービス・レベル・ルール要件を満たさないオーダー行を部分的に充当する場合は、このチェックボックスを選択します。</p>
カスタム関数	<p>オーダーまたは行ルール・タイプを評価するカスタム関数の名前を入力します。</p>

ルールの作成時に、入力したフィールドに基づいてフィールドが有効または無効になります。たとえば、住所録番号を入力した場合は、「顧客グループ」フィールドが無効になります。

オーダーおよび行の充填パーセントと、カスタム・ビジネス関数は入力できません。カスタム・ビジネス関数を使用する場合、行およびオーダー充填要件は関数内で判断されます。

受注オーダー入力時のサービス・レベル・ルールの処理

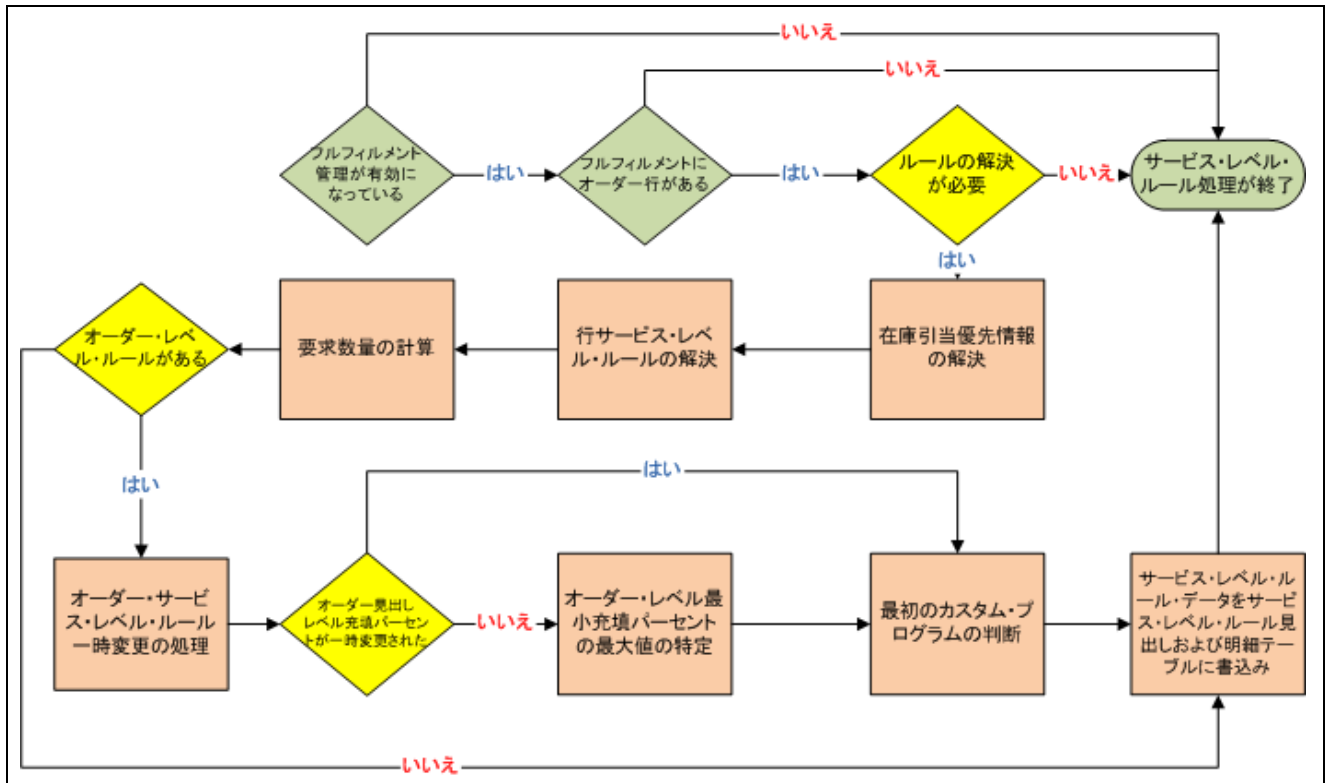
この項では、受注オーダー入力時の処理サービス・レベル・ルールの処理の概要と、次の内容について説明します。

- サービス・レベル・ルールの解決
- サービス・レベル・ルールの一時変更処理
- サービス・レベル見出し情報の動的な一時変更
- 要求されたオーダー数量の更新

- ・ サービス・レベル・ルールの処理
- ・ サービス・レベル・ルール評価必須フラグ
- ・ サービス・レベル・ルール見出しおよび明細テーブルの更新

受注オーダー入力時のサービス・レベル・ルールの処理について

次の図は、受注オーダー入力時のサービス・レベル・ルールの処理を示しています。



受注オーダー入力時のサービス・レベル・ルールの処理

次のいずれかの処理が行われるたびに、処理された受注オーダー見出しおよび行のサービス・レベル・ルールが作成されます。

- ・ 新規受注オーダーまたは受注オーダー行の作成
- ・ フルフィルメント・ワークベンチからの受注オーダー行の事業所の変更
- ・ 受注オーダー入力時の事業所の変更
- ・ 実行しているサービス・レベル・ルールの更新プログラム(R4277705)からフルフィルメント・プロセスに入力された受注オーダーのサービス・レベル・ルールの解決
- ・ フルフィルメント処理からのリリース時の出荷可能受注オーダー行の分割
- ・ フルフィルメント・エントリ・バッチ処理プログラム(R4277704)の実行

サービス・レベル・ルールの解決

サービス・レベル・ルールの解決は、販売先顧客、販売先顧客グループ、品目、品目グループ、事業所、リリース番号、および有効日付と満了日付の間の要求日付によって制御されます。これらのドライバ・フィールドは、顧客またはビジネス要件に基づいてサービス・レベル・ルールを設定する柔軟性をユーザーに提供します。サービス・レベル・ルールは、サービス・レベル・ルールの値が空白であるか、受注オーダー行で検証されたドライバ・フィールドと一致する場合に解決されます。

リリース番号ドライバ・フィールドでは、リリースごとにルールが厳格になるように設定したり、リリース回数を制限することができます。

サービス・レベル・ルールが解決され、次の値の組合せが返されます。

値	コメント
ルール・タイプ	ルール・タイプによってサービス・レベル・ルールが行レベルとオーダー・レベルのいずれであるかが判断されるため、この値は必須です。
行レベルの充填パーセント	オーダー行のサービス・レベル・ルール要件が満たされているかどうかを判断するために、行レベルの充填パーセントまたはカスタム・プログラムが取得されます。
オーダー・レベルの充填パーセント	オーダーのサービス・レベル・ルール要件が満たされているかどうかを判断するために、行レベルとオーダー・レベルの充填パーセントまたはカスタム・プログラムが取得されます。
カスタム・プログラム	オーダーのサービス・レベル・ルール要件が満たされているかどうかを判断するために、カスタム・プログラムが取得されます。
取消フラグ	取消フラグは、サービス・レベル・ルール要件が満たされた後で充填されていない数量を取り消すかどうかに応じて、YesまたはNoに設定されます。
一部引当フラグ	一部引当フラグは、一部充当された行がサービス・レベル・ルール要件を満たしていない場合に、その行に在庫を引き当てるかどうかに応じて、YesまたはNoに設定されます。

サービス・レベル・ルールが解決されるインスタンスごとに、サービス・レベル・ルール見出しテーブル (F4277701) およびサービス・レベル・ルール明細テーブル (F4277711) に戻り値が自動的に入力されます。

受注オーダー入力時に、在庫引当優先情報の解決後にサービス・レベル・ルールが解決されます。このため、在庫引当優先情報の事業所によって、サービス・レベル・ルールの解決が制御されます。事業所を変更した場合、サービス・レベル・ルールの解決は他の優先情報の解決に影響されません。

サービス・レベル・ルールの一時変更処理

自動的に入力されたルールは、必要に応じて一時変更できます。オーダー行のルールが解決された後で、ルールにアクセスして改訂できます。いずれかの受注オーダー入力プログラム (P4210 および P42101) を使用して、一時変更/照会のフォームにアクセスできます。

行レベルの充填パーセントを一時変更した場合は、ルール要件が満たされているかどうかを評価するために一時変更値が使用されます。サービス・レベル・ルール情報を使用して解決された行レベルの充填パーセントが置換されます。オーダー見出しレベルの充填パーセントを一時変更した場合は、オーダー・レベルの充填パーセントの一時変更値が見出しに割り当てられ、サービス・レベル・ルール情報から解決された個々のオーダー・レベル充填パーセントは置換されません。ただし、オーダー・レベル・ルール・タイプのすべてのオーダー行についてオーダー充填パーセントが満たされているかどうかの判断には、オーダー見出しレベル充填パーセントが使用されます。

受注オーダー入力時には、新しいサービス・レベル・ルールを追加できません。また、行がフルフィルメント処理に入力され、(その行が対象にならないために)ルールが割り当てられない場合、行のサービス・レベル・ルール情報は作成できません。

サービス・レベル見出し情報の動的な一時変更

オーダー見出しレベルの充填パーセントおよびオーダー・レベルのカスタム・プログラムを判断するために、オーダーの既存の行が評価されます。

また、「一時変更理由コード」フィールドに値DYN(動的に割当)が自動的に入力されます。これは、オーダー見出しにある最小充填パーセント値がシステムによって決定されたことを示します。

オーダー見出しレベルの充填パーセントを判断するために、オーダー・レベル・ルールが設定されたすべてのオーダー行のオーダー・レベル充填パーセントが比較され、最大のパーセントがオーダー見出しに割り当てられます。この値はF4277701テーブルに保存されます。この判断は、オーダー見出しレベルの充填パーセントを対話形式で一時変更しない場合にのみ行われます。選択した充填パーセントに関連付けられている最小の行番号がF4277701テーブルに格納されます。行を取り消し、新しいオーダー見出しレベルの充填パーセントをシステムで判断する必要がある場合は、この行番号が使用されます。

オーダー・レベルのカスタム・プログラムを判断するために、オーダー行が行番号でソートされ、オーダー・レベル・ルール・タイプの最小の行番号のカスタム・プログラムがオーダー見出しに割り当てられます。この行番号がサービス・レベル・ルール見出しテーブルに格納され、行を取り消して新しいオーダー・レベル・カスタム・プログラムを判断する必要がある場合に使用されます。

要求されたオーダー数量の更新

受注オーダー行の作成時に、オーダー数量がサービス・レベル・ルール明細テーブル(F4277711)の要求数量に更新されます。

行が分割された場合の合計充填率の判断には、要求数量が使用されます。

受注オーダー行でオーダー数量を変更すると、既存のオーダー数量と新しいオーダー数量の差異と、関連するすべての行が更新されます。たとえば、すでに一部リリースされている行でオーダー数量を変更した場合は、現在処理されている行とすでにリリースされた行の両方で要求数量が更新されます。

受注オーダー行が分割されると、既存の要求数量が分割行にコピーされます。

サービス・レベル・ルールの処理

受注オーダー行のオーダー数量を充当数量で改訂すると、サービス・レベル・ルール・データが評価され、サービス・レベル要件が満たされているかどうか判断されます。要件が満たされている場合は、行/オーダー・ルール評価必須フラグが設定されます。

サービス・レベル・ルール評価必須フラグ

サービス・レベル・ルール (SLR) 評価必須フラグは、受注オーダー行が変更された場合、受注オーダー行が再評価されるかどうか、またはオーダーがサービス・レベル・ルール要件を満たすどうかの判断にどのように影響するかを示します。オーダー充填パーセントと行充填パーセントを使用している場合、オーダー数量の変更または行やオーダーのパーセントの一時変更によってフラグが設定されることがあります。受注オーダー明細行の事業所を変更すると、必ずフラグが設定されます。値は次のとおりです。

- 0: サービス・レベル・ルール要件の適合状況に影響する部品変更はありません。
- 1: オーダー行で、サービス・レベル・ルールの適合状況に影響する部品変更が行われました。

SLR評価必須フラグが1の場合は、サービス・レベル・ルール適合状況によって決定された行のリリース条件が変更されたことを示します。オーダー行がリリースされる前に、次の4通りの方法のいずれかを使用して変更を承認する必要があります。

- フルフィルメント・ワークベンチ・プログラムの編集フォームから、行またはオーダーの評価必須フラグを選択解除します。
- フルフィルメント・ワークベンチを使用して、オーダー行の充当数量、事業所または約束納入日付を変更します。
- 自動フルフィルメント・プログラム (R4277701) を実行して、行を再評価します。これにより変更が承認されます。
- サービス・レベル・ルールの更新プログラム (R4277705) を実行して、オーダー行またはオーダーのサービス・レベル・ルールを再評価します。

受注オーダー入力で変更が行われるたびに、SLR評価必須フラグ値がチェックされます。システムで充填パーセント・ルールが使用される場合、オーダー数量に対する変更、あるいは行またはオーダー充填パーセントに対する一時変更は、到達フラグの変更に影響する可能性があります。受注オーダー入力から事業所を変更した場合は、SLR評価必須フラグがチェックされます。

サービス・レベル・ルールの照会/一時変更 (P4277711)

SLR評価必須フラグは受注見出しレベルで表示されます。オーダー充填パーセントが一時的に変更され、結果がオーダー・レベル到達フラグに対する変更である場合は、見出しおよびオーダーレベル・ルールタイプが関連付けられているすべての受注オーダー行のSLR評価必須フラグが1に設定されます。

行充填パーセントが一時的に変更され、結果が行レベル到達フラグに対する変更である場合は、SLR評価必須フラグが1に設定されます。変更を行った後で「サービス・レベル・ルールの照会/一時変更」フォームを取り消した場合は、一時変更パーセント、オーダーおよび行レベルの理由コード、およびSLR評価必須フラグの既存の値が復元されます。

フルフィルメント・ワークベンチ (P4277701)

フルフィルメント・ワークベンチの「検索」フォーム・グリッドのSLR評価必須フラグはクエリーをフィルタする目的で表示されています。フルフィルメント・ワークベンチの「編集」フォームのSLR評価必須フラグは、グリッドのチェックボックスで示されます。SLR評価必須フラグの値が1の場合は、チェックボックスが選択済として表示されます。値が0の場合は、チェックボックスが選択解除されます。

自動フルフィルメント処理 (R4277701)

自動フルフィルメント処理プログラムを実行してSLR評価必須フラグが1に設定されている行があるかチェックする場合は、サービス・レベル・ルール・エンジンによってデータが再評価され、オーダーまたは行レベル・ルールが満たされているかどうか判断されます。

サービス・レベル・ルール・エンジン

サービス・レベル・ルール・エンジンがP4277701またはR4277701の行を評価したときに、SLR評価必須フラグが1の場合は、SLR評価必須フラグが0に設定されます。

フルフィルメントからのリリース(R4277703)

フルフィルメントからのリリース・プログラムを実行する場合、SLR評価必須フラグが1に設定されている行はリリースされません。これらの行はエラーとしてマークされ、PDFエラー・レポートがワーク・センターに作成されます。電子メール機能が有効になっている場合は、リリースされなかった行についての電子メール通知にこれらの行が含まれます。

サービス・レベル・ルールの更新(R4277705)

サービス・レベル・ルールの更新プログラムを実行してルールを解決する場合、SLR評価必須フラグは設定されません。

サービス・レベル・ルール見出しおよび明細テーブルの更新

サービス・レベル・ルールが解決される場合は、サービス・レベル・ルール見出しおよび明細テーブルの次の情報が更新されます。

サービス・レベル・ルール見出しテーブル(F4277701)	サービス・レベル・ルール明細テーブル(F4277711)
オーダーの最小充填パーセント	サービス・レベル・ルール・タイプ
サービス・レベルの一時変更理由コード	行の最小充填パーセント
オーダーの最小充填パーセントの行番号	サービス・レベルの一時変更理由コード
サービス・レベルのカスタム関数	行サービス・レベル到達
サービス・レベルのカスタム関数の行番号	オーダーの最小充填パーセント
リリース済みのオーダー	オーダー・サービス・レベル到達
オーダー・サービス・レベル到達	サービス・レベルのカスタム関数
SLR評価必須フラグ	サービス・レベルのリリース番号
	サービス・レベル取消(Y/N)
	サービス・レベル取消の一時変更
	サービス・レベルの一部引当
	要求数量
	サービス・レベルの当初行番号
	SLR評価必須フラグ

オーダー数量、充当数量を変更するか、受注オーダーまたは行のルール情報を一時変更した場合は、サービス・レベル・ルール見出しおよび明細テーブルの次の情報が更新されます。

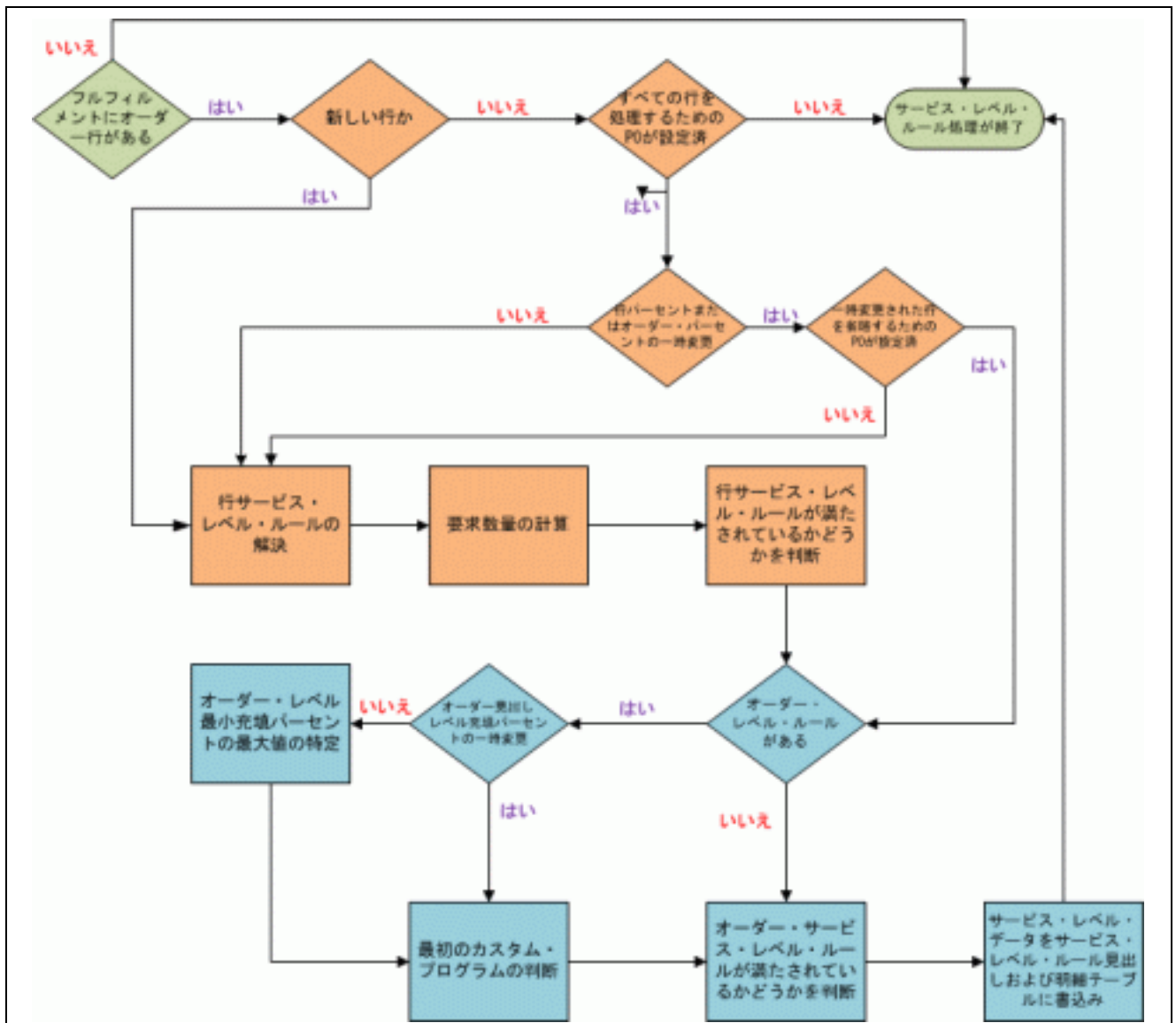
サービス・レベル・ルール見出しテーブル(F4277701)	サービス・レベル・ルール明細テーブル(F4277711)
オーダーの最小充填パーセント	行の最小充填パーセント
サービス・レベルの一時変更理由コード	サービス・レベルの一時変更理由コード
オーダーの最小充填パーセントの行番号	要求数量
サービス・レベルのカスタム関数	行サービス・レベル到達
サービス・レベルのカスタム関数の行番号	オーダー・サービス・レベル到達
SLR評価必須フラグ	SLR評価必須フラグ

サービス・レベル・ルールの更新(R4277705)の実行

この項では、サービス・レベル・ルールの概要と次の方法について説明します。

- サービス・レベル・ルールの更新プログラムの実行
- サービス・レベル・ルールの更新(R4277705)の処理オプションの設定

サービス・レベル・ルールの更新プログラムを実行して、受注オーダー入力プロセスからは独立してフルフィルメント管理システムの受注オーダー行にサービス・レベル・ルールを割り当てます。次の図に、バッチ・サービス・レベル・ルールの処理プログラムの起動時に実行されるプロセスを示します。



サービス・レベル・ルールの処理

バッチ・サービス・レベル・ルールの処理プログラムの実行

「フルフィルメント管理の上級/技術的操作」(G4277730)、「サービス・レベル・ルール・バッチ処理」を選択します。

サービス・レベル・ルール(R4277705)の処理オプションの設定

この処理オプションでは、サービス・レベル・ルールの解決処理を制御します。

処理オプション

1. 既存のサービス・レベル・ルールを使用した、受注オーダー行のサービス・レベル・ルールの解決を省略する。

既存のサービス・レベル・ルールがある受注オーダー行のサービス・レベル・ルールを解決するかどうかを指定します。このオプションは、このプログラム内の処理と、受注オーダー入力処理またはフルフィルメント・ワークベンチからの処理時に事業所を変更したときの新規サービス・レベル・ルールの解決の両方を制御します。値は次のとおりです。

ブランク: 既存のサービス・レベル・ルールがある受注オーダー行のサービス・レベル・ルールを解決する。既存のルールが削除され、サービス・レベル・ルール・テーブルの情報に基づいて新規ルールが解決されます。

1: 既存のサービス・レベル・ルールがある受注オーダー行のサービス・レベル・ルールの解決を省略する。受注オーダー行のルールが保持されます。

2. 一時変更されたオーダーまたは行の最小充填パーセント、または一時変更された取消ルール・フラグを使用した、受注オーダー行のサービス・レベル・ルールの解決を省略する。

値が一時変更された受注オーダー行のサービス・レベル・ルールを解決するかどうかを指定します。一時変更値には、行レベルの最小充填パーセントや一時変更された取消ルールが含まれます。サービス・レベル・ルールが解決されるときに、すべての一時変更値は、解決されたサービス・レベル・ルールの値で置換されます。このオプションは、このプログラム内の処理と、受注オーダー入力処理またはフルフィルメント・ワークベンチからの処理時に事業所を変更したときの新規サービス・レベル・ルールの解決の両方を制御します。値は次のとおりです。

ブランク: 一時変更された値を使用して受注オーダー行のサービス・レベル・ルールを解決する。

1: 一時変更された値を使用した、受注オーダー行のサービス・レベル・ルールの解決を省略する。

3. サービス・レベル・ルールを解決するとき、一時変更されたオーダー最小充填パーセントをクリアする。

サービス・レベル・ルールの解決時に、オーダー見出しの一時変更された最小充填パーセント値をクリアするかどうかを指定します。明細行の値はクリアされません。値は次のとおりです。

ブランク: サービス・レベル・ルールの解決中に、一時変更されたオーダー最小充填パーセントを維持する。

1: サービス・レベル・ルールの解決中に、一時変更されたオーダー最小充填パーセントをクリアする。既存の値が削除され、オーダー明細行のサービス・レベル・ルール情報を使用して新しい値が解決されます。

4. レポートの出力。

レポートを出力するかどうかを指定します。

ブランク: レポートを出力する。

1: レポートを出力しない。

サービス・レベル・ルールの一時変更

この項では、サービス・レベル・ルールの一時変更の概要と方法について説明します。

サービス・レベル・ルールの一時変更について

サービス・レベル・ルールの照会/一時変更プログラム(P4277711)では、システムで解決されたサービス・レベル・ルールを一時変更できます。対象オーダー行に関連付けられているオーダーおよび行レベルの充填パーセント値をリセットできます。このアプリケーションは、受注オーダー入力プログラム(P4210およびP42101)の「フォーム」および「ロー」メニューから使用できます。

ルールがない行にルールを動的に追加することはできません。既存のルールの改訂のみできます。

サービス・レベル・ルールの照会/一時変更プログラムでは、一時変更の理由コードを入力する必要があります。行の充填パーセントを一時変更する場合は、一時変更したオーダー充填率と関連する行が再評価され、必要に応じて行ルール評価必須フラグおよびオーダー・ルール評価必須フラグ値がリセットされます。次に例を示します。

1. 行パーセントを変更し、その行の充当数量がある場合は、次の処理が行われます。
 - a. 行充填パーセントが満たされているかどうか評価されます。
 - b. 要件適合状況が変更された場合は行ルール評価必須フラグが更新されます。
2. オーダー充填パーセントを変更した場合は、次の処理が行われます。
 - a. 一時変更充填パーセントが更新されます。
 - b. オーダー全体を評価してオーダー要件適合状況が変更されたかどうか判断され、変更されている場合はオーダー見出しルール評価必須フラグが更新されます。
 - c. オーダー・レベル・ルールがあるすべての行のオーダー・ルール評価必須フラグが更新されます。
3. オーダー・レベル・ルールがある行の行パーセントを変更した場合は、次の処理が行われます。
 - a. 行充填パーセントが満たされているかどうか評価されます。
 - b. 要件適合状況が変更された場合は行ルール評価必須フラグが更新されます。
 - c. オーダー全体を評価してオーダー要件適合状況が変更されたかどうか判断され、変更されている場合はオーダー見出しルール評価必須フラグが更新されます。
 - d. オーダー・レベル・ルールがあるすべての行のオーダー・ルール評価必須フラグが更新されます。

オーダー・レベル・パーセントはオーダー見出しでのみ一時変更できます。オーダー見出し充填パーセント値は、オーダー・レベル・ルールがある受注オーダーのすべての行に適用されます。これらの行を使用して、オーダー充当数量がオーダー・レベルの充填パーセント値要件を満たすかどうか評価されます。

受注オーダー行に行タイプ・ルールがある場合は、オーダー・レベル値によって行レベル値は一時変更されません。

カスタム・プログラム・ルールに関連付けられているオーダー行は、サービス・レベル・ルール一時変更の対象になりません。

オーダーのオーダー行に異なるカスタム関数がある場合は、オーダーの最初のカスタム関数が使用されます。たとえば、次のオーダー明細があるオーダーがあるとしたします。

行番号	カスタム関数	オーダー・ルール・タイプ
1	A	N
2	B	Y
3	C	Y

行番号	カスタム関数	オーダー・ルール・タイプ
4	D	N
5	E	Y

この例では、オーダー・フラグが設定されている関数のうち、カスタム関数Bを使用する行2が最初に検出されます。カスタム関数Bが行2、3、5に適用されます。行1および4は行レベル・ルール・タイプとして評価されます。

サービス・レベル・ルールの一時変更に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
サービス・レベル・ルールの照会/一時変更	W4277711A	「受注オーダー処理」(G4211)、「受注明細」 受注オーダーを検索し、「選択」をクリックします。 「受注オーダー明細の改訂」フォームで、詳細レコードを選択します。 「ロー」メニューから「サービス・レベル・ルール」を選択します。	サービス・レベル・ルールを確認し、一時変更します。

サービス・レベル・ルールの一時変更

「サービス・レベル・ルールの照会/一時変更」フォームにアクセスします。

ORACLE® JD EDWARDS ENTERPRISEONE Financial/Distribution Company [JPY900] サインアウト

受注明細 - サービス・レベル・ルールの照会/一時変更

OK(O) 取消(L)

販売先 4243 Custom Brokers

サービス・レベル・ルール・オーダー見出し

最小充填パーセント 55.0000%

サービス・レベルのカスタム関数 DYN Dynamically Assigned

一時変更理由コード

☐ サービス・レベル・ルール評価必須 ☐ リリース済みのオーダー ☐ オーダー・サービス・レベル到達

サービス・レベル・ルール明細

レコード 1-1 グリッドのカスタマイズ

オーダー番号	オーダータイプ	オーダー会社	行番号	事業所	品目番号	品目番号記述	ルールタイプ	ルールタイプ記述	ルール評価必須	行の最小充填%
5661	SO	00001	1.000	30	JACKET1	Large Leather Jacket	01	Order level	<input type="checkbox"/>	66.000

OK(O) 取消(L)

「サービス・レベル・ルールの照会/一時変更」フォーム

最小充填パーセント

オーダー・サービス・レベル・ルールの行要件を満たす必要のある受注オーダー行の最小充填パーセントを入力します。

同一のオーダーに対してオーダー最小充填パーセントが設定されているカスタム関数でルールが解決される場合は、オーダーの最初のカスタム関数が使用されます。

同一のオーダーに対していくつかの充填パーセントが設定されている、カスタム関数のない複数のオーダー・レベル・ルールが解決される場合は、オーダー最小充填パーセントの最大値が使用されます。

このフィールドに値が動的に入力され、この値を使用して、オーダー・サービス・レベル・ルールが満たされているかどうか判断されます。

一時変更理由コード

オーダー・レベルまたは行レベルで最小充填パーセントを一時変更する理由を示すUDC値(42W/RC)を入力します。

「最小充填パーセント」フィールドが動的に入力される場合、一時変更理由コードはDYN(動的に割当)です。

受注オーダーをコピーすることでオーダーまたは行レベルの「最小充填パーセント」フィールドが自動的に入力される場合、一時変更理由コードはCPY(コピー)です。

サービス・レベル・ルール評価必須

このフラグによって、受注オーダーが変更されたためサービス・レベルの再評価が必要であることが示されます。この場合、行またはオーダーのサービス・レベル・ルール要件適合状況の変更が必要となる可能性があります。

リリース済みのオーダー

このフラグによって、オーダーがリリースされたことが示されます。オーダーがリリースされた場合、残りの未処理の行は行サービス・レベル・ルールとして処理されます。

オーダー・サービス・レベル到達

このフラグによって、受注オーダーのオーダー・サービス・レベル要件が満たされたことが示されます。

取消(Y/N)

サービス・レベル・ルールがある受注オーダー行がフルフィルメントからのリリース・プログラム(R4277703)によってフルフィルメント管理システムからリリースされる場合に、受注オーダー行の未充当数量が取り消されるかどうかを指定します。値は次のとおりです。

0: 未充当数量を取り消しません。

1: 未充当数量を取り消します。

第 6 章

自動フルフィルメント処理

この章では、自動フルフィルメント処理の概要と次の方法について説明します。

- 充当ルールの設定
- 充当丸めの設定
- 自動フルフィルメント処理プログラム (R4277701) の実行
- 自動フルフィルメント・ロード・バランス・プログラム (R4277711) の実行
- フルフィルメント計画IDの除去プログラム (R4277710) の実行

自動フルフィルメント処理について

受注オーダー処理はフルフィルメントなしでは、優先度の高い受注オーダー行と引当可能在庫を一致させることができません。在庫は受注オーダー処理時に、先入先出で充当されます。在庫が少ない場合、この方法では重要なオーダー行がバックオーダーになる可能性があります。JD Edwards EnterpriseOne フルフィルメント管理モジュールを使用すれば、在庫引当にバッチ処理を設定できます。自動フルフィルメントは、オーダー行のスコア設定に基づいて受注残に在庫を充当するバッチ処理です。自動フルフィルメント処理中に、次のことが実行されます。

- 在庫が多い場合は在庫が完全に充当されます。
- 在庫が少ない場合は在庫が部分的に充当されます。
部分的に充当する場合、充当ルールは安全在庫に基づいて適用されます。
- 在庫がない、またはゼロに近い場合は在庫は充当されません。

自動フルフィルメント処理プログラムでは次の処理が行われます。

1. データ順序に基づいたオーダー行のソート。販売先顧客の受注オーダー明細テーブル (F4211)、受注オーダー見出しテーブル (F4201)、および業種別顧客マスター (F03012) の情報を使用できます。
2. 指定した順序での受注オーダー行への在庫の充当。
3. システムにより作成された完了計画のレポートの生成。

自動フルフィルメント処理

自動フルフィルメント処理プログラム (R4277701) では、次の内容に基づいて受注オーダー行に在庫が充当されます。

- バッチ・プログラムのソート順序。
F4201、F4211およびF03012のテーブルのデータを使用できます。
- 値を充当するための在庫引当優先情報パーセント。

- サービス・レベル・ルールの情報
- 充当ルールの情報。
- 丸め規則の優先情報。

このプログラムでは、充当の候補になったオーダー行と充当の実際の結果を示す印刷出力が生成されます。この出力は完了計画と呼ばれます。R4277701プログラムは、テスト・モードでも最終モードでも実行できます。テスト・モードでは、処理されたオーダー行と見込みの充当結果を確認できます。テスト・モードでプログラムを実行すると、テーブルは更新されません。最終モードでは印刷出力が生成され、データベースが変更内容で更新されます。また、フルフィルメント・ワークベンチ・プログラム(P4277701)で結果を表示できます。最終モードでは、次のテーブルが更新されます。

- 品目保管場所(F41021)。
- 受注オーダー明細(F4211)。
- サービス・レベル・ルール見出し(F4277701)。
- サービス・レベル・ルール明細(F4277711)。
- フルフィルメント計画ID(F4277710)。

行が完全に充当されているか、部分的に充当されているか、充当されていないか、フルフィルメントからリリースされているかによって、該当する充当状況コードが各オーダー行に割り当てられます。

次の場合には警告メッセージが表示されます。

- 顧客の請求情報で、顧客が部分出荷を認めていない場合
- 行が充当要件を満たしていない場合。
- 行がリリースされなかった場合(フルフィルメントからのリリース・プログラム(R4277703)が自動的に呼び出されるように処理オプションが設定されている場合に適用されます)。

次の場合にはエラー・メッセージが表示されます。

- レコードが別の処理によって予約されている場合。
- レコードを引当できない場合。
- トランザクション処理が失敗した場合。

フルフィルメントの再処理

「フルフィルメントの再処理」処理オプションを使用すると、自動フルフィルメント処理プログラムで受注オーダー行を複数回再評価できます。再処理は、プログラムのテスト・モードや最終モードと組み合わせて使用できます。再処理することにより、受注オーダー行を確定してフルフィルメントからリリースする前に、完了計画の様々なシナリオを実行できます。再処理を行うことで、フルフィルメント処理に入っていてすでに在庫が割り当てられている受注オーダー行と、フルフィルメント処理に入ったばかりの新しい受注オーダーをバッチ処理できます。次に例を示します。

- EDI経由で夜間にオーダーを受信する。
- R4277701プログラムを実行してオーダー行に在庫を割り当てる。
- 優先度が高い顧客に対して前倒しの受注オーダーを入力する。
- R4277701プログラムを再処理で実行し、既存のEDIオーダーで新しい前倒しのオーダーを評価する。
 - 再処理することにより新しい需要が取得され、在庫が適切に再割当てされます。
 - 基本的には前のバッチ処理の割当てが解除され、新しい在庫割当てが作成されます。

注意: 自動フルフィルメント処理ではキット品目行がスキップされ、保留中のオーダー行のフルフィルメントは処理されません。

自動フルフィルメント・ロード・バランス

自動フルフィルメント・ロード・バランス・プログラム(R4277711)では、同時に実行する処理の数を指定して、自動フルフィルメント処理プログラム(R4277701)の全体的なパフォーマンスを向上できます。このプログラムでは、品目と事業所の組合せを使用して負荷が分散されます。自動フルフィルメント・ロード・バランス・プログラムでは次の処理が実行されます。

- データ選択のうち処理の対象にする行数を決定する。

処理できるレコードのみが合計の行数に含まれるようにするためにレコードが予約されます。オーダー・タイプ・サービス・レベル・ルールが使用されている場合、ロード・バランスを介することによって、それと同じサービス・レベル・ルールが使用されているオーダー行は処理されなくなります。オーダー・レベル・ルールでは、関連するすべての行を単一のトランザクションで処理することが求められます。そのため、オーダー・ルール・タイプの品目と事業所のすべての組合せを単一のプロセッサで実行するように規定した同時実行制約が追加され、ロード・バランスの値が大幅に制限されます。

オーダーは個々の行としてではなくまとめて処理する必要があるため、オーダー・サービス・レベル・ルールが関連付けられている受注オーダー行は合計数に含まれません。自動フルフィルメント・ロード・バランス・プログラムからこのようなオーダー行が呼び出された場合、自動フルフィルメント処理プログラムでは処理されません。

- 各同時ジョブに割り当てる最適な行数を決定する。
- ターゲットの許容パーセントの範囲で各同時ジョブの最大行数を決定する。
- 各同時ジョブに割り当てる行数と、自動フルフィルメント処理プログラムのデータ選択を決定する。

データ選択には品目と事業所が含まれます。自動フルフィルメント処理プログラムのデータ選択が、自動フルフィルメント・ロード・バランス・プログラムにより決定された新しいデータに置き換えられます。

起動される自動フルフィルメント処理プログラムの各バージョンに対して、自動フルフィルメント・ロード・バランス・プログラムのバージョンを設定する必要があります。自動フルフィルメント・ロード・バランス・プログラムにはデータ選択はありません。自動フルフィルメント・ロード・バランス・プログラムの処理オプションで指定した自動フルフィルメント処理プログラムのバージョンのデータ選択が解析されます。

- レポートにロード・バランス情報を表示する。
印刷処理オプションを有効にする必要があります。
- レポートにエラー・メッセージの一覧を記載し、ワーク・センターに送信する。
- 各ジョブに対して同時実行バージョンの自動フルフィルメント処理プログラムを起動する。
自動フルフィルメントの実行処理オプションを有効にする必要があります。

次の図は、自動フルフィルメント・ロード・バランスのレポートの出力を示しています。

R4277711	Oracle - J.D. Edwards			
	Load Balance Auto Fulfillment			
Final Mode				
Total Number of Records:	7.00			
Total Number of Item Branch Records:	4			
<u>Load Number</u>	<u>Fulfillment Plan ID</u>	<u>Item Branches In Load</u>	<u>Optimal Load Amount</u>	<u>Actual Load Amount</u>
1	3	1	2.33	3.00
2	4	1	2.00	2.00
3	5	2	2.00	2.00
The following Item Branch Combinations could not be processed. Please inspect the work center for additional details:				
<u>Item</u>	<u>Branch</u>	<u>Failure Message</u>		
BDJACKET1	30	Record Reservation Failure		
BDJACKET2	30	Record Reservation Failure		
BDJACKET3	30	Record Reservation Failure		

例: 自動フルフィルメント・ロード・バランスのレポートの出力

充当ルールの設定

この項では、充当ルールの概要と充当ルールの設定方法について説明します。

充当ルールについて

安全在庫の量は業務に多大な影響を与える場合があります。安全在庫が多すぎると、在庫の保管費用も増大します。また、製品を長期間保管すると倉庫管理プロセス中に破損する可能性が高まり、製品が無駄になる可能性や、製品の有効期限が切れる可能性も考えられます。反対に、十分な量の安全在庫がないことも売上の損失や、顧客満足度の低下につながります。このため、安全在庫の効果的な管理が重要です。

充当ルール・プログラム(P4277720)を使用すると、自動フルフィルメント処理プログラムで使用される充当ルールを設定できます。充当ルールは、スコアと安全在庫のパーセントという2つの要素に基づいて在庫を割り当てることで、安全在庫の管理を可能にします。充当ルールを処理する際にこれらの要素が評価され、充当率を適用するかどうかが決まります。

安全在庫について

安全在庫は事業所品目プログラム (P41026) で設定します。充当ルールを使用する際、品目の安全在庫数量がない場合は安全在庫の残数が 0% になるような充当ルールを設定する必要があります。この 0% ルールは、在庫状況と充当率のいずれの制限係数に基づいてもオーダー行を完全に充当できない場合に使用されます。

充当ルールを使用する際、在庫状況の計算で安全在庫を手持残高数量から差し引く場合は安全在庫の残数が 0% になるような充当ルールを設定する必要があります。在庫状況の計算で安全在庫を差し引くと、追加数量もオーダー行に充当されてしまうためです。

自動フルフィルメント処理プログラムの実行中に適切な充当ルールが見つからない場合、在庫は受注オーダー行に充当されません。

シナリオ: 充当ルールの適用方法について

このシナリオでは、4 人の顧客が行タイプとオーダー・タイプが同一の状態で同じ品目を注文しています。この品目の引当可能数量は 1,000 単位で、安全在庫数量は 200 単位です。品目とそれを注文した顧客に適用される充当ルールが設定されています。次の図は、充当ルールの設定を示しています。

順序番号	スコア範囲 (開始)	安全在庫率	充当率
10	0	150%	100%
20	21	140%	100%
30	36	120%	90%
40	51	110%	80%
50	71	100%	75%

充当ルールの設定例

フルフィルメント処理中に、受注オーダー明細テーブル (F4211) からスコアが取得されます。

注意: このシナリオでは、優先度のスコアが低いほど、オーダー行の優先度が高くなっています。

次の表に、顧客、オーダー行のスコアおよび各顧客が注文した数量を示します。

顧客	スコア	オーダー数量
4242	15	150
4243	40	400
4244	75	200
4245	10	100

自動フルフィルメント処理プログラムの実行中に、優先度のスコアに基づいてオーダー行に在庫が割り当てられます。次の図は、結果と在庫が割り当てられる順序を示しています。

充当順序	顧客	優先度のスコア	引当可能数量	オーダー数量	充当数量
1	4245	10	1000	100	100
2	4242	15	900	150	150
3	4243	40	750	400	360
4	4244	75	390	270	0

安全在庫 = 200

結果および在庫が割り当てられる順序

オーダー行は、優先度のスコアに基づいて処理されます。次の表では、このシナリオで自動フルフィルメント処理中に、各顧客のオーダー行がどのように処理されるかを説明します。

顧客	コメント
4245	顧客4245のオーダー行に要求数量の100%(100単位)を割り当てた後に、安全在庫の残りの150%を使用できるかどうか判断されます。オーダー行に数量が割り当てられた後の残数は900単位で、安全在庫の150%を超えています。 優先度のスコア(10)に基づき、顧客4245が注文した数量の100%が充当されます。
4242	顧客4245の数量を充当した後は、次の内容が実行されます。 <ul style="list-style-type: none"> 顧客4242のオーダー行に要求数量の100%(150単位)を割り当てた後に、安全在庫の残りの150%を使用できるかどうか判断されます。オーダー行に数量が割り当てられた後の残数は750単位で、安全在庫の150%を超えています。 優先度のスコア(15)に基づき、顧客4242が注文した数量の100%が充当されます。この時点で750単位が使用可能です。
4243	顧客4245と4242の数量を充当した後は、次の内容が実行されます。 <ul style="list-style-type: none"> 顧客4243のオーダー行に要求数量の90%(360単位)を割り当てた後に、安全在庫の残りの140%を使用できるかどうか判断されます。オーダー行に数量が割り当てられた後の残数は390単位で、安全在庫の140%を超えています。 優先度のスコア(30)に基づき、顧客4243が注文した数量の90%(360単位)が充当されます。
4244	顧客4245、4242および4243の数量を充当した後は、次の内容が実行されます。 <ul style="list-style-type: none"> 顧客4244のオーダー行に要求数量の75%(202単位)を割り当てた後に、安全在庫の残りの100%を使用できるかどうか判断されます。オーダー行に数量が割り当てられた後の残数は188単位で、安全在庫の100%を下回っています。 オーダー行は充当されません。

充当ルールの設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
充当ルール - ルールの追加	W4277720B	「フルフィルメント管理の設定」(G4277710)、「充当ルール設定」。「追加」をクリックします。	充当ルールを設定します。

充当ルールの設定

「充当ルール - ルールの追加」フォームにアクセスします。



ORACLE® JD EDWARDS ENTERPRISEONE Financial/Distribution Company [JPY900] サインアウト

充当ルール設定 - 充当ルール - ルールの追加

保存して閉じる(O) 取消(L)

充当ルール ★ COMPLEX

記述 Complex Rule

レコード 1 - 6

	順序番号	スコア範囲 (開始)	安全在庫率	充当率
<input type="radio"/>	10	-5	100.0000%	100.0000%
<input type="radio"/>	20	0	100.0000%	82.0000%
<input type="radio"/>	30	0	75.0000%	65.0000%
<input type="radio"/>	40	0	30.0000%	20.0000%
<input type="radio"/>	50	3	100.0000%	100.0000%
<input checked="" type="radio"/>				

削除(D)

保存して閉じる(O) 取消(L)

「充当ルール - ルールの追加」フォーム

充当ルール

充当ルールの名前を表すコードを入力します。

順序番号

充当ルールを評価する順序を入力します。

スコア範囲(開始)	安全在庫ルールの範囲内の開始スコアを入力します。安全在庫ルールを評価する際、数値が開始スコア以上で、次に大きい開始スコアより小さい場合にこのルールが適用されます。
安全在庫率	安全在庫の充当ルールを適用する場合は、オーダーに完全に在庫が充当された後に残る必要のある安全在庫の最小パーセントを入力します。
充当率	充当ルールに基づいて充当されるオーダー数量のパーセントを指定する数値を入力します。100%より大きい値は指定できません。

充当丸めの設定

この項では、充当丸めの概要と充当丸めの優先詳細値の設定方法について説明します。

充当丸めについて

充当丸めの詳細優先情報を使用すると、充当丸め規則を設定して、自動フルフィルメント処理プログラムの実行中に在庫を割り当てる際に充当数量をどのように丸めるかを指定することができます。たとえば、丸め金額を最も近い整数に定義(切上げまたは切捨て)することも、次の整数に丸めることも可能です。また、充当数量で単位に小数点を使用できるよう、丸めを行わないように指定することもできます。丸め規則は、品目、品目グループ、顧客および顧客グループの組合せに基づいて設定できます。丸め規則の適用箇所は、詳細優先情報スケジュールに表示される丸め調整の順序に従います。次の図は、充当丸めの例です。

- 基本単位 = EA、1CA = 12EA
- 充当率 = 73%

オーダー数量	取引単位	基本数量	丸め規則	充当数量	丸められた充当数量	充当率
55	EA	55	2 (標準)	40.15 EA	40 EA	72.72
10	CA	120	1 (切上げ)	7.3 CA	8 CA	80

- 注意: 要求された充当率が73%の場合、丸めが行われるため1行目は要件を満たしません。

充当丸めの例

充当丸めの設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
優先値の改訂	W4072D	「詳細優先情報」 (G40311)、「詳細優先情報 詳細の改訂」 「優先詳細の処理」フォー ムで、優先名を検索し て選択します。 「優先情報詳細の改訂」 フォームでレコードを選択 します。 「ロー」メニューの「優先詳 細」を選択します。	優先詳細値を設定します。

充当丸め(45)の優先詳細値の設定

「優先値の改訂」フォームにアクセスします。

参照:

ORACLE® JD EDWARDS ENTERPRISEONE Financial/Distribution Company [JPY900] サインアウト

詳細優先情報詳細の改訂 - 優先値の改訂

OK(O) 削除(D) 取消(L) ツール(T)

Preference Name ALLOC2 Fulfillment

詳細優先タイプ 45 充当の端数処理

レコード 1-4 グリッドのカスタマイズ

順序No.	ビジネス ユニット	トランザク ション 優先順位	充当 丸め規則
10.00		1	1
20.00		1	1
30.00		1	1

充当丸め(45)の「優先値の改訂」フォーム

順序No. 情報の順序を指定する番号を入力します。

ビジネスユニット 原価のトラッキング対象となる個々の事業単位を表す英数字のコードを入力します。

トランザクション優先順位 充当丸めの詳細優先情報を指定します。値は次のとおりです。
1: トランザクションは優先順位と等しい。

充当丸め規則

2: トランザクションは優先順位と等しくない。

自動フルフィルメント処理プログラム(R4277701)に使用される丸め規則を指定します。値は次のとおりです。

1: 切り上げ。充当数量は次の整数に切り上げられます。

2: 標準丸め。充当数量は最も近い整数に丸められます(切り上げまたは切り捨て)。

3: 丸めなし。充当数量の丸めは行われません。丸めを行わない場合は、単位に小数点が使用されます。

自動フルフィルメント処理プログラム(R4277701)の実行

この項では、次の方法について説明します。

- 自動フルフィルメント処理プログラムの実行
- 自動フルフィルメント処理(R4277701)の処理オプションの設定

自動フルフィルメント処理の実行

「フルフィルメント処理」(G4277710)、「自動フルフィルメント処理」を選択します。

「自動フルフィルメント処理」(R4277701)の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、フルフィルメント処理によってオーダーを処理します。

処理

1. テスト/最終モード。

自動フルフィルメント処理プログラムをテスト・モードと最終モードのどちらで実行するかを指定します。テスト・モードでは、受注オーダー行を変更せずに受注オーダー行に在庫が割り当てられ、行の状況は更新されません。最終モードでは、出力が行われて完了計画が作成され、オーダー状況が更新されます。値は次のとおりです。

ブランク: 自動フルフィルメントをテスト・モードで実行します。

1: 自動フルフィルメントを最終モードで実行します。
2. 完了計画記述。

完了計画を定義する値を入力します。最終モードでは、フルフィルメント計画IDテーブル(F4277710)に完了計画が書き込まれます。この説明は参考情報としてのみ使用されます。
3. バックオーダー数量を引当可能数量に含める。

バックオーダー数量を引当可能数量に追加するかどうかを指定します。この処理オプションは、在庫状況の計算方法の設定に応じて使用します。値は次のとおりです。

ブランク: バックオーダー数量を引当可能数量に追加しません。

1: バックオーダー数量を引当可能数量に追加します。
4. オーダー充当後のフルフィルメントのリリース。

フルフィルメントからのリリース・プログラム(R4277703)を実行するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: フルフィルメントからのリリース・レポートを実行しません。

1: フルフィルメントからのリリース・プログラムを実行します。

注意: 自動フルフィルメント処理プログラムを最終モードで実行している場合のみ、フルフィルメントからのリリース・プログラムが実行されます。

5. 充当ルール名

充当ルール・プログラム (P4277720) に設定するルール名を入力します。この機能により、スコアと安全在庫の残存率に基づいた在庫の割当てが可能になります。

6. フルフィルメントの再処理

既存のフルフィルメントを再処理するかどうかを示します。再処理を行うと、前の在庫割当ての引当を解除し、処理を最初から実行できます。値は次のとおりです。

ブランク: フルフィルメントは再処理されません。

1: フルフィルメントが再処理されます。

7. レコード予約エラー

自動フルフィルメント処理プログラムで、すべての予約済レコードに関するエラー・メッセージを表示するか、処理する最初の予約済レコードに関するエラー・メッセージのみを表示するかを指定します。レコード予約が有効になっている場合、自動フルフィルメント処理プログラムはすべてのデータ選択をひとつおき確認し、予約されているレコードがあるかどうかを判定します。予約されているレコードがある場合はエラーが発行され、自動フルフィルメント処理プログラムが停止してオーダー行は処理されません。値は次のとおりです。

ブランク: レコード予約エラーを設定し、他の予約の検索を続行します。

1: 最初のレコード予約エラーが発生したらプログラムの処理を停止します。

8. 詳細優先情報の一時変更

充当丸めの優先情報の解決時に使用する詳細優先情報のスケジュールを指定します。この処理オプションをブランクにすると、システム固定情報のスケジュールが使用されます。

バージョン

この処理オプションでは、自動フルフィルメント処理プログラムから呼び出すプログラムのバージョンを指定します。バージョンを選択するときには、バージョンの処理オプションを確認して、そのバージョンがニーズに合っていることを確認してください。ビジネス・プロセスに応じて様々なバージョンを定義できます。処理オプションをブランクにした場合は、各プログラムのデフォルトのバージョンである ZJDE0001 が使用されます。

1. フルフィルメントからのリリース (R4277703) XJDE0001

2. 受注オーダー入力 (P4210) ZJDE0001

自動フルフィルメント・ロード・バランス・プログラム (R4277711) の実行

この項では、自動フルフィルメント・ロード・バランス・プログラムの実行方法について説明します。

自動フルフィルメント・ロード・バランスの実行

「フルフィルメント処理」(G4277710)、「自動フルフィルメント・ロード・バランス」を選択します。

自動フルフィルメント・ロード・バランス(R4277711)の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、フルフィルメント処理によってオーダーを処理します。

処理

- | | |
|----------------------------|--|
| 1. 同時ジョブ数 | 1つのバージョンの実行回数を指定します。通常この数は、マシン上のプロセッサの数と一致します。複数のプロセッサで1つのバージョンを同時に実行することで、処理時間を短縮できます。自動フルフィルメント・ロード・バランス・プログラム(R4277711)により、自動フルフィルメント処理プログラム(R4277701)の1つのバージョンが複数回起動され、バージョン間で受注明細レコードが分散されます。 |
| 2. 自動フルフィルメントのバージョン | 実行する自動フルフィルメント処理プログラム(R4277701)のバージョンを指定します。この処理オプションを空白にすると、バージョンXJDE0001が使用されます。 |
| 3. 自動フルフィルメントの実行 | 自動フルフィルメント・ロード・バランス・プログラム(R4277711)で自動フルフィルメント処理プログラム(R4277701)を実行するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

空白: 自動フルフィルメント処理プログラム(R4277701)は実行されません。

1: 自動フルフィルメント処理プログラム(R4277701)を実行します。 |

印刷

- | | |
|-------------------------|--|
| 1. ロード・バランス情報の印刷 | レポートにロード・バランス情報を印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

空白: ロード・バランス情報は印刷されません。

1: ロード・バランス情報を印刷します。 |
|-------------------------|--|

フルフィルメント計画IDの除去プログラム(R4277710)の実行

この項では、フルフィルメント計画IDの除去プログラムの実行方法について説明します。

完了計画は、充当済と判断されている一連のオーダー行です。自動フルフィルメント処理プログラムにより初期完了計画が作成され、対象となるすべてのオーダー行にフルフィルメント計画IDが割り当てられます。フルフィルメント・ワークベンチ・プログラム(P4277701)を使用して、完了計画のオーダー行を検証および変更できます。

フルフィルメント計画IDの除去プログラム(R4277710)により、フルフィルメント計画IDテーブル(F4277710)と受注オーダー明細テーブル(F4211)の指定されたデータ選択内にフルフィルメント計画IDが存在するかどうか判断されます。F4211にレコードが存在する場合、F4277710テーブル内のレコードは除去されません。指定したデータ選択に一致するレコードがない場合は、データが選択されていないことを示すメッセージが表示されます。

フルフィルメント計画IDの除去の実行

「フルフィルメント管理の上級/技術的操作」(G4277730)、「フルフィルメント計画IDの除去」を選択します。

注意: このプログラムには、処理オプションはありません。

第 7 章

フルフィルメント・ワークベンチの使用

この章では、フルフィルメント・ワークベンチの概要と次の方法について説明します。

- フルフィルメント・ワークベンチ・プログラム(P4277701)の処理オプションの設定
- フルフィルメント・ワークベンチの使用方法

フルフィルメント・ワークベンチについて

フルフィルメント・ワークベンチ・プログラム(P4277701)を使用すると、受注オーダー明細行の充当数量を管理できます。フルフィルメント・ワークベンチには、情報の検索に使用できる様々なタイプのフィルタがあり、次のことが可能です。

- フルフィルメント受注オーダー行の在庫引当ての表示および変更。
- 基本単位と2次単位の両方を使用して、受注オーダー行への在庫割当てを対話形式で調整。
- 受注オーダー行に未充当数量のある品目および顧客の確認。
- 事業所および約束納入日付の変更。
- フルフィルメントからのオーダー行のリリース。

フルフィルメント・ワークベンチ・プログラムを使用すると、フルフィルメントからリリースするオーダー行を選択できます。フルフィルメントの部分数量をリリースするとオーダー行が分割され、オプションで関係者に電子メール通知が送信されます。

情報を検索すると、フルフィルメント・ワークベンチ・プログラムには次の内容が表示されます。

- 現在フルフィルメント処理中で、ヘッダーおよびQBEフィールドに入力したフィルタ条件に一致する受注オーダー行。
リストは状況、日付範囲、品目、オーダー・タイプ、行タイプ、販売先、フルフィルメント計画IDでフィルタできます。
- 品目および事業所の未充当数量と、それらの品目の引当可能数量情報。
- フルフィルメント処理に未充当の受注オーダー行がある顧客の集計。

引当可能数量情報について

フルフィルメント・ワークベンチ・プログラムは、フルフィルメント処理中の品目に関する在庫の引当可能数量情報を表示します。ワークベンチで「未充当品目と受注オーダー行」オプションを選択すると、充当在庫状況のグラフが表示され、充当の決定を視覚的に支援します。選択された品目に基づき、4種類のグラフの中から1つが表示されます。

- 充当引当可能。すべての需要に対応する十分な在庫があることを示しています。
- 充当不足。需要に対応する十分な在庫がないことを示しています

- 充当が安全在庫を超過。需要に対応する十分な在庫があるものの、安全在庫をいずれ使用することになることを示しています。
- 充当予定。需要に対応する十分な在庫がないが、品目に購買オーダーまたは作業オーダーが入っていることを示しています。

複数の受注オーダー行を選択および編集して、オーダー行が充当される方法を変更できます。「フルフィルメント・ワークベンチ - 編集」フォームには、在庫割当ての変更を決定する際に役立つ在庫状況の情報セクションがあります。

フルフィルメント・ワークベンチ・プログラム (P4277701) の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、フルフィルメント・ワークベンチ・プログラムのデフォルトの検索情報を定義し、フルフィルメント・ワークベンチ・プログラムから呼び出すプログラムのバージョンを指定します。

デフォルト

この処理オプションでは、「フルフィルメント・ワークベンチ - 検索」フォームのデフォルトの検索情報を制御します。

1. 開始状況

オーダー処理の現行の時点指定します。使用するオーダー・タイプと行タイプに基づいてオーダー処理規則のユーザー定義コード(40/AT)を指定する必要があります。

開始状況と次状況の組合せは、オーダー処理規則テーブルの前状況と次状況の有効な組合せになっている必要があります。オーダー照会時、開始状況と次状況の間にはないオーダーは表示されません。

2. 終了状況

オーダー処理の次のステップを指定します。使用するオーダー・タイプと行タイプに基づいてオーダー処理規則のユーザー定義コード(40/AT)を指定する必要があります。

開始状況と次状況の組合せは、オーダー処理規則テーブルの前状況と次状況の有効な組合せになっている必要があります。オーダー照会時、開始状況と次状況の間にはないオーダーは表示されません。

3. 前/次状況の検索

この画面に表示する情報の選択に使用する状況コードを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: この範囲に当てはまる前状況を持つすべてのオーダーを表示します。

1: この範囲に当てはまる次の状況を持つすべてのオーダーを表示します。

4. 開始日付

「開始日付」フィルタ・フィールドに使用する開始日付のデフォルト値を指定します。

5. 終了日付

「終了日付」フィルタ・フィールドに使用する終了日付のデフォルト値を指定します。

6. 日付範囲タイプ

オーダーでの検索に使用される受注オーダー明細テーブル(F4211)の日付値を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 要求日付に基づいてオーダーが取得されます。

- 1: オーダー入力日付に基づいてオーダーが取得されます。
- 2: オーダー入力時に入力される約束出荷日付に基づいてオーダーが取得されます。
- 3: オーダー入力時に入力される当初約束日付に基づいてオーダーが取得されます。
- 4: 出荷が確認される日付に基づいてオーダーが取得されます。出荷確認プログラム(P4205)で処理済のオーダーのみが取得されます。
- 5: 顧客の請求書が印刷された日付に基づいてオーダーが取得されます。請求書印刷プログラム(R42565)で処理済のオーダーのみが取得されます。
- 6: オーダー入力時にメモ用の取消フィールドに入力した日付に基づいてオーダーが取得されます。
- 7: G/L日付に基づいてオーダーが取得されます。売上更新プログラム(R42800)で処理済のオーダーのみが取得されます。
- 8: オーダー入力時に入力する約束納入日付に基づいてオーダーが取得されます。
- 9: オーダーのピッキング予定日付に基づいてオーダーが取得されます。

7. 事業所

「事業所」フィルタ・フィールドのデフォルト値として使用される事業所を指定します。このフィールドをブランクにすると、デフォルト事業所/プリンター・テーブル(F40095)に格納される値が使用されます。

8. 品目番号

「品目」フィルタ・フィールドのデフォルト値として使用される品目番号を指定します。

9. 販売先顧客番号

「販売先」フィルタ・フィールドのデフォルト値として使用される販売先住所番号を指定します。

10. オーダー・タイプ

「オーダー・タイプ」フィルタ・フィールドのデフォルト値として使用されるオーダー・タイプを指定します。

11. 未充当品目と顧客を受注オーダーとともに表示

未充当品目と顧客の表示の制御に使用されるデフォルトのラジオ・ボタンを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 受注オーダーのみ。

1: 未充当品目と受注オーダー。

2: 未充当顧客と受注オーダー。

12. キット構成品のデフォルト表示

「フルフィルメント・ワークベンチ - 検索」フォームにキット構成品をデフォルトで表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 構成品を表示しません。デフォルトで構成品を非表示にした場合は、グリッドで構成品を手動で展開できます。

1: 構成品を表示します。

処理

この処理オプションでは、フルフィルメント・ワークベンチのデフォルトの処理オプションを制御します。

1. 在庫状況通知

充当数量が引当可能数量を超えた場合に、ユーザーに通知するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 品目の充当数量が引当可能数量を超えた場合に警告やエラーは設定されません。

- 1: 品目の充当数量が引当可能数量を超えた場合に警告が設定されます。
- 2: 品目の充当数量が引当可能数量を超えた場合にエラーが設定されます。

2. バックオーダー数量を引当可能数量とする

バックオーダー数量を引当可能数量に追加するかどうかを指定します。このオプションにより、在庫状況の計算に応じてさらに多くの引当可能数量でオーダーを充当できます。値は次のとおりです。

ブランク: バックオーダー数量を引当可能数量に追加しません。

- 1: バックオーダー数量を引当可能数量に追加します。

3. 在庫状況のリフレッシュ

在庫状況を自動的に再生成するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 対話形式で情報を更新できるようにリフレッシュ・ボタンが表示されます。

- 1: 新しいグリッド・ローを選択するたびに情報が自動的に更新されます。

バージョン

この処理オプションでは、フルフィルメント・ワークベンチ・プログラムから呼び出すプログラムのバージョンを指定します。バージョンを選択するときには、バージョンの処理オプションを確認して、そのバージョンがニーズに合っていることを確認してください。ビジネス・プロセスに応じて様々なバージョンを定義できます。処理オプションをブランクにした場合は、各プログラムのデフォルトのバージョンであるZJDE0001が使用されます。

次の表には、「バージョン」タブに表示される順序で、プログラムがリストされています。

1. 受注オーダー・モデル (P4210)	ZJDE0001
2. 受注オーダー入力 (P42101)	ZJDE0001
3. フルフィルメントからのリリース (R4277703)	XJDE0001
4. 顧客詳細 (P90CA080)	ZJDE0001
5. 在庫状況集計 (P41202)	ZJDE0001

フルフィルメント・ワークベンチの使用方法

この項では、次の方法について説明します。

- 充当情報の確認
- 充当情報の編集

フルフィルメント管理ワークベンチの操作に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
フルフィルメント・ワークベンチ - 検索	W4277701A	「フルフィルメント処理」(G4277710)、「フルフィルメント・ワークベンチ」	フルフィルメント受注オーダー行に割り当てられた在庫を表示および変更します。
フルフィルメント・ワークベンチ - 編集	W4277702A	受注オーダー明細行を選択し、「フルフィルメントの編集」ボタンをクリックします。	事業所、充当数量および約束納入日付などの充当情報を編集します。

充当情報の確認

「フルフィルメント・ワークベンチ - 検索」フォームにアクセスします。

「フルフィルメント・ワークベンチ - 検索」フォームのヘッダー・セクション

フルフィルメント計画ID

自動フルフィルメント処理プログラムの実行により生成されるIDを指定します。このIDは、次の数値に基づいています。このIDは、自動フルフィルメント処理プログラムの実行で処理される受注オーダー明細レコードに割り当てられます。

事業所

原価のトラッキング対象となる業務の単位を表す英数字のコードです。たとえば、倉庫保管場所、作業、プロジェクト、作業場、事業所、工場などをビジネスユニットとして設定できます。

日付タイプ

このフォームに表示する情報を探す際に検索する日付のタイプを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 要求日付。

1: トランザクション/オーダー日付。

2: 約束出荷日付。

3: 当初約束納入日付。

4: 実際出荷日付。

5: 請求書日付。

6: 取消日付。

7: 元帳日付。

8: 約束納入日付。

9: ピッキング予定日付。

未充当品目と受注オーダー行

未充当品目ごとにフルフィルメント受注オーダー行を表示し、品目に基づいてオーダーをフィルタするかどうかを指定するには、このラジオ・ボタンを選択します。

未充当顧客と受注オーダー

未充当顧客ごとにフルフィルメント受注オーダー行を表示し、顧客に基づいてオーダーをフィルタするかどうかを指定するには、このラジオ・ボタンを選択します。

受注オーダー行のみ

フルフィルメント処理のすべての受注オーダー行を表示するかどうかを指定するには、このラジオ・ボタンを選択します。



「フルフィルメント・ワークベンチ - 検索」フォームの「未充当品目」セクション

Oracle JD Edwards EnterpriseOne Financial Distribution Company [JPY900] サインアウト

フルフィルメント・ワークベンチ - フルフィルメント・ワークベンチ - 検索

受注オーダー行-対象-Adv Price Cust#2

レコード 1-1

オーダー 番号	オーダー タイプ	オーダー 会社	行 番号	顧客 販売先	顧客 販売先名	品目 番号	記述1	顧客 出荷先	顧客 出荷先名	オーダー 数量	単位
17	SO	50404	1,000	675542	Adv Price Cust#2	ADVDOM	Dual UOM	675542	Adv Price Cust#2	300.0000	EA

フルフィルメントの編集(他) フルフィルメントのリリース(他) その他のロー・アクション: - 1つ選択 -

閉じる(L)

「フルフィルメント・ワークベンチ - 検索」フォームの未充当品目の受注オーダー行セクション

Oracle JD Edwards EnterpriseOne Financial Distribution Company [JPY900] サインアウト

フルフィルメント・ワークベンチ - フルフィルメント・ワークベンチ - 検索

未充当顧客

レコード 1-1

販売先 住所番号	販売先 名称	優先	与信 メッセージ
675542	Adv Price Cust#2	0	

「フルフィルメント・ワークベンチ - 検索」フォームの「未充当顧客」セクション

Oracle JD Edwards EnterpriseOne Financial Distribution Company [JPY900] サインアウト

フルフィルメント・ワークベンチ - フルフィルメント・ワークベンチ - 検索

受注オーダー行-対象-Adv Price Cust#2

レコード 1-1

オーダー 番号	オーダー タイプ	オーダー 会社	行 番号	顧客 販売先	顧客 販売先名	品目 番号	記述1	顧客 出荷先	顧客 出荷先名	オーダー 数量	単位
17	SO	50404	1,000	675542	Adv Price Cust#2	ADVDOM	Dual UOM	675542	Adv Price Cust#2	300.0000	EA

フルフィルメントの編集(他) フルフィルメントのリリース(他) その他のロー・アクション: - 1つ選択 -

閉じる(L)

「フルフィルメント・ワークベンチ - 検索」フォームの未充当顧客の受注オーダー行セクション

充当情報の編集

「フルフィルメント・ワークベンチ - 編集」フォームにアクセスします。

Oracle JD Edwards EnterpriseOne Financial/Distribution Company [JPY900] サインアウト

フルフィルメント・ワークベンチ - フルフィルメント・ワークベンチ - 編集

保存して閉じる(O) 取消(L)

在庫状況

品目番号: ADVDOM

事業所: CRM30

安全在庫:

基本引当可能数量: 650.0000 EA

手持数量: 950.0000

トランザクション: 650.0000 EA

2次引当可能数量: 4000.0000 LB

2次トランザクション: 4000.0000 LB

2次: 1000.0000-

フルフィルメントの編集 事業所の変更

レコード 1.1

事業所	品目番号	単位	充当数量	未充当数量	オーダー数量	2次オーダー単位	2次充当数量	2次未充当数量	2次オーダー数量	販売先	販売先名
CRM30	ADVDOM	EA		300.0000	300.0000	LB		3000.0000	3000.0000	675542	Adv Price Cust#2

事業所の変更

その他のロー・アクション -- 1つ選択 --

「フルフィルメント・ワークベンチ - 編集」フォーム

在庫状況

安全在庫

需要の増加に備えて保管する手持在庫の数量。

安全在庫は「事業所品目数量」フォームで指定します。

在庫状況の計算に含む

このオプションは、事業所固定情報の在庫状況定義に定義されているように、安全在庫として確保された数量を在庫状況の計算から差し引くかどうかを示します。

引当可能数量

引当可能な数量を示す数値。たとえば、手持数量から引当数量、予約数量、バックオーダー数量を引いた数が引当可能数量になります。引当可能数量はユーザーが定義します。この値は、事業所固定情報プログラム (P41001) で設定できます。

手持数量

物理的に在庫として存在する数量。手持数量は、基本単位で表示されず。

在庫状況にアクセスする方法は3つあります。

1. 「フルフィルメント・ワークベンチ - 編集」フォームの上部にある「在庫状況」セクション。選択したグリッド・ローの引当可能数量情報が表示されます。
2. 「事業所の変更」ボタンを選択すると、選択したグリッド・ローの品目に関連するすべての事業所の引当可能数量を表示できます。
3. 「その他のロー・アクション」メニューの「在庫状況集計」を選択して「在庫状況の処理」フォームにアクセスすると、選択したグリッド・ローの引当可能数量情報が表示されます。

別の事業所に品目の在庫がある場合は、グリッド行の横に緑のチェック・マークが表示されます。

編集可能なフィールド

「フルフィルメント・ワークベンチ - 編集」フォームを使用して次の値を変更できます。

- トランザクションおよび2次充当数量。
 1. 充当数量を変更すると、「在庫状況」セクションに反映されているソフト・コミット数量が更新されます。
 2. 充当数量が2重単位ピッキング処理の指定された2重単位品目である品目を変更すると、2次単位数量の引当可能数量チェックとメッセージが処理されます。
- 約束納入日付。
- 事業所。
- サービス・レベル・ルール・オーダーおよび行ルールの評価必須フラグ。

キット処理

「フルフィルメント・ワークベンチ - 編集」フォームでは、オーダー行のグリッド・ローに「+」記号が表示され、キットの親が示されます。キット構成成品は、オーダー行のグリッド・ローに「~」記号を表示して示されます。

「フルフィルメント・ワークベンチ - 編集」フォームを使用して、キットの親のオーダー行に関する情報を通常の在庫品目として変更できます。キットの親の引当可能数量は、制限構成成品の引当可能数量を使用して判断されます。制限構成成品は、キット上の全構成成品の中で引当可能数量が最も少ない製品と親構成成品の割合を計算することで決定されます。

キット構成成品は、親から子の割合に基づいてすべての構成成品の充当数量を整理することで調整され、それに応じて構成成品の充当数量が更新されます。

要件の処理

カテゴリ	コメント
部分出荷	部分出荷を認めていない顧客のオーダー行を部分的に充当する場合は、オーダー行では部分出荷が認められていないことや、オーダー行がフルフィルメント管理システムからのリリースの対象ではないことを示す警告が表示されます。
充当する在庫引当優先情報パーセント	<p>オーダー行にサービス・レベル・ルールが関連付けられておらず、そのオーダー行の在庫引当優先情報が解決される場合、「フルフィルメント・ワークベンチ - 編集」フォームのグリッドに要件を満たすパーセントが表示されます。オーダー行の充当数量が更新される際に、充当数量が要件を満たすパーセントに一致するかどうかの評価されます。充当数量が要件を満たすパーセントと一致しない場合は、要件が満たされておらず、オーダー行がフルフィルメント管理システムからのリリースの対象ではないことを示す警告が表示されます。</p> <p>オーダー行の事業所を変更すると、在庫引当優先情報が再評価されず、要件を満たすパーセントは選択した事業所に対しては有効でないため、値を充当するパーセントがクリアされます。</p>

カテゴリ	コメント
サービス・レベル・ルール	<p>充当する在庫引当優先情報パーセントとサービス・レベル・ルール要件の両方にオーダー行が関連付けられている場合は、サービス・レベル・ルール要件が在庫引当優先情報より優先されます。関連付けられている在庫引当優先情報パーセントは、「フルフィルメント・ワークベンチ - 編集」フォームのオーダー行のグリッド内に表示されません。</p> <p>サービス・レベル・ルールが関連付けられているオーダー行の充当数量を更新すると、充当数量に対する変更がサービス・レベル・ルール要件に影響するかどうかが評価され、要件が満たされない場合は対応する警告が表示されます。ルール評価必須のフラグが設定されている場合は、フラグの選択が解除されます。</p> <p>「フルフィルメント・ワークベンチ - 編集」フォームを使用し、オーダー・タイプのサービス・レベル・ルールが関連付けられているオーダー行を改訂すると、選択して変更した最初の行により、ルール要件を評価するようシステムに対してアラートが生成されます。充当数量が設定された要件に一致しているかどうかを確認するために、オーダー・ルールが関連付けられているオーダーのすべてのオーダー行が評価されます。オーダー・ルール要件および行レベル・ルール要件に関する警告メッセージが設定されます。</p> <p>サービス・レベル・ルールをカスタム関数ルールとして定義すると、カスタム関数以外からはメッセージが表示されません。オーダーにオーダー・レベルのカスタム・プログラムとオーダー充当パーセント・ルールの両方が含まれている場合は、オーダー充当パーセントがオーダー・カスタム・プログラムに一時変更され、「フルフィルメント・ワークベンチ - 編集」フォームと「フルフィルメント・ワークベンチ - 検索」フォームの両方のグリッドにオーダーのカスタム関数ルールのみが表示されます。</p> <p>事業所を変更すると、新しい事業所の値に基づいて、オーダー行がサービス・レベル・ルールを満たしているかどうか再評価されます。オーダー・タイプ・ルールが関連付けられているオーダー行で事業所が変更されると、変更されたオーダー行に関連付けられている新しいサービス・レベル・ルールに基づいて、すべてのオーダーが要件状況に対して再評価されます。</p> <p>オーダーおよび行ルール評価必須のフラグが選択されている場合は、オーダー行のフラグを選択解除するか、充当数量を更新して、行の要件に一致した状況を再評価する処理を開始できます。また、現在行のオーダー・レベル・タイプ・ルールの場合は、オーダー・レベル・タイプ・ルールが関連付けられたオーダーのその他すべてのオーダー行要件状況が再評価されます。</p>
無償品行の処理	<p>「フルフィルメント・ワークベンチ - 編集」フォーム内での無償品行の処理は、受注オーダー入力処理に似ています。受注オーダーやサービス・レベル・ルールの照会/一時変更プログラムの両方と同じように、無償品行はハイライトされて表示されます。ルール評価必須のフラグが選択されている場合を除き、「フルフィルメント・ワークベンチ - 編集」フォームのグリッドで無償品行の親オーダー行の編集可能なフィールドを変更すると、関連する無償品オーダー行が取り消され、新しいオーダー行が作成される原因になります。新しいオーダー行は「フルフィルメント・ワークベンチ - 編集」フォームを閉じるまでは表示されないため、再度フォームにアクセスしてください。</p>

第 8 章

フルフィルメントからのオーダー行のリリース

この章では、概要と次の方法について説明します。

- フルフィルメント・メッセージ通知の設定
- フルフィルメントからのリリース・プログラム (R4277703) の実行

フルフィルメントからのリリースについて

フルフィルメントからのリリース・プログラム (R4277703) を使用すると、JD Edwards EnterpriseOneフルフィルメント管理システムからオーダーがリリースされます。フルフィルメントからオーダー行がリリースされると、受注オーダー処理タスクが続行されます。

サービス・レベル・ルールを処理するために、フルフィルメントからのリリース・プログラムで、サービス・レベル・ルール明細テーブル (F4277711) の行とオーダー・サービス・レベル・ルール的一致フラグの値が検証されます。フルフィルメントからのリリース・プログラムは直接プログラムにアクセスして実行することも、フルフィルメント・ワークベンチ・プログラム (P4277701) や自動フルフィルメント処理プログラム (R4277701) から起動することもできます。

行はフラグの値に基づいてリリースされます。フルフィルメントからのリリース・プログラムでは、分割行の処理中に、F4277711テーブルの取消フラグや業種別顧客マスター (F03012) の一部引当フラグも確認されます。フルフィルメントからのリリースには、次の4つのシナリオがあります。

1. 行レベル・ルール・タイプが設定されているフルフィルメントのリリース。サービス・レベル・ルール明細テーブルから行パーセント一致フラグの値が取得され、フルフィルメントから行をリリースするかどうか判断されます。行レベル・ルール一致フラグの値が1の場合は、フルフィルメントから行がリリースされます。行レベル・ルール一致フラグの値が0の場合は、行がリリースされず、行をリリースできなかったというエラー・メッセージが発行されます。
2. オーダー・レベル・ルール・タイプが設定されているフルフィルメントのリリース。サービス・レベル・ルール・テーブルからオーダーおよび行パーセント・フラグが取得され、フルフィルメントから行とオーダーをリリースするかどうか判断されます。オーダーおよび行レベル・サービス・レベル・ルール一致フラグの値が1の場合は、適切な行がフルフィルメントからリリースされ、サービス・レベル・ヘッダー・テーブル (F4277701) でオーダー・リリース行フラグが1に設定されます。オーダー・レベル・ルール一致フラグの値が0の場合は、オーダー・レベル・ルールが設定されているオーダーの行はリリースされず、オーダーをリリースできなかったというエラー・メッセージが発行されます。
3. フルフィルメントのリリースおよび残数の取消。部分的に充当されたか分割されている行の場合、分割行は取り消されます。F4277711テーブルから取消フラグ設定が取得され、未処理残数を取り消すかどうか判断されます。
4. フルフィルメントのリリースおよび行の分割。部分的に充当された行の場合、行が分割されてリリース番号が1つ増加します。また、サービス・レベル・ルールが取得され、新しい分割行とリリース番号のサービス・レベル・ルール情報が戻されます。

フルフィルメント・メッセージ通知について

メッセージ通知の優先情報(35)を設定して、ユーザーが定義した関係者に電子メール通知を送信できます。JD Edwards EnterpriseOneフルフィルメント管理では、受注オーダー行が完全に充当されていない場合に、フルフィルメントからのリリース・プログラム(R4277703)から電子メール通知を送信できます。電子メールには、顧客、オーダー数量、リリース数量、充当数量、未充当数量など、受注オーダー行に関する基本的な情報が含まれます。電子メール通知を使用することによって、顧客の条件に合わせてオーダー行を充当できない場合に、顧客から問合せがあつてからではなく、こちらから自発的に対応できます。

注意: メッセージ通知を有効にするには、「システム固定情報」で「インターネットPPATメッセージ使用」オプションを設定する必要があります。

フルフィルメント・メッセージ通知の設定

この項では、メッセージ通知の優先詳細値の設定方法について説明します。

フルフィルメント通知の送信に使用する住所録番号の指定には、メッセージ通知(優先タイプ35)優先情報を使用します。

メッセージ通知の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
優先値の改訂	W4072D	「詳細優先情報」(G40311)、「詳細優先情報詳細の改訂」 「優先詳細の処理」フォームで、優先名を検索して選択します。 「優先情報詳細の改訂」フォームでレコードを選択します。 「ロー」メニューの「優先詳細」を選択します。	優先詳細値を設定します。

メッセージ通知(35)の優先詳細値の設定

「優先値の改訂」フォームにアクセスします。

参照:

ORACLE® JD EDWARDS ENTERPRISEONE Financial/Distribution Company [JPY900] サインアウト

詳細優先情報詳細の改訂 - 優先値の改訂

OK(O) 削除(D) 取消(L) ツール(T)

Preference Name MSGNOTF メッセージ通知

詳細優先タイプ 35 メッセージ通知

レコード 1-2 グリッドのカスタマイズ

順序No.	ビジネス ユニット	通知 タイプ	通知先 住所録
1.00	30	11	6001

メッセージ通知 (35) の「優先値の改訂」フォーム

順序No.

情報の順序を指定する番号を入力します。

ビジネスユニット

メッセージ通知を送信する個々の事業単位を表す英数字のコードを入力します。たとえば、倉庫保管場所、作業、プロジェクト、作業場、事業所、工場などをビジネスユニットとして設定できます。

通知タイプ

通知の優先情報のソースを指定します。値は次のとおりです。

- 00: 正味差異。
- 01: 受注オーダー。
- 02: 予測/計画。
- 03: INVRPT (在庫通知)。
- 04: ASN。
- 05: CUM。
- 06: 調整要求。
- 07: 受信需要。
- 08: 承認。
- 09: EDI管理。
- 10: カートン推奨エラー。
- 11: フルフィルメント通知。

フルフィルメントからのリリース・プログラム (R4277703) からメッセージを送信するには、この値を使用する必要があります。

通知先住所録

メッセージまたは通知を送信する住所録レコードを指定します。住所録の人名録レコードに設定した電子メール・アドレスが使用されます。

フルフィルメントからのリリース・プログラム (R4277703) の実行

この項では、次の方法について説明します。

- フルフィルメントからのリリース・プログラムの実行
- フルフィルメントからのリリース (R4277703) の処理オプションの設定

フルフィルメントからのリリース・プログラムの実行

「フルフィルメント処理」(G4277710)、「フルフィルメントからのリリース」を選択します。

フルフィルメントからのリリース (R4277703) の処理オプションの設定

この処理オプションでは、一時変更処理とフルフィルメントからのリリース・プログラムのメッセージ通知を制御します。

処理

1. 次状況の一時変更

オーダー処理の次のステップを指定します。使用するオーダー・タイプと行タイプに基づいてオーダー処理規則で指定したユーザー定義コード (40/AT) を設定する必要があります。

一時変更状況はフルフィルメントからのリリース処理のオプションの設定です。開始状況と一時変更用次状況の組合せは、オーダー処理規則にある有効な前状況と次状況の組合せである必要があります。

2. 次状況の更新

行状況を更新するかどうかを指定します。

空白: 行状況を更新します。

1: 行状況を更新しません。

オーダー処理規則に設定されている次状況コードにオーダー行が移動されます。

電子メール

1. 受信確認の選択

フルフィルメントからのリリース・プログラム (R4277703) を実行する際に、受信確認を送信するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

空白: 受信確認は送信されません。

1: 受信確認を送信します。

2. 電子メールの件名行

受信確認の送信時に件名行に表示されるメッセージを指定します。この処理オプションを空白にすると、関連する電子メールで件名行が空白になります。

3. 電子メール送信者の住所番号

受信確認に送信者として名前と電子メール・アドレスを使用するエンティティの住所番号を指定します。

4. 詳細優先情報の一時変更スケジュール

システム固定情報に定義されているデフォルトの優先情報スケジュールのかわりに使用するシステムの一時変更優先情報スケジュールを指定します。

メッセージ通知の優先情報(35)は、電子メール通知の送信に使用されるスケジュールに含まれている必要があります。

注意: 優先情報スケジュールを変更するには、詳細優先情報スケジュールの改訂プログラム(P4070)を使用します。

付録 A

スコア算出の例

この付録では、基本スコアおよび詳細優先スコアを使用したスコアの算出について説明します。

基本スコアの例

次の図は、システムが次の内容に基づいてスコアを割り当てる基本スコア設定を示しています。

- オーダー・タイプ = SO
- 行タイプ = S
- 顧客優先順位の範囲は90から500。

基本スコア設定 - 基本スコア設定

保存して続行(E)
保存して閉じる(O)
閉じる(L)

オーダー・タイプ
行タイプ

顧客優先順位
 下限:
 上限:

要求経過日数
 開始:
 終了:

カスタム関数優先順位
 下限:
 上限:

クエリーの選択
クエリーの保存 クエリーの編集

検索(I)
取消

レコード 1 - 10
グリッドのカスタマイズ

<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	顧客優先順位 (下限)	オーダー・ タイプ	要求経過日数 (開始)	行 タイプ	カスタム関数 優先順位(下限)	オーダー・ スコア
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	90.000	SO	999-	S	.000	155.000
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	90.000	SO		5 S	.000	80.000
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	90.000	SO		10 S	.000	50.000
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	90.000	SO		40 S	.000	13.000
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	100.000	SO	999-	S	.000	160.000
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	100.000	SO		5 S	.000	85.000
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	100.000	SO		10 S	.000	55.000
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	100.000	SO		40 S	.000	14.000
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	500.000	SO	999-	S	.000	170.000
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	500.000	SO		5 S	.000	170.000

削除(D)
保存して続行(E)
保存して閉じる(O)
閉じる(L)

例1

例2

例3

基本スコア設定

条件に一致するものが検索され、それに応じてスコアが割り当てられます。たとえば、今日の日付が10月1日で、今日の受注オーダーを入力し、要求日付が10月3日の場合、要求経過日数は2です。2は-999以上5未満であるため、要求経過日数の範囲が999-から始まる行の情報が読み取られ、オーダー・スコア160が取得されます(例1)。要求日付が10月7日の場合は、要求経過日数は6です。6は5以上10未満であるため、要求経過日数の範囲が5から始まる行が読み取られ、オーダー・スコア85が取得されます(例2)。顧客優先順位が250で要求日付が10月31日の場合は、要求経過日数は30です。顧客優先順位の範囲が100から始まり、要求日付の範囲が10から始まる行が取得されます。この行が選択されるのは、顧客優先順位(250)が100以上500未満で、要求経過日数(30)が10以上40未満であるためです。これにより、オーダー・スコア55が取得されます(例3)。

詳細優先スコア

次の図は、オーダー・タイプ優先度と行タイプ優先度の優先情報の設定を示しています。オーダー・タイプ優先度の優先情報設定は、SOオーダー・タイプでは値が100のものが取得されることを示しています。行タイプ優先度の優先情報設定は、S行タイプでは値が60のものが取得されることを示しています。

詳細スコアを使用したスコア・オーダー - 優先度の決定

Preference Name BDオーダー・タイプ優先度
 詳細優先タイプ オーダー・タイプ優先度

レコード 1 - 5 グリッドのカスタマイズ ↑ ↓ □				
<input type="checkbox"/>	順序No.	オーダー・タイプ	オーダー・タイプ優先度	
<input type="radio"/>	10.00	SO	100	
<input type="radio"/>	20.00	S4	90	
<input checked="" type="radio"/>	30.00	S8	80	
<input type="radio"/>				

Preference Name BD行タイプ優先度
 詳細優先タイプ 行タイプ優先度

レコード 1 - 5 グリッドのカスタマイズ ↑ ↓ □				
<input type="checkbox"/>	順序No.	行タイプ	行タイプ優先度	
<input type="radio"/>	10.00	S	60	
<input type="radio"/>	20.00	I	80	
<input checked="" type="radio"/>	30.00	X	100	
<input type="radio"/>				

オーダー・タイプおよび行タイプの優先度の設定

次の図は、要求経過日数の優先度の設定を示しています。順序には、-99999から40を超える範囲の要求日付が論理的に反映されます。要求日数優先度のスコアは範囲に基づいて取得されます。

- -9999以上で4.999までの要求日付のスコアは150。

- 5以上で9.9999までの要求日付のスコアは100。
- 10以上で39.9999までの要求日付のスコアは50。
- 40以上の要求日付のスコアは10。

請求スコアを使用したスコア・オーダー - 優先度の決定

Preference Name

RDAPRIO

8D要求経過日数

詳細優先タイプ

44

オーダー経過日数優先度

レコード 1 - 5		グリッドのカスタマイズ		
		順序No.	要求経過日数	要求日数 優先度
<input type="radio"/>		10.00	-99999	150
<input type="radio"/>		20.00	5	100
<input type="radio"/>		30.00	10	50
<input checked="" type="radio"/>		40.00	40	10
<input type="radio"/>				

要求経過日数の優先度

次の図は、フルフィルメント一括スコア算出プログラム(R4277702)の処理オプションを示しています。加重係数は合計で100になる必要があります。各優先度の値にはそれぞれの加重係数が乗算され、それらを合計して合計スコアが算出されます。

詳細スコアを使用したスコア・オーダー - 加重

図 処理オプション

OK 取消
 

処理

1. スコア方法	<input type="text" value="1"/>
ブランク = 基本 1 = 詳細	
2. オーダー・タイプ優先度の優先情報の加重係数	<input type="text" value="5.00"/>
3. 行タイプ優先度の優先情報の加重係数	<input type="text" value="10.00"/>
4. 販売先顧客優先度の加重係数	<input type="text" value="35.00"/>
5. 要求日付優先度の優先情報の加重係数	<input type="text" value="50.00"/>
6. カスタム優先度の加重係数	<input type="text"/>
7. カスタム優先度計算関数	<input type="text"/>
8. 詳細優先情報の一時変更スケジュール	<input type="text" value="BETADEMO"/>
9. 基本スコアが見つからない場合の警告の設定	<input type="text"/>
ブランク = 警告を設定しない 1 = 警告を設定する	

受注オーダー・スコア・バッチ処理プログラム (R4277702) の処理オプション

加重係数を使用してオーダー行のスコアが計算され、加重平均が算出されます。スコアは、次の計算式を使用して計算されます。

スコア = [(オーダー・タイプ優先度 × オーダー・タイプ加重パーセント) + (行タイプ優先度 × 行タイプ加重パーセント) + (要求日数優先度 × 要求経過日数加重パーセント) + (顧客優先順位 × 顧客加重パーセント) + (カスタム・ビジネス関数優先度 × カスタム・ビジネス加重パーセント)]

この図は、詳細優先情報を使用してスコアが計算される方法を詳しく説明しています。

詳細スコアを使用したスコア・オーダー - 計算

オーダー 番号	行番号	オーダー ・タイプ 優先度	オーダー ・タイプ 優先度の 加重	行タイプ 優先度	行タイプ 優先度の加重	要求日数 優先度	要求日数 優先度の加重	顧客優先順位	顧客優先順位 の加重
12637	1.000	100	5.00%	100	10.00%	150	50.00%	100	35.00%
12637	2.000	100	5.00%	110	10.00%	150	50.00%	100	35.00%
12638	1.000	100	5.00%	100	10.00%	100	50.00%	100	35.00%
12638	2.000	100	5.00%	110	10.00%	100	50.00%	100	35.00%

オーダー 番号	行番号	オーダー・ タイプの セグメント合計	行タイプの セグメント合計	要求日数の セグメント合計	顧客の セグメント合計	合計スコア (セグメント合計の合計)
12637	1.000	5	10	75	35	125
12637	2.000	5	11	75	35	126
12638	1.000	5	10	50	35	100
12638	2.000	5	11	50	35	101

詳細スコアの計算

JD Edwards EnterpriseOne用語集

アクセサ・メソッド/アクセサ	値オブジェクトまたはその他のソース・ファイルの要素を参照 (get) および設定 (set) するためのJavaメソッドです。
アクティビティ・ルール、処理規則	フロー内で、あるポイントから次のポイントにオブジェクトが進むための条件です。
追加モード	ユーザーによるデータの入力可能なフォームの状態です。
拡張プランニング・エージェント (APAg)	業務データの抽出、加工、読込みに使用するJD Edwards EnterpriseOneのツールです。APAgは、リレーショナル・データベース、フラット・ファイル・フォーマット、およびXMLのような他のデータまたはメッセージ・エンコーディング形式によるデータ・ソースへのアクセスをサポートしています。
代替通貨	<p>取引通貨 (国内のみの取引の場合は国内通貨) として指定した通貨と異なる通貨です。</p> <p>JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementでは、代替通貨を使用することにより、入金や支払を請求時とは異なる通貨で入力できます。</p>
アプリケーション・サーバー	分散環境内のアプリケーション・プログラムにビジネス・ロジックを提供するソフトウェアです。アプリケーション・サーバーの例として、Oracle Application Server (OAS) またはWebSphere Application Server (WAS) があげられます。
仮定通貨処理	取引に実際に使用されている通貨とは異なる通貨で、取引の金額を表示できる処理です。
基準日処理	ある時点を指定して、その日付までの取引を集計する処理です。たとえば、基準日を指定してJD Edwards EnterpriseOneの各種のレポートを実行し、その時点での勘定科目やビジネスユニットなどの残高や処理金額を確認できます。
自動コミット・トランザクション	すべてのデータベース操作をすぐにデータベースに書き込むデータベース接続です。
バック・ツーバック・プロセス	JD Edwards EnterpriseOne供給管理で使用されるプロセスで、別のプロセスで使用されるキーと同じキーが含まれます。
バッチ処理	<p>サード・パーティ・システムからJD Edwards EnterpriseOneにレコードを転送する処理です。</p> <p>JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementでは、バッチ処理を使用して、JD Edwards EnterpriseOne以外のシステムで入力された請求書や伝票のデータをJD Edwards EnterpriseOne売掛管理やJD Edwards EnterpriseOne買掛管理のシステムに転送できます。また、顧客レコードや仕入先レコードなどの住所録情報も転送できます。</p>
バッチ・サーバー	バッチ処理リクエストの実行用に指定されたサーバーです。通常、バッチ・サーバーにはデータベースは格納されず、対話型アプリケーションが実行されることもありません。
一括バッチ処理	<p>クライアント・ワークステーション上でアプリケーション処理を実行してから、後続の処理を一度にサーバー・アプリケーションに投入するトランザクションの方式です。バッチ処理はサーバー上で実行されるため、クライアント・アプリケーションは引き続き他のタスクを実行できます。</p> <p>“ダイレクト接続”と“オフライン処理”の説明も参照してください。</p>
ベスト・プラクティス	開発者による設計についての意思決定が最適になるように、任意で従うガイドラインです。

BPEL	Business Process Execution Languageの略語です。個別のサービスを組み合わせてエンドツーエンドのプロセス・フローを作成できる、標準Webサービスのオーケストレーション言語です。
BPEL PM	Business Process Execution Language Process Managerの略語です。BPELビジネス・プロセスを作成、デプロイ、管理する包括的インフラストラクチャです。
ビルド構成ファイル	ANTスクリプトを生成するプログラムで使用する、構成の設定が記述されたテキスト・ファイルです。ANTは、ビルド・プロセスを自動化するソフトウェア・ツールです。ANTスクリプトによって、公開ビジネス・サービスが生成されます。
ビルド・エンジニア	アーティファクトの生成、マスタリング、パッケージングの担当者です。ビルド・エンジニアには、アプリケーション・アーティファクトの生成担当者と、基盤のアーティファクトの生成担当者がいます。
ビルド・プログラム	ビルド構成ファイルを読み込み、公開ビジネス・サービスの生成を行うANTスクリプトを生成するWIN32実行ファイルです。
ビジネス・アナリスト	EnterpriseOneのビジネス・サービスの開発を必要とする条件と理由を特定する担当者です。
ビジネス関数	ユーザーによって作成された再利用可能なビジネス・ルールとログのセットで、イベント・ルールを通じて呼び出すことができます。ビジネス関数によって、トランザクションまたはそのサブセットが実行されます（在庫照会、作業オーダー発注など）。また、ビジネス関数にはAPIも含まれているため、フォーム、データベース・トリガー、またはJD Edwards EnterpriseOne以外のアプリケーションから呼び出すこともできます。ビジネス関数は、他のビジネス関数、フォーム、イベント・ルール、その他の構成要素と組み合わせてアプリケーションを構成します。ビジネス関数の作成には、イベント・ルール、またはCなどの第3世代言語を使用します。ビジネス関数の例としては、与信チェック（Credit Check）や在庫照会（Item Availability）などがあげられます。
ビジネス関数イベント・ルール	“ネームド・イベント・ルール（NER）”の説明を参照してください。
ビジネス・サービス	Javaで記述されたEnterpriseOneのビジネス・ロジックです。ビジネス・サービスは、1つ以上のアーティファクトのコレクションです。他に指定されていなければ、ビジネス・サービスは公開ビジネス・サービスとビジネス・サービスの両方を意味します。
ビジネス・サービス・アーティファクト	ビジネス・サービスを開発するために管理され、ビジネス・サービスのビルド・プロセスに必要な、ソース・ファイル、ディスクリプタなどです。
ビジネス・サービス・クラス・メソッド	ビジネス・サービスのフレームワークから提供されるリソースにアクセスするメソッドです。
ビジネス・サービス構成ファイル	interop.ini、JDBj.iniおよびjdelog.propertiesなど（他にもある）の構成ファイルです。
ビジネス・サービス相互参照	オーケストレーション中に使用されるキーと値のデータの組合せです。WSG/XPIベースのシステムにおけるコードとキーの相互参照を表します。
ビジネス・サービス相互参照ユーティリティ	JD Edwards EnterpriseOneのオーケストレーション相互参照データへのアクセスに使用される、BPEL/ESB環境にインストールされたユーティリティ・サービスです。
ビジネス・サービス開発環境	統合開発者がビジネス・サービスを開発および管理する際に必要なフレームワークです。
ビジネス・サービス開発ツール	JDeveloperという名前でも知られています。
ビジネス・サービス EnterpriseOneオブジェクト	EnterpriseOne LCMツールによって管理されるアーティファクトのコレクションです。テーブル、ビュー、フォームなどの他のEnterpriseOneオブジェクトと同様に、EnterpriseOne LCM内に名前付きで表示されます。

ビジネス・サービス・フレームワーク	特にビジネス・サービスの開発を支援する、ビジネス・サービスの基盤の一部です。
ビジネス・サービス・ペイロード	エンタープライズ・サーバーとビジネス・サービス・サーバーとの間で受け渡されるオブジェクトです。ビジネス・サービス・ペイロードには、ビジネス・サービス・サーバーに渡されたときにビジネス・サービスに入力される情報が含まれます。ビジネス・サービス・ペイロードには、エンタープライズ・サービス・サーバーに渡されたときにビジネス・サービスから返される結果が含まれます。通知の際、返されたビジネス・サービス・ペイロードには確認応答が含まれます。
ビジネス・サービス・プロパティ	ビジネス・サービスの動作または機能の制御に使用されるキー値データの組合せです。
ビジネス・サービス・プロパティ管理ツール	開発者および管理者がビジネス・サービス・プロパティのレコードの管理に使用するEnterpriseOneアプリケーションです。
ビジネス・サービス・プロパティのビジネス・サービス・グループ	ビジネス・サービス・プロパティをビジネス・サービス・レベルで分類したものです。通常、ビジネス・サービス名として表されます。1つのビジネス・サービス・レベルには、1つ以上のビジネス・サービス・プロパティ・グループが含まれます。各ビジネス・サービス・プロパティ・グループは、0個以上のビジネス・サービス・プロパティ・レコードを含むことができます。
ビジネス・サービス・プロパティのカテゴリ化	ビジネス・サービス・プロパティをカテゴリ化する方法です。これらのプロパティは、ビジネス・サービス別にカテゴリ化されます。
ビジネス・サービス・プロパティ・キー	ビジネス・サービス・プロパティをシステム全体でグローバルに識別する一意の名前です。
ビジネス・サービス・プロパティ・ユーティリティ	EnterpriseOneのビジネス・サービス・プロパティ・データにアクセスするためにビジネス・サービスの開発で使用するユーティリティAPIです。
ビジネス・サービス・プロパティ値	ビジネス・サービス・プロパティの値です。
ビジネス・サービス・リポジトリ	ビジネス・サービス・アーティファクトおよびビルド・ファイルを格納するClearCaseなどのソース管理システムです。または、ネットワーク内の物理ディレクトリのことをいいます。
ビジネス・サービス・サーバー	ビジネス・サービスが置かれる物理マシンです。ビジネス・サービスは、アプリケーション・サーバー・インスタンス上で実行されます。
ビジネス・サービス・ソース・ファイル/ビジネス・サービス・クラス	ビジネス・サービス・アーティファクトの種類の1つです。Javaコンパイラでコンパイルされるように記述された、javaファイル・タイプのテキスト・ファイルです。
ビジネス・サービス値オブジェクト・テンプレート	Cビジネス関数で使用する、ビジネス・サービス値オブジェクトの構造表現です。
ビジネス・サービス値オブジェクト・テンプレート・ユーティリティ	ビジネス・サービス値オブジェクトからビジネス・サービス値オブジェクト・テンプレートを作成する際に使用されるユーティリティです。
ビジネス・サービス・サーバー・アーティファクト	ビジネス・サービス・サーバーにデプロイされるオブジェクトです。
ビジネス・ビュー	アプリケーションやレポートでデータが使用されているJD Edwards EnterpriseOne テーブル(複数可)から、特定のカラムを選択するために使用されます。ビジネス・ビュー自体には特定のローを選択する機能はありません。また、ビジネス・ビューに実際のデータは含まれていません。ビジネス・ビューは、情報の表示専用の機能であり、このビューを介してデータを操作できます。
セントラル・オブジェクトのマージ	現行のリリースで顧客がオブジェクトに加えた変更を、新規のリリースのオブジェクトに統合する処理です。
セントラル・サーバー	最初にインストールされ、クライアント・マシンに配布されるソフトウェア・バージョン(セントラル・オブジェクト)を格納するために指定されたサーバーです。JD

	Edwards EnterpriseOneの典型的なインストールでは、ソフトウェアは1つのマシン、すなわちセントラル・サーバーにロードされます。次に、セントラル・サーバーにつながっている各種のワークステーションに対して、ソフトウェアのコピーがプッシュ・アウトまたはダウンロードされます。このような構成にすることで、ワークステーション上での使用によってソフトウェアが変更されたり、破損したりした場合でも、常にセントラル・サーバーから変更前のオブジェクトのセット(セントラル・オブジェクト)を入手できます。
チャート	JD Edwards EnterpriseOneソフトウェアのフォームに表示される表形式の情報です。
チェックイン・リポジトリ	開発者がビジネス・サービス・アーティファクトをチェックインおよびチェックアウトするリポジトリです。チェックイン・リポジトリは複数あります。各リポジトリは、それぞれ別の目的に使用されます(開発、本稼働、テストなど)。
コネクタ	JD Edwards EnterpriseOneとサード・パーティ・アプリケーションの間にロジックとデータの共有を可能にする、コンポーネント・ベースのインタオペラビリティ(相互運用)モデルです。JD Edwards EnterpriseOneコネクタ・アーキテクチャにはJavaコネクタとCOMコネクタが含まれています。
相殺/相手勘定	JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementの一般会計勘定科目であり、仕訳入力の相殺(貸借一致)処理に使用されます。たとえば、相殺/相手勘定を使用して、JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementでの配賦によって作成された会計入力の貸借一致を行います。
コントロール・テーブル・ワークベンチ	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行中に、必要なマージを行うためのバッチ・アプリケーションを実行するアプリケーションです。このマージにより、データ辞書、ユーザー定義コード、メニュー、ユーザー一時変更テーブルが更新されます。
コントロール・テーブルのマージ	顧客がコントロール・テーブルに加えた変更を、新規リリースのデータに統合する処理です。
関連データ	ビジネス・サービス名およびメソッドで構成されるリクエストとHTTPレスポンスとの関連付けに使用されるデータです。
コスト割当	JD Edwards EnterpriseOne収益性分析のプロセスであり、アクティビティまたはコスト・オブジェクトへのリソースの配賦またはトレースに使用されます。
原価要素	JD Edwards EnterpriseOne製造管理において、特定の品目の原価を構成する要素(資材費、人件費、間接費など)を表します。
資格証明	JD Edwards EnterpriseOneのユーザー名/パスワード/環境/ロール、EnterpriseOneセッションまたはEnterpriseOneトークンの有効なセットです。
相互参照ユーティリティ・サービス	EnterpriseOneの相互参照データへのアクセスに使用される、BPEL/ESB環境にインストールされたユーティリティ・サービスです。
セグメント間編集	コンフィギュレーション可能な品目セグメント間の関係を設定する論理ステートメントです。セグメント間編集を使用して、製造不可能なコンフィギュレーションに基づくオーダーを防ぐことができます。
通貨再換算	通貨を別の通貨に換算するプロセスであり、一般的にレポートで使用されます。たとえば、通貨再換算のプロセスを使用して、様々な通貨を単一の通貨に換算する必要がある連結レポートの作成に対応できます。
cXML	伝票と調達アプリケーションとの通信や、電子商取引ハブと仕入先との通信の簡素化に使用されるプロトコルです。
データベース資格証明	有効なデータベース・ユーザー名/パスワードです。
データベース・サーバー	データベースの管理やクライアント・マシンの検索を実行するローカル・エリア・ネットワーク内のサーバーです。

データ・ソース・ワークベンチ	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行中に、インストール・プランに定義されたすべてのデータ・ソースを、プランナのデータ・ソースに含まれるテーブル/データ・ソース・サイジング・テーブルおよびデータ・ソース・マスターから、システムのリリース番号のデータ・ソースにコピーするアプリケーションです。コピーされたデータを反映するため、データ・ソース・プラン詳細レコードも更新されます。
期間パターン	標準会計と52期間会計で、会計年度の開始日とその会計年度内の各期間の終了日を表すカレンダーです。
指定通貨	会社の財務レポートで基準として使用される通貨です。
デプロイメント・アーティファクト	サーバー、ポートなど、デプロイメント・プロセスに必要なアーティファクトです。
デプロイメント・サーバー	エンタープライズ・サーバーとクライアント・マシンへのソフトウェアのインストールや、それらのソフトウェアの管理、配布に使用されるサーバーです。
明細情報	JD Edwards EnterpriseOneの取引における個別の行に関する情報です。伝票支払品目や受注オーダー明細行などがあります。
ダイレクト接続	クライアント・アプリケーションとサーバー・アプリケーションが対話形式で直接通信するトランザクション方式です。 “一括バッチ処理”、“オフライン処理”の説明も参照してください。
DNT (Do Not Translate)	BLOBデータの制約のため、iSeriesサーバーに必要なデータ・ソースのタイプです。
2重価格設定	商品やサービスに対し、2種類の通貨で価格を設定するプロセスです。
重複した公開ビジネス・サービス承認レコード	同じユーザー識別情報と公開ビジネス・サービス識別情報を持つ、2つの公開ビジネス・サービス承認レコードです。
埋込みアプリケーション・サーバー・インスタンス	JDeveloperから起動され、完全にJDeveloper内で実行されるOC4Jインスタンスです。
編集コード	レポートやフォーム上の特定の値が、どのように表示またはフォーマットされるべきかを示すコードです。レポートに属するデフォルトの編集コードは大量の情報に関連しているため、使用時には注意が必要です。
編集モード	ユーザーによるデータの変更が可能なフォームの状態です。
編集ルール	ユーザーが入力したデータを、事前に定義されたルールやルールのセットに照合して、フォーマットや検証を行うための方法です。
電子データ交換 (EDI)	JD Edwards EnterpriseOneシステムとサード・パーティ・システムの間で、コンピュータ間の業務取引データの交換をペーパーレスに行うことを可能にするインタオペラビリティ・モデルです。EDIを使用する場合、EDI標準フォーマットから自社システムで使用されているフォーマットにデータを変換するためのソフトウェアを備えている必要があります。
埋込みイベント・ルール	特定のテーブルやアプリケーション専用のイベント・ルールです。たとえば、フォーム間の呼び出し、処理オプションの値に基づくフィールドの非表示化、ビジネス関数の呼び出しなどが含まれます。汎用的な“ビジネス関数イベント・ルール”とは対照的に使用されます。
従業員ワーク・センター	発信側のアプリケーションやユーザーに関係なく、システム生成メッセージとユーザー作成メッセージを含むすべてのJD Edwards EnterpriseOneメッセージの送受信を行うための中心となるロケーションです。各ユーザーには、アクティブ・メッセージなどのメッセージやワークフローを含むメールボックスが割り当てられます。
エンタープライズ・サーバー	JD Edwards EnterpriseOneのデータベースとロジックを格納するサーバーです。

ESB (Enterprise Service Bus)	イベント駆動型のXMLベースのメッセージング・フレームワーク(バス)を使用してサービス指向アーキテクチャを有効にする、Webサービス標準に準拠したミドルウェア・インフラストラクチャ製品またはテクノロジーです。
EnterpriseOne管理者	EnterpriseOne管理システムの担当者です。
EnterpriseOne資格証明	EnterpriseOneユーザーの検証に使用される、ユーザーID、パスワード、環境およびロールです。
EnterpriseOneオブジェクト	アプリケーションのビルドに使用される再利用可能なコードです。オブジェクトのタイプには、テーブル、フォーム、ビジネス関数、データ辞書項目、バッチ処理、ビジネス・ビュー、イベント・ルール、バージョン、データ構造体、メディア・オブジェクトなどがあります。
EnterpriseOne開発クライアント	以前は“ファット・クライアント”と呼ばれていた、Microsoft Windowsのクライアントおよび設計ツールを含む、EnterpriseOneアーティファクトの開発に必要なインストール済EnterpriseOneコンポーネントのコレクションです。
EnterpriseOne拡張機能	EnterpriseOne固有の、JDeveloperのコンポーネント(プラグイン)です。JDeveloperウィザードは、拡張機能の具体例の1つです。
EnterpriseOneプロセス	JD Edwards EnterpriseOneクライアントおよびサーバーで、プロセス・リクエストの処理とトランザクションの実行を可能にするソフトウェア・プロセスです。クライアントでは1つのプロセスが実行され、サーバーでは1つのプロセスの複数のインスタンスを処理できます。JD Edwards EnterpriseOneプロセスを、ワークフロー・メッセージやデータ・レプリケーションなど特定のタスク専用のプロセスに指定することで、サーバーが大量のタスクを処理している場合でも重要なプロセスの実行を確保できます。
EnterpriseOneリソース	権限を持つユーザーに限定された、EnterpriseOneのテーブル、メタデータ、ビジネス関数、辞書情報またはその他の情報です。
環境ワークベンチ	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、環境情報および各環境のオブジェクト構成マネージャ・テーブルを、プランナ・データ・ソースからシステム・リリース番号のデータ・ソースにコピーするアプリケーションです。コピーされたデータを反映するため、環境プラン詳細レコードも更新されます。
エスカレーション・モニター	処理待ちのリクエストやアクティビティを監視し、それらが非アクティブの状態のまま指定した時間が経過した場合に、再実行するか、または次のステップやユーザーに処理を進めるバッチ・プロセスです。
イベント・ルール	フォームの入力や、フィールド間の移動など、特定のアプリケーションで実行された操作に基づいて処理(複数可)の実行をシステムに指示する論理ステートメントです。
明示的トランザクション	ビジネス・サービス開発者がビジネス・サービス内のトランザクション境界のタイプ(自動または手動)および範囲を明示的に制御する際に使用されるトランザクションです。
公開されたメソッド/値オブジェクト	公開インターフェイスの一部である、公開ビジネス・サービスのソース・ファイルまたはその一部です。顧客との契約の一部でもあります。
施設、事業所	原価のトラッキングの対象となる業務単位の1つです。たとえば、倉庫所在地、ジョブ、プロジェクト、ワーク・センター、事業所などがあります。“ビジネスユニット”と呼ばれる場合もあります。
略式コマンド	特定のコマンドを使用することで、メニューやアプリケーション間を迅速に移動できるコマンド・プロンプト機能です。
ファイル・サーバー	ネットワーク上で他のコンピュータからアクセスされるファイルを保存するサーバーです。リモート・ディスク・ドライブとしてユーザーに表示されるディスク・サーバーとは異なり、ファイル・サーバーには、単にファイルを保存するだけでなく、ネッ

	トワーク・ユーザーがファイルをリクエストしたりファイルを更新した場合に、それらの要求を整理してファイルを管理するための高度な機能が備えられています。
最終モード	データ・レコードの更新や作成を行うプログラムの処理モードの1つです。
基盤	実行時にビジネス・サービスを実行するためにアクセス可能にする必要のあるフレームワークです。例として、Java ConnectorおよびJDBjがあげられます(この他にもあります)。
FTPサーバー	FTP(ファイル転送プロトコル)を通じてファイルへのリクエストに応答するサーバーです。
見出し情報	テーブルやフォームの先頭に表示される情報です。見出し情報を使用して、付随するレコード・グループの制御情報が識別または提供されます。
HTTPアダプタ	特定のURLを指定したGET、POST、PUT、DELETE、TRACE、HEADおよびOPTIONSなどの基本HTTP操作に使用される、サービスの汎用セットです。
インスタンス化	“作成する”という意味のJava用語です。クラスがインスタンス化されると、新しいインスタンスが作成されます。
統合開発者	EnterpriseOneビジネス・サービスを開発、実行およびデバッグする、システムのユーザーです。統合開発者は、EnterpriseOneビジネス・サービスを使用してそのようなコンポーネントを開発します。
インテグレーション・ポイント(IP)	ドキュメント・レベルのインターフェイスを公開する、EnterpriseOneの以前の実装におけるビジネス・ロジックです。このタイプのロジックは、XBPと呼ばれていました。EnterpriseOne 8.11では、webMethodsのサポートにより、IPがWebサービスゲートウェイに実装されました。
インテグレーション・サーバー	コンピュータが内部および外部のネットワークで接続されたシステム環境で、異なるオペレーティング・システムやアプリケーション間でのデータの交換を行うための機能を提供するサーバーです。
整合性テスト	データの整合性を維持するための社内プロセスを補強するプロセスで、貸借が一致していないデータや矛盾のあるデータの検出と報告を行います。
インターフェイス・テーブル	“Zテーブル”の説明を参照してください。
内部メソッド/値オブジェクト	公開インターフェイスの一部ではない、ビジネス・サービスのソース・ファイルまたはその一部です。privateメソッドまたはprotectedメソッドがこれに相当するといえます。publishedメソッドで使用されない値オブジェクトもこれに相当するといえます。
インタオペラビリティ・モデル	サード・パーティ・システムからJD Edwards EnterpriseOneへの接続やアクセスを行うための機能です。
エラー表示の有効化	JD Edwards EnterpriseOneにおけるフォーム・レベルのプロパティで、有効にすると、アプリケーション・エラーが発生した場合にエラー・メッセージがフォーム上に表示されます。
IServerサービス	Webサーバーに常駐するインターネット・サーバーサービスで、データベースからクライアントへのJavaクラスのファイル配信を高速化するために使用されます。
代替ラベル	代替的なデータ辞書項目のラベルで、使用されているオブジェクトの製品コードに基づいてJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションに表示されます。
Javaアプリケーション・サーバー	サーバー中心のアーキテクチャの中間層に置かれるコンポーネント・ベースのサーバーです。このサーバーは、データのアクセスや永続性ととともに、セキュリティとステータスの管理を行うためのミドルウェア・サービスを提供します。
JDBNET	異種サーバー間でのデータ・アクセスを実現するためのデータベース・ドライバです。

JDEBASEデータベース・ミドルウェア	JD Edwards EnterpriseOne独自のデータベース・ミドルウェア・パッケージで、プラットフォームに依存しないAPIとクライアント/サーバー間のアクセスを提供します。
JDECallObject	ビジネス関数から他のビジネス関数を呼び出すためのAPIです。
jde.ini	JD Edwards EnterpriseOneの初期設定に必要なランタイム設定を提供するJD Edwards EnterpriseOneファイル(またはiSeries用のメンバー)です。JD Edwards EnterpriseOneを実行する各マシンごとに、ファイルまたはメンバーの特定バージョンを常駐させる必要があります。これには、ワークステーションとサーバーも含まれます。
JDEIPC	サーバーコードによって使用される通信プログラミング・ツールであり、マルチプロセス環境における同一データへのアクセス制御、プロセス間の通信と調整、新規プロセスの作成を行います。
jde.log	JD Edwards EnterpriseOneの主要な診断ログ・ファイルです。このファイルは常に主ドライブのルート・ディレクトリに置かれ、JD Edwards EnterpriseOneの起動以降の状況とエラー・メッセージが書き込まれます。
JDENET	JD Edwards EnterpriseOne独自の通信ミドルウェア・パッケージで、ピア・ツーピア、メッセージ・ベース、ソケット・ベースのマルチプロセス通信用のミドルウェア・ソリューションです。JD Edwards EnterpriseOneのすべてのサポート対象プラットフォームでクライアント/サーバー間、サーバー/サーバー間の通信を処理します。
JDeveloperプロジェクト	JDeveloperでソース・ファイルのカテゴリ化およびコンパイルに使用されるアーティファクトです。
JDeveloperワークスペース	JDeveloperでプロジェクト・ファイルの編成に使用されるアーティファクトです。1つ以上のプロジェクト・ファイルがここに配置されます。
JMSキュー	ポイントツーポイントのメッセージングに使用されるJavaメッセージング・サービス・キューです。
リスナー・サービス	HTTP経由でXMLメッセージをリスニングするリスナーです。
ローカル・リポジトリ	ビジネス・サービス・アーティファクトの格納に使用される、開発者のローカル開発環境です。
ローカルのスタンドアロンBPEL/ESBサーバー	アプリケーション・サーバーにインストールされていない、スタンドアロンBPEL/ESBサーバーです。
ロケーション・ワークベンチ	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、インストール・プランに定義されたすべてのロケーションを、プランナ・データ・ソースの保管場所マスターからシステム・データ・ソースにコピーするアプリケーションです。
ロジック・サーバー	アプリケーション・プログラムにビジネス・ロジックを提供する、分散ネットワーク内のサーバーです。典型的なコンフィギュレーションでは、プリスティン・オブジェクトがセントラル・サーバーからロジック・サーバーに複製されます。JD Edwards EnterpriseOneソフトウェアの実行時に、ロジック・サーバーでは、ワークステーションと連動して、必要な処理が実際に実行されます。
差し込み印刷ワークベンチ	業務文書を自動的に印刷するため、Microsoft Word 6.0またはそれ以上のバージョンの文書とJD Edwards EnterpriseOneのレコードをマージするアプリケーションです。たとえば、雇用の証明に関する文書を印刷する際に、差し込み印刷ワークベンチを使用できます。
手動コミット・トランザクション	コミットがコールされるまで、すべてのデータベース操作によるデータベースへの書き込みが遅延されるデータベース接続です。
マスター・ビジネス関数(MBF)	データベース内の情報の追加、変更、更新を担う中心のロケーションとして機能する対話型のマスター・ファイルです。マスター・ビジネス関数によって、データ入力フォームと該当するテーブル間でのデータの交換が行われます。マスター関数によって、すべての必要なデフォルト値と編集ルールを含む関数の共通セット

	が、関連するプログラムに提供されます。MBFには、データベースの情報を追加、更新、削除する際の整合性を確保するロジックが含まれています。
マスター・テーブル	“パブリッシュ済テーブル”の説明を参照してください。
照合伝票	取引を完了または変更するために、当初伝票と関連付けられる伝票です。たとえば、JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementでは、入金請求書の照合伝票に、支払が支払伝票の照合伝票になります。
メディア・ストレージ・オブジェクト	Gxxx、xxxGT、またはGTxxxのいずれかの命名規則を使用するファイルで、テーブルの形で分類されていないオブジェクトです。
メッセージ・センター	発信側のアプリケーションやユーザーに関係なく、システム生成メッセージとユーザー作成メッセージを含むすべてのJD Edwards EnterpriseOneメッセージの送受信を行うための中心となるロケーションです。
メッセージング・アダプタ	サード・パーティ・システムからJD Edwards EnterpriseOneに接続し、メッセージ・キューを使用してデータの交換を行うためのインタオペラビリティ・モデルです。
メッセージング・サーバー	メッセージングAPIを使用して、他のプログラムで使用するために送信されたメッセージを処理するサーバーです。メッセージング・サーバーには、通常、関数を実行するためのミドルウェア・プログラムが配備されます。
中間層BPEL/ESBサーバー	アプリケーション・サーバーにインストールされたBPEL/ESBサーバーです。
監視アプリケーション	管理者が各種EnterpriseOneサーバーの統計情報を取得し、統計をリセットしたり通知を設定したりできる、EnterpriseOneのツールです。
ネームド・イベント・ルール (NER)	カプセル化された再利用可能なビジネス・ロジックです。C言語ではなく、イベント・ルールを使用して作成されます。NERは、ビジネス関数イベント・ルールとも呼ばれます。NERは、複数のプログラムによって、複数の場所で繰り返し使用できます。このようなモジュール方式での提供によって、コードの合理性や再利用性が高まり、必要な作業がより少なくなります。
Nota Fiscal	ブラジルでは、税務処理のためにすべての商取引についてこの書式を作成し、税法で指定された情報を含めることが義務付けられています。
Nota Fiscal Factura	ブラジルで使用する書式です。伝票情報を伴う“Nota Fiscal”です。 “Nota Fiscal”の説明も参照してください。
オブジェクト構成マネージャ (OCM)	JD Edwards EnterpriseOneでは、ランタイム環境で使用されるオブジェクトのリクエスト・ブローカーおよび制御センターとして機能します。OCMによって、ビジネス関数、データ、バッチ・アプリケーションのランタイム・ロケーションが追跡されます。これらのオブジェクトのいずれかが呼び出されると、OCMでは、指定された環境/ユーザーのデフォルト値と一時変更情報に基づいて、そのオブジェクトにアクセスするためのロケーションが特定されます。
オブジェクト・ライブラリアン	アプリケーションのビルドに繰り返し使用できるすべてのバージョン、アプリケーション、ビジネス関数のリポジトリです。オブジェクト・ライブラリアンによって、開発者にチェックアウト機能とチェックイン機能が提供されます。また、JD Edwards EnterpriseOneオブジェクトの作成、変更、使用も管理されます。オブジェクト・ライブラリアンは、稼働環境や開発環境など複数の環境に対応しているため、異なる環境間でオブジェクトを簡単に移動できます。
オブジェクト・ライブラリアンのマージ	これまでのリリースでオブジェクト・ライブラリアンに加えられたすべての変更を、新規リリースのオブジェクト・ライブラリアンに統合する処理です。
オープン・データ・アクセス (ODA)	データの集計とレポート作成のために、SQLステートメントを使用してJD Edwards EnterpriseOneのデータを抽出できるインタオペラビリティ・モデルです。

出力ストリーム・アクセス (OSA)	JD Edwards EnterpriseOneのインターフェイスを設定し、別のソフトウェア・パッケージ (Microsoft Excelなど) にデータを渡して処理を実行するためのインタオペラビリティ・モデルです。
パッケージ	JD Edwards EnterpriseOneオブジェクトは、デプロイメント・サーバーからパッケージとしてワークステーションにインストールされます。パッケージには、部品表やキットなどのように、各ワークステーションに必要なオブジェクトが含まれます。さらに、デプロイメント・サーバー上でのオブジェクトの位置が示されるため、インストール・プログラムがそれらのオブジェクトを検出できるようになっています。パッケージは、ある時点におけるデプロイメント・サーバー上のセントラル・オブジェクトを示すスナップ・ショットでもあります。
パッケージ・ビルド	既存ユーザーに対し、ソフトウェアの変更や新規アプリケーションの反映を容易に行うためのソフトウェア・アプリケーションです。また、JD Edwards EnterpriseOneでは、パッケージ・ビルドとは、ソフトウェアのコンパイル済バージョンを指す場合もあります。たとえば、使用しているERPソフトウェアのバージョンをアップグレードする際に、“パッケージ・ビルド”を使用するという場合があります。 “パッケージ・ビルド”という用語は、たとえば次のようにも使用されます「また、パッケージ・ビルドの間に行われるビジネス関数のグローバル・ビルドには新しい関数が自動的に含まれるため、デプロイの準備ができるまでビジネス関数を本稼働パス・コードに含めないでください」。このように、パッケージ・ビルドを作成するプロセスが“パッケージ・ビルド”と呼ばれる場合もあります。
パッケージ・ロケーション	パッケージとその複製オブジェクトのセットが格納されるディレクトリ構造上の位置です。通常は、“¥¥デプロイメント・サーバー¥リリース¥パス・コード¥パッケージ¥パッケージ名”になります。このパスの下の子ディレクトリに、パッケージの複製オブジェクトが格納されます。パッケージがビルドまたは格納される場所を指す場合もあります。
パッケージ・ワークベンチ	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、パッケージ情報テーブルを、プランナ・データ・ソースからシステム・リリース番号データ・ソースに転送するアプリケーションです。処理の結果を反映するため、パッケージ・プラン詳細レコードも更新されます。
パスコード・ディレクトリ	EnterpriseOne開発アーティファクトを格納する、EnterpriseOne開発クライアント上にあるファイル・システムの特定の部分です。
パターン	ソフトウェアの設計でよく発生する問題に対し、繰り返して使用される一般的な解決策です。ビジネス・サービスの開発では、オブジェクトのリレーションシップとやり取りに重点が置かれます。オーケストレーションでは、統合パターン (同期/非同期のリクエスト/レスポンス、パブリッシュ、通知、受信/応答など) に重点が置かれます。
計画ファミリ	設計と製造に類似点があるため、まとめて計画する方が合理的である複数の最終品目をグループ化する手段です。
優先プロファイル	品目、品目グループ、顧客、および顧客グループについて、ユーザー定義の階層 (順序) に基づいて指定したフィールドのデフォルト値を定義する機能です。
プリント・サーバー	ネットワークとプリンタ間のインターフェイスであり、ネットワーク・クライアントはこのインターフェイスを介してプリンタに接続し、印刷ジョブを送信します。コンピュータ、独立したハードウェア・デバイス、またはプリンタ内部のハードウェアのどれでも、プリンタ・サーバーとして使用できます。
プリステイン環境	JD Edwards EnterpriseOneのデモ・データを使用した未変更オブジェクトのテストに使用するJD Edwards EnterpriseOne環境です。研修環境としても使用されます。変更したオブジェクトと変更前のオブジェクトを比較するには、この環境が必要になります。
処理オプション	バッチ・プログラムやレポートの実行を制御するパラメータをユーザーが指定するためのデータ構造です。たとえば、処理オプションを使用して、特定のフィールド

	<p>ドのデフォルト値の指定、情報の表示および印刷の方法、日付範囲の指定、プログラムの実行を制御するランタイム値の入力などを行います。</p>
本稼働用環境	<p>ユーザーがJD Edwards EnterpriseOneソフトウェアを実際に使用するJD Edwards EnterpriseOne環境です。</p>
本稼働レベルのファイル・サーバー	<p>品質が保証され商品化されたファイル・サーバーで、通常はユーザーサポート・サービスとともに提供されます。</p>
本稼働公開ビジネス・サービスのWebサービス	<p>本稼働アプリケーション・サーバーにデプロイされた、公開ビジネス・サービスのWebサービスです。</p>
プログラム一時修正 (PTF)	<p>JD Edwards EnterpriseOneソフトウェアに加えられた変更で、磁気テープやディスクの形式でユーザー企業に提供されます。</p>
プロジェクト	<p>JD Edwards EnterpriseOneでは、オブジェクト管理ワークベンチで開発されたオブジェクトのための仮想コンテナを指します。</p>
プロモーション・パス	<p>ワークフロー内におけるオブジェクトやプロジェクトの進捗状況を示すパスです。標準的なプロモーション・サイクル(パス)は次のとおりです。</p> <p>11>21>26>28>38>01</p> <p>このパスでは、11は検討待ちの新規プロジェクト、21はプログラミング、26は品質管理テスト/検討、28は品質管理テスト/検討の完了、38は本稼働、01はサイクルの完了をそれぞれ表します。たとえば標準的なプロジェクト・プロモーション・サイクルで、開発者は、開発(プログラミング)のパス・コードからチェックアウトしたオブジェクトをチェックインして戻したら、それらのオブジェクトをプロトタイプ(テスト)のパス・コードに進めます。すべての作業が終了したオブジェクトは、完了の前に本稼働のパス・コードに移されます。</p>
プロキシ・サーバー	<p>企業がセキュリティ管理、管理統制、サービスのキャッシュ化を確実に行うことができるように、ワークステーションとインターネットの間で防壁として機能するサーバーです。</p>
公開ビジネス・サービス	<p>EnterpriseOneのサービス・レベルのロジックおよびインターフェイスです。公開ビジネス・サービスに分類されている場合、外部(EnterpriseOne以外)のシステムに公開する意図があることを示しています。</p>
公開ビジネス・サービス識別情報	<p>関係のある承認レコードの特定に使用される、公開ビジネス・サービスに関する情報です。公開ビジネス・サービスとメソッド名、公開ビジネス・サービスのみ、または*ALLが使用されます。</p>
公開ビジネス・サービスのWebサービス	<p>J2EE Webサービスとしてパッケージされた、公開ビジネス・サービスのコンポーネント(つまり、ビジネス・サービス・クラス、ビジネス・サービス基盤、構成ファイルおよびWebサービス・アーティファクトを格納したJ2EE EARファイル)です。</p>
パブリッシュ済テーブル	<p>マスター・テーブルとも呼ばれ、他のマシンにレプリケートされる元のテーブルです。パブリッシュ・マシンに格納されるF98DRPUBテーブルにより、企業内のすべてのパブリッシュ済テーブルと関連するパブリッシュが識別されます。</p>
パブリッシュ	<p>パブリッシュされたテーブルを扱うサーバーです。F98DRPUBテーブルでは、企業内のすべてのパブリッシュ済テーブルと関連するパブリッシュの識別が行われます。</p>
プル・レプリケーション	<p>JD Edwards EnterpriseOneでデータを個別のワークステーションにレプリケートする方法の1つです。レプリケート先のマシンは、JD Edwards EnterpriseOneのデータ・レプリケーション・ツールを使用して、プル・サブスクライバとしてセットアップされます。プル・サブスクライバが情報を要求した場合にのみ、変更、更新、削除が通知されます。通常は起動時に、プル・サブスクライバからF98DRPCNテーブルが置かれているサーバーに対し、要求がメッセージ形式で送信されます。</p>

QBE	Query by Example (例示照会) の略語です。JD Edwards EnterpriseOne では、QBE 行は、詳細グリッドの最上段にあり、データのフィルタリングに使用されます。
リアルタイム・イベント	外部システムで使用するために EnterpriseOne のアプリケーション・ロジックからトリガーされるメッセージです。
リフレッシュ	新規リリースや PTF/累積アップデート・リリース (B73.2 や B73.2.1 など) に問題なく対応できるように、JD Edwards EnterpriseOne ソフトウェアまたはそのサブセット (テーブルや業務データなど) を修正する機能です。
レプリケーション・サーバー	クライアント・マシンへのセントラル・オブジェクトのレプリケーションを扱うサーバーです。
Rt-Addressing	ビジネス・サービス呼出しリクエストのホスト/ポート・ユーザー・セッションを開始するブラウザ・セッションを特定する一意のデータです。
規則	ツールによって強制されるのではなく、目的の結果を得るため、および指定された標準に準拠するために従う必須のガイドラインです。
見積オーダー	JD Edwards EnterpriseOne 調達管理および外注管理では、仕入先からの品目情報と価格情報のリクエストを指します。見積オーダーから購買オーダーを作成できます。 JD Edwards EnterpriseOne 受注管理では、まだ発注を行っていない顧客に対する品目情報と価格情報を指します。
Secure by Default	特定のレコードによってユーザーがオブジェクトの実行権限を持つことが示されないかぎり、ユーザーがオブジェクトの実行権限を持たないとみなすセキュリティ・モデルです。
SSL (Secure Socket Layer)	通信の機密性を提供するセキュリティ・プロトコルです。SSL を使用することで、クライアントとサーバー・アプリケーションは、盗聴、改ざん、なりすましを防ぐように設計された方法で通信できます。
SEI 実装	サービス・エンドポイント・インターフェイス (SEI) を宣言するメソッドを実装する Java クラスです。
選択項目	JD Edwards EnterpriseOne メニューに表示される選択項目は、メニューからアクセスできる各機能を表します。選択するには、関連する番号を選択フィールドに入力して [Enter] キーを押します。
シリアルライズ	オブジェクトやデータを、格納用の形式またはネットワーク接続リンク上で送受信できる形式に変換し、必要なときに元のデータやオブジェクトを再作成できるプロセスです。
サーバーワークベンチ	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、サーバー設定ファイルを、プランナ・データ・ソースからシステム・リリース番号データ・ソースにコピーするアプリケーションです。コピーされたデータを反映するため、サーバープラン詳細レコードも更新されます。
サービス・エンドポイント・インターフェイス (SEI)	クライアントからのサービスの呼出しを可能にするメソッドを宣言する Java インターフェイスです。
SOA	Service Oriented Architecture の略語です。
ソフトコーディング	指定されたプロセスの実行に影響するサイト固有の変数を管理者が操作できるコーディング技術です。
ソース・リポジトリ	HTTP アダプタおよびリスナー・サービス開発環境アーティファクト用のリポジトリです。
スポット・レート	取引レベルで入力される為替レートです。このレートは、2つの通貨の間に設定されている為替レートより優先して使用されます。

スペックのマージ	オブジェクト・ライブラリアン、バージョン・リスト、およびセントラル・オブジェクトの3つのマージで構成されるマージ処理です。この機能を使用して、顧客が変更したデータを新規リリースのデータに統合できます。
スペック	JD Edwards EnterpriseOneオブジェクトを完全に記述したものです。各オブジェクトには、アプリケーションのビルドに使用される固有のスペックまたは名前があります。
スペック・テーブル・マージ・ワークベンチ	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、スペック・テーブルを更新するためのバッチ・アプリケーションを実行するアプリケーションです。
SSL証明書	ユーザー名およびそのユーザーの公開鍵が記載された、認証局が署名した特別なメッセージです。メッセージが認証局によって正規に署名されたことを誰もが確認でき、そのためユーザーの公開鍵に対する信用が強化されます。
オフライン処理	サーバーに接続していないユーザーがトランザクションを入力し、後でサーバーに接続して、入力したトランザクションをアップロードできる処理モードです。
サブスクリイバ・テーブル	F98DRSUBテーブルを指します。このテーブルは、F98DRPUBテーブルとともにパブリッシャ・サーバーに置かれ、各パブリッシュ済テーブルに対するすべてのサブスクリイバ・マシンの識別に使用されます。
スーパークラス	クラスは何かのインスタンスであり、それをさらに詳細にしたものであるという、Java言語の継承についての概念です。たとえば、木は樅や榎のスーパークラスであるといえます。
補足データ	<p>マスター・テーブルで管理されないすべての情報を指します。通常、補足データとして、従業員、応募者、購買要求、職務(従業員の技能、取得学位、語学力など)に関する情報があります。補足データを使用することにより、実質的に組織で必要となるすべての情報を追跡管理できます。</p> <p>たとえば、標準のマスター・テーブル(住所録マスター、顧客マスター、仕入先マスター)とは別に、それらのテーブルでは管理されない情報を汎用データベースで管理します。汎用データベースを使用することで、JD Edwards EnterpriseOneシステム全体にわたって、標準的な方法で補足データの入力と管理を行うことができます。</p>
テーブル・アクセス管理(TAM)	ユーザー定義データの保存と取得を行うJD Edwards EnterpriseOneコンポーネントです。TAMには、データ辞書定義、アプリケーション/レポートのスペック、イベント・ルール、テーブル定義、ビジネス関数入力パラメータ、ライブラリ情報などの情報と、アプリケーション、レポート、ビジネス関数を実行するためのデータ構造体の定義が保存されます。
テーブル変換ディレクタ	JD Edwards EnterpriseOneと、JD Edwards EnterpriseOne以外のテーブルを使用するサード・パーティ・システムとの間で、データ交換を行うためのインタオペラビリティ・モデルです。
テーブル変換	JD Edwards EnterpriseOneと、JD Edwards EnterpriseOne以外のテーブルを使用するサード・パーティ・システムとの間で、データ交換を行うためのインタオペラビリティ・モデルです。
テーブル・イベント・ルール	データベース・トリガーに添付されるロジックで、トリガーに指定されたアクションがテーブルに対して発生した場合に起動します。JD Edwards EnterpriseOneでは、イベント・ルールをアプリケーションのイベントに添付できますが、この機能はアプリケーション固有になります。テーブル・イベント・ルールでは、テーブル・レベルで埋込みロジックを提供します。
ターミナル・サーバー	このサーバーを使用して、端末、マイクロコンピュータ、その他の機器を、ネットワーク/ホスト・コンピュータ、または特定のコンピュータに取り付けられたデバイスに接続できます。
3ステップ処理	JD Edwards EnterpriseOneでのバッチ・トランザクションの入力、検討と承認、転記、という3種類のタスクを指します。

3方向伝票照合	JD Edwards EnterpriseOne調達管理および外注管理で、仕入先からの請求書と入荷情報を比較して伝票を作成するプロセスです。3方向照合では、入荷レコードに基づいて伝票を作成します。
トランザクション処理 (TP) モニター	ローカル端末およびリモート端末と、それらを設定したアプリケーションの間でのデータ交換を制御するモニター機能です。また、分散環境でのデータの整合性も確認します。TPモニターには、通常、データの検証と端末画面のフォーマットを行うプログラムが含まれます。
トランザクション処理方法	手動コミットのトランザクション境界の管理に関する方法です (開始、コミット、ロールバック、取消など)。
トランザクション・セット	複数のセグメントで構成されている電子的業務トランザクション (電子データ交換の標準ドキュメント) です。
トリガー	データ辞書項目ごとに定義される複数のイベントの1つです。イベントの発生時にシステム内で自動的に処理されるロジックをデータ辞書項目に添付できます。
トリガーイベント	特殊なアクションが必須であるか、または結果アクションが定義済の特定のワークフロー・イベントです。
2方向認証	クライアントとサーバーがSSL証明書を互いに提供することで相互に認証しあう認証メカニズムです。
2方向伝票照合	JD Edwards EnterpriseOne調達管理および外注管理で、購買オーダーの明細行と仕入先の請求書を比較して伝票を作成するプロセスです。入荷情報は記録されません。
ユーザー識別情報	ユーザーID、ロールまたは*publicです。
ユーザー一時変更のマージ	新規のユーザー一時変更レコードを、顧客が使用しているユーザー一時変更テーブルに追加する処理です。
値オブジェクト	データ構造がデータを渡すのと同様に入力/出力データを保持するソース・ファイルの特定のタイプです。値オブジェクトは、公開 (公開ビジネス・サービスで使用) か内部か、および入力か出力かを指定できます。値オブジェクトは、単純な要素および複雑な要素と、要素に対する付属情報から構成されます。
差異	JD Edwards EnterpriseOneキャピタル・アセット・マネジメントでは、1つの設備で発生した収益と、その設備に関連して発生した費用の差を意味します。 JD Edwards EnterpriseOneプロジェクト原価管理とJD Edwards EnterpriseOne製造管理では、同じ品目に対する2つの原価計算方式の間に生じる差異を意味します。たとえば、凍結標準原価と現行原価の差として設計差異が生じます。凍結標準原価は原価要素テーブルから取得され、現行原価は資材、工程、間接費の各レートを使用して計算されます。
公開ビジネス・サービスのバージョン	既存の機能/インターフェイスを変更せずに、他の機能/インターフェイスを公開ビジネス・サービスに追加することです。
バージョン・リストのマージ	バージョン・リストのマージを実行すると、新規リリースで有効なオブジェクトについて、非XJDEおよび非ZJDEバージョンのスペックとその処理オプション・データが維持されます。
ビジュアル・アシスト	ユーザーが各コントロールに属する有効なデータを判別できるように、コントロールからトリガーを介して起動できるフォームです。
用語一時変更	特定のJD Edwards EnterpriseOneフォームやレポートに表示される、データ辞書項目の代替的なラベルです。
wchar_t	ワイド文字の内部タイプです。国際市場向けの移植可能プログラムの記述に使用します。

Webアプリケーション・サーバー	Webアプリケーションと、電子商取引に使用されているバックエンド・システムおよびデータベースとの間で、データ交換を可能にするWebサーバーです。
Webサーバー	ブラウザから送信されたリクエストに応じて、TCP/IPプロトコルを使用して情報を送信するサーバーです。Webサーバーでは、ブラウザからのリクエストに応じるだけでなく、アプリケーションやデータの格納など、通常のサーバーが行うあらゆるタスクを処理できます。どのコンピュータでも、サーバーソフトウェアをインストールし、インターネットに接続すれば、Webサーバーとして使用できます。
WSDL (Web Service Description Language)	ネットワーク・サービスを記述するXML形式です。
WSIL (Web Service Inspection Language)	使用可能なサービスのサイトの検出を支援するXML形式、および検出に関連する情報の作成方法を示す一連の規則です。
Webサービス・プロキシ基盤	WAS上でWebサービスを使用するためにビジネス・サービス・サーバー・アーティファクトに含める必要のある、Webサービス・プロキシの基盤となるクラスです。
Webサービス・ソフトコーディング・レコード	Webサービス・プロキシの構成に使用する値が記述されたXMLドキュメントです。このドキュメントは、エンドポイントを特定し、条件付きでセキュリティ情報を含みます。
Webサービス・ソフトコーディング・テンプレート	ソフトコーディングされたレコードの構造を提供するXMLドキュメントです。
WHERE句	データベース操作の対象となるレコードを指定する、データベース操作の一部分です。
Windowsターミナル・サーバー	マルチ・ユーザー機能を持つサーバーで、単体ではWindowsソフトウェアを実行できない端末や最小限構成のコンピュータでも、このサーバーに接続することにより、Windowsアプリケーションを使用できます。すべてのクライアント処理は、Windowsターミナル・サーバーで集中的に実行されます。画面表示、キー入力、およびマウス操作のコマンドのみが、ネットワーク経由でクライアントの端末機器とターミナル・サーバー間で転送されます。
ウィザード	JDeveloperの拡張機能の1つで、一連のステップを順を追って説明します。
ワークベンチ	関連のあるプログラムのグループに対して、1つのエントリ・ポイントからアクセスすることを可能にするプログラムです。通常、ワークベンチからアクセスするプログラムは、大規模な業務プロセスに使用されています。たとえば、JD Edwards EnterpriseOne給与計算サイクル・ワークベンチ (P07210) を使用して、給与の計算、支給レポートの印刷、給与レポートの作成、仕訳入力の作成、給与履歴の更新に使用されるすべてのプログラムにアクセスできます。JD Edwards EnterpriseOneには、サービス管理ワークベンチ (P90CD020)、ライン・スケジューリング・ワークベンチ (P3153)、計画ワークベンチ (P13700)、監査人ワークベンチ (P09E115)、給与計算サイクル・ワークベンチなどが用意されています。
作業日カレンダー	JD Edwards EnterpriseOne製造管理で、計画の作成に使用されるカレンダーです。このカレンダーには作業日のみが列挙されるので、実際に稼働可能な日数に基づいて構成と作業オーダーのスケジュールを設定できます。作業日カレンダーは、計画カレンダー、製造カレンダー、または製造現場カレンダーと呼ばれる場合もあります。
ワークフロー	ビジネス・プロセスの一部または全体の自動化を意味します。自動化されたプロセス (ワークフロー) では、ドキュメント、情報、タスクが、指定された手順に従ってユーザーからユーザーへ渡されます。
ワークグループ・サーバー	マスター・ネットワーク・サーバーからレプリケートされたデータのサブセットが通常置かれるサーバーです。ワークグループ・サーバーでは、アプリケーションやバッチ処理は実行されません。
XAPIイベント	システム・コールを使用してJD Edwards EnterpriseOneのトランザクションを発生時に取得し、特定のトランザクションが発生した場合に、通知を要求した

	サード・パーティ・ソフトウェア、エンドユーザー、およびその他のJD Edwards EnterpriseOneシステムを呼び出すサービスです。
XML CallObject	ビジネス関数の呼び出しを行うためのインタオペラビリティ機能です。
XMLディスパッチ	JD Edwards EnterpriseOneで応答として受信するすべてのXMLドキュメントに対して、単一のエントリ・ポイントを提供するインタオペラビリティ機能です。
XMLリスト	JD Edwards EnterpriseOneデータベース情報を、チャンク単位でリクエストおよび受信することを可能にするインタオペラビリティ機能です。
XMLサービス	JD Edwards EnterpriseOneシステムからイベントをリクエストし、別のJD Edwards EnterpriseOneシステムから応答を受信するためのインタオペラビリティ機能です。
XMLトランザクション	事前に定義されたトランザクション・タイプを使用して、JD Edwards EnterpriseOneにデータをリクエストしたり、JD Edwards EnterpriseOneからデータを受信するためのインタオペラビリティ機能です。XMLトランザクションでは、インターフェイス・テーブル機能が使用されます。
XMLトランザクション・サービス (XTS)	JD Edwards EnterpriseOneのフォーマットではないXMLドキュメントを、JD Edwards EnterpriseOneで処理可能なフォーマットに変換するサービスです。変換されたドキュメントに対する応答は、発信元(変換前)のXMLフォーマットに変換されます。
Zイベント	インターフェイス・テーブル機能を使用してJD Edwards EnterpriseOneトランザクションを取得し、特定のトランザクションが発生した場合に、通知を要求したサード・パーティ・ソフトウェア、エンドユーザー、およびその他のJD Edwards EnterpriseOneシステムに通知するサービスです。
Zテーブル	JD Edwards EnterpriseOne以外のデータを保存し、JD Edwards EnterpriseOne用に変換できるワークテーブルです。JD Edwards EnterpriseOneデータの取得にもZテーブルを使用できます。Zテーブルはインターフェイス・テーブルとも呼ばれます。
Zトランザクション	JD Edwards EnterpriseOneデータベースで更新できるよう、インターフェイス・テーブルで正しくフォーマットされたサード・パーティのデータです。

索引

Customer Connection Webサイト xii
「EnterpriseOneシステム制御 —改訂」
フォーム 14
EnterpriseOneシステム制御プログラム
(P99410) 13, 14
F40095テーブル 89
F40711テーブル 12
F4211テーブル 12, 21, 77
f4277701テーブル 97
F4277701テーブル 53, 63, 65, 66, 97
F4277710テーブル 82
F4277711テーブル 53, 62, 63, 65, 66, 97
F4277750テーブル 40, 48, 50, 51
F99410テーブル 12
JD Edwards EnterpriseOneフルフィルメ
ント管理
機能 1
システムの有効化 11
製品概要 1
統合
JD Edwards EnterpriseOne価格管
理 6
JD Edwards EnterpriseOne在庫管
理 7
JD Edwards EnterpriseOne住所
録 6
JD Edwards EnterpriseOne受注管
理 7
JD Edwards EnterpriseOne倉庫管
理 7
JD Edwards EnterpriseOne電子デー
タ交換(EDI) 7
JD Edwards EnterpriseOne内示調整
管理 7
JD Edwards EnterpriseOne輸送管
理 7
概要 5
導入 7
導入手順
アプリケーション別 9
グローバル 8
受注管理に固有 8
はじめに 1
ビジネス・プロセス 3
利点 2

OneWorldシステム制御ファイル・テーブ
ル(F99410) 12
P03013プログラム 40
P4070プログラム 16, 35, 52, 101
P4071プログラム 16, 20
P4072プログラム 16
P4205プログラム 89
P4210プログラム 15, 16, 32, 37, 53, 56,
62, 69
処理オプション 33
P4277701プログラム 27, 28, 30, 32, 53,
54, 56, 61, 62, 69, 87
「検索」フォーム 91
処理オプション 88
「編集」フォーム 93
P4277720プログラム 76, 83
P4277750プログラム 48
P4277760プログラム 53, 57
P99410プログラム 13, 14
PeopleCodeの表記規則 xiv
R4277701プログラム 2, 27, 54, 56, 73,
75, 84
処理オプション 82
R4277702プログラム 34, 39, 50
処理オプション 50
プログラムの実行 50
R4277703プログラム 25, 53, 55, 57, 60,
82, 97, 100
処理オプション 100
プログラムの実行 100
R4277704プログラム 21, 26, 61
処理オプション 37
プログラムの実行 37
R4277705プログラム 34, 61, 66
処理オプション 68
R4277706プログラム 12
設定データの挿入 12
プログラムの実行 14
R4277711プログラム 75, 84
処理オプション 84
プログラムの実行 84

あ

アプリケーションの基礎 xi

か

価格調整タイプ・プログラム (P4071) 16
 関連ドキュメンテーション xii

き

「基本スコア設定」フォーム 49
 基本スコア設定プログラム
 (P4277750) 48
 基本フルフィルメント・スコア設定テーブル (F4277750) 40, 48, 50, 51
 共通フィールド xvi

け

警告 xv

こ

ご意見 xvi
 顧客マスター・プログラム (P03013) 40
 顧客優先順位 40
 設定 41
 ご要望 xvi

さ

サービス・レベル・ルール
 一時変更 69, 70
 一時変更処理 62
 一部引当ルール 57
 オーダー・カスタム関数ルール 58
 オーダー充填パーセント・ルール 55
 解決 62
 概要 53
 行カスタム関数ルール 58
 行充填パーセント・ルール 54
 処理 63
 設定 58
 動的な一時変更 63
 取消ルール 57
 要求されたオーダー数量の更新 63
 リリース・ルール 57
 サービス・レベル・ルールテーブル
 (F4277701) 53, 97
 「サービス・レベル・ルールの管理」フォーム 59
 サービス・レベル・ルールの管理プログラム (P4277760) 57
 サービス・レベル・ルールの更新プログラム (R4277705) 34, 61, 66
 処理オプション 68

「サービス・レベル・ルールの照会/一時変更」フォーム 70
 サービス・レベル・ルールの照会/一時変更プログラム (P4277711) 69
 サービス・レベル・ルールの処理 67
 サービス・レベル・ルール評価必須フラグ 64
 サービス・レベル・ルール・プログラム (P4277760) 53
 サービス・レベル・ルール見出しテーブル (F4277701) 63, 65, 66
 サービス・レベル・ルール明細テーブル (F4277711) 53, 62, 63, 65, 66, 97

し

自動フルフィルメント処理 73
 自動フルフィルメント処理プログラム (R4277701) 2, 27, 54, 56, 73, 75, 84
 処理オプション 82
 自動フルフィルメント・ロード・バランスのレポートの出力 76
 自動フルフィルメント・ロード・バランス・プログラム (R4277711) 75, 84
 処理オプション 84
 プログラムの実行 84
 充当丸め
 概要 80
 設定 81
 充当ルール
 概要 76
 シナリオ 77
 充当ルールの設定例 77
 設定 79
 充当ルール・プログラム (P4277720) 76, 83
 「充当ルール - ルールの追加」フォーム 79
 受注オーダー・スコア・バッチ処理プログラム (R4277702) 34, 39, 50
 処理オプション 50
 プログラムの実行 50
 受注オーダー入力プログラム (P4210) 15, 16, 32, 37, 53, 56, 62, 69
 処理オプション 33
 受注オーダー入力プロセスでのサービス・レベル・ルールの処理 61
 受注オーダー明細テーブル (F4211) 12, 21, 77
 出荷確認プログラム (P4205) 89
 詳細優先情報

概要 15
 処理 15, 16
 スケジュール 15
 設定 19
 タイプ 15
 定義 17
 データ・レコードの設定 12
 ドライバ・フィールド 12
 明細 15
 設定 20
 戻り値フィールド 12
 詳細優先情報スケジュールの改訂プログラム (P4070) 52, 101
 詳細優先情報の詳細の改訂プログラム (P4072) 16
 詳細優先情報名の改訂プログラム (P4071) 16
 詳細優先スケジュールの改訂プログラム (P4070) 16, 35

す

図

JD Edwards EnterpriseOneフルフィルメント管理システムの統合 6

スコア

概要 39

スコアの算出

基本

概要 48

設定 49

シナリオ 42

シナリオの表

計算されたスコア 44

割り当てられたスコアと加重率 43

詳細優先情報 42

せ

「請求情報」フォーム 41

製品ガイド

注文 xii

前提知識 xi

そ

相互参照 xv

ち

注意 xv

注意事項 xv

つ

追加ドキュメンテーション xii

て

デフォルト事業所/プリンタ・テーブル (F40095) 89

と

ドキュメンテーション

関連 xii

最新版 xii

ダウンロード xii

ドキュメンテーションのダウンロード xii

ひ

表記規則 xiv

ふ

フルフィルメント・エントリ・バッチ処理プログラム (R4277704) 21, 26, 61

処理オプション 37

プログラムの実行 37

フルフィルメントからのリリース・プログラム (R4277703) 25, 53, 55, 57, 60, 82, 97, 100

処理オプション 100

プログラムの実行 100

フルフィルメント管理の設定プログラム (R4277706) 12

設定データの挿入 12

プログラムの実行 14

フルフィルメント管理のビジネス・プロセス 4

フルフィルメント計画IDテーブル (F4277710) 82

フルフィルメント処理

Oracle Transportation Management 32

在庫管理 26

2重単位 27

キット 28

在庫引当優先情報 27

倉庫管理 31

内示調整管理 29

バッチ入力 26

輸送管理 30

フルフィルメント・ワークベンチ
 概要 87

「フルフィルメント・ワークベンチ - 検索」
フォーム
ヘッダー・セクション 91
「未充当顧客」セクション 93
未充当顧客の受注オーダー行セク
ション 93
「未充当品目」セクション 92
未充当品目の受注オーダー行セク
ション 93
フルフィルメント・ワークベンチ・プログラ
ム(P4277701) 27, 28, 30, 32, 53, 54,
56, 61, 62, 87
「検索」フォーム 91
処理オプション 88
「編集」フォーム 93
「フルフィルメント・ワークベンチ - 編集」
フォーム 94

ゆ

優先詳細値
オーダー・タイプ優先度(42)の設
定 44
行タイプ優先度(43)の設定 45
フルフィルメント・エントリ(41)の設
定 20
要求経過日数優先度(44)の設定 46
「優先情報詳細の改訂」フォーム 20
「優先スケジュールの改訂」フォーム 19
優先値定義テーブル(F40711) 12
「優先値の改訂」フォーム
オーダー・タイプ優先度(42) 45
行タイプ優先度(43) 46
充当丸め(45) 81
フルフィルメント・エントリ(41) 21
メッセージ通知(35) 99
要求経過日数優先度(44) 47
「優先定義の改訂」フォーム 18
優先定義プログラム(P4071) 20

れ

連絡先情報 xvi

